

厚生労働省 令和4年度 社会福祉推進事業

在留資格「介護」の実態把握及び活躍支援に向けた
調査研究事業
報告書

令和5年（2023年）3月

公益社団法人 日本介護福祉士会

目次

I. 事業概要	1
1. 目的	1
2. 事業内容	1
3. 実施体制	3
4. 検討委員会の開催	4
II. 在留資格「介護」とは	5
1. 在留資格「介護」の概要	5
2. 在留資格「介護」の在留者数	6
3. 養成施設ルート（留学生）の介護福祉士国家試験合格率	8
III. ヒアリング調査	10
1. 調査の目的	10
2. 調査概要	10
3. ヒアリングのまとめ	11
IV. アンケート調査	28
1. 調査の目的	28
2. 調査概要	28
3. 調査結果	30
V. 事例集の作成	43
1. 作成の目的	43
2. 事例集の構成	43
3. 事例集	43
VI. 在留資格「介護」の更なる活躍のために	58
1. ライフステージに応じた対応（施設・事業所）	59
2. キャリアパスを設けることの重要性（施設・事業所）	59
3. 不合格者・未受験者に対するフォロー（施設・事業所及び養成施設）	59
4. 日本介護福祉士会及び都道府県介護福祉士会が果たす役割（職能）	60
VII. 参考資料	62
1. ヒアリング調査個票	62
2. アンケート調査結果	105

1. 事業概要

1. 目的

介護職員として外国人を採用する際に、現在4種類の受入れ制度がある。その中の1つである、平成29年(2017年)9月に施行された在留資格「介護」は、専門的・技術的な分野に対する外国人を受け入れることを目的としており、介護の国家資格である「介護福祉士」を取得した方々の在留資格である。令和4年(2022年)6月時点で、在留資格者数は5,339名であり、年々増加傾向にある。これまでは介護福祉士養成施設(以下、養成施設とする)において必要な知識及び技能を修得し、介護福祉士の国家資格を取得する「養成施設ルート」が主流であったが、令和2年(2020年)4月より「実務経験ルート」が追加され、実務経験を経て資格取得した者も在留資格「介護」への移行対象となり、今後さらに増加が見込まれる。

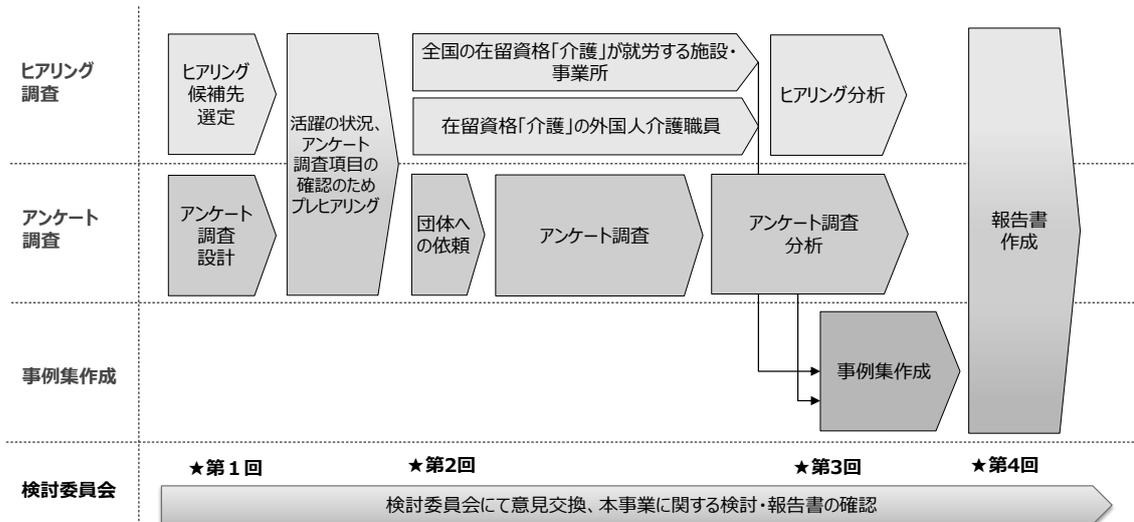
在留資格「介護」の方々は、介護福祉士国家資格の有資格者として、介護現場における外国人介護職員の中核としての活躍が期待され、中には管理職や後輩の育成に携わる者もいる。本調査研究事業では、在留資格「介護」で就労する外国人介護職員及び施設・事業所にアンケートやヒアリングを実施し、就労の実態把握を行うとともに、その結果を踏まえ、より一層の活躍支援に向けた方策を検討していくことを目的としている。

2. 事業内容

(1) プロジェクトアプローチ

本調査研究事業では、在留資格「介護」の就労の実態を明らかにするとともに、専門的な知識・技術を有する者として活躍するための方策を検討するため、探索的に全国の事例を収集し、アンケート調査にて実態を把握し、とりまとめた。

本調査研究事業の全体像



(2) ヒアリング調査

検討委員会の有識者や業界団体の紹介を受け、以下の施設・事業所の外国人介護職員及び施設の担当者（主に外国人介護職員の育成に関与している者）にヒアリングを実施した。なお、医療法人敬英会は外国人介護職員2名に対して、ヒアリングを実施した。

	ヒアリング対象	地域
1	社会福祉法人宮城福祉会 特別養護老人ホーム松陽苑	宮城県
2	社会福祉法人松栄会 特別養護老人ホームひまわりの丘	千葉県
3	社会福祉法人奉優会 港区立特別養護老人ホーム白金の森	東京都
4	特定医療法人財団五省会 介護老人保健施設みどり苑	富山県
5	医療法人敬英会 介護老人保健施設さくらがわ	大阪府
6	社会福祉法人正仁会 特別養護老人ホームなごみの郷	広島県
7	社会福祉法人厚仁会 特別養護老人ホーム珠光園	香川県
8	社会福祉法人リデルライトホーム 地域密着型ユニット型介護老人福祉施設ノットホーム	熊本県
9	社会福祉法人立志福祉会 特別養護老人ホーム輝祥苑	熊本県

(3) アンケート調査

全国で就労する外国人介護職員と施設・事業所に対して、アンケート調査を実施した。

① 調査対象

【外国人介護職員票】

アンケートに回答した施設・事業所に所属する在留資格「介護」の外国人介護職員

【施設・事業所票】

アンケートに回答した施設・事業所

※本調査の主な回答先は、アンケートに回答した施設・事業所のうち、在留資格「介護」の外国人介護職員が就労している43件

② 調査方法

WEB アンケート

※以下の団体に協力を依頼し、施設・事業所に周知した。

(全国老人保健施設協会、全国老人福祉施設協議会、日本介護福祉士養成施設協会、全国介護付きホーム協会、日本認知症グループホーム協会、全国有料老人ホーム協会 都道府県介護福祉士会)

③ 調査時期

2022年11月1日～2022年11月30日

④ 有効回答

【外国人介護職員票】136件

【施設・事業所票】179件（内、在留資格「介護」が就労している施設・事業所は43件）

3. 実施体制

本調査研究を効果的に実施するため、在留資格「介護」に精通する学識者、有識者等による検討委員会を下記の体制で設置した。

【検討委員会】

赤羽 克子	公益社団法人 日本介護福祉士養成施設協会 総務・政策委員会委員
◎伊藤 優子	龍谷大学 短期大学部 社会福祉学科 教授
今村 文典	公益社団法人 日本介護福祉士会 担当理事
武井 幸一	公益社団法人 国際厚生事業団 外国人介護人材支援部 主任
藤井 満美	公益社団法人 全国老人福祉施設協議会 外国人介護人材対策部会 副部会長
二渡 努	東北福祉大学 総合福祉学部 社会福祉学科 講師
光山 誠	公益社団法人 全国老人保健施設協会 人材対策委員会 人材対策部会長

（計7名、◎は委員長、敬称略、五十音順）

【オブザーバー】 厚生労働省

翁川 純尚	社会・援護局 福祉基盤課 福祉人材確保対策室 室長補佐
水津 秀幸	社会・援護局 福祉基盤課 福祉人材確保対策室 外国人介護福祉士支援係長
藤野 裕子	社会・援護局 福祉基盤課 福祉人材確保対策室 介護人材確保・広報戦略対策官

（敬称略）

【調査研究協力】 株式会社エヌ・ティ・ティ・データ経営研究所

足立 圭司	先端技術戦略ユニット アソシエイトパートナー
奈良 夕貴	先端技術戦略ユニット シニアコンサルタント
保坂 真名	先端技術戦略ユニット コンサルタント

4. 検討委員会の開催

調査検討委員会の開催実績は以下の通り。

- ・ 第1回 2022年8月2日（火）
- ・ 第2回 2022年10月13日（木）
- ・ 第3回 2023年1月19日（木）
- ・ 第4回 2023年3月9日（木）

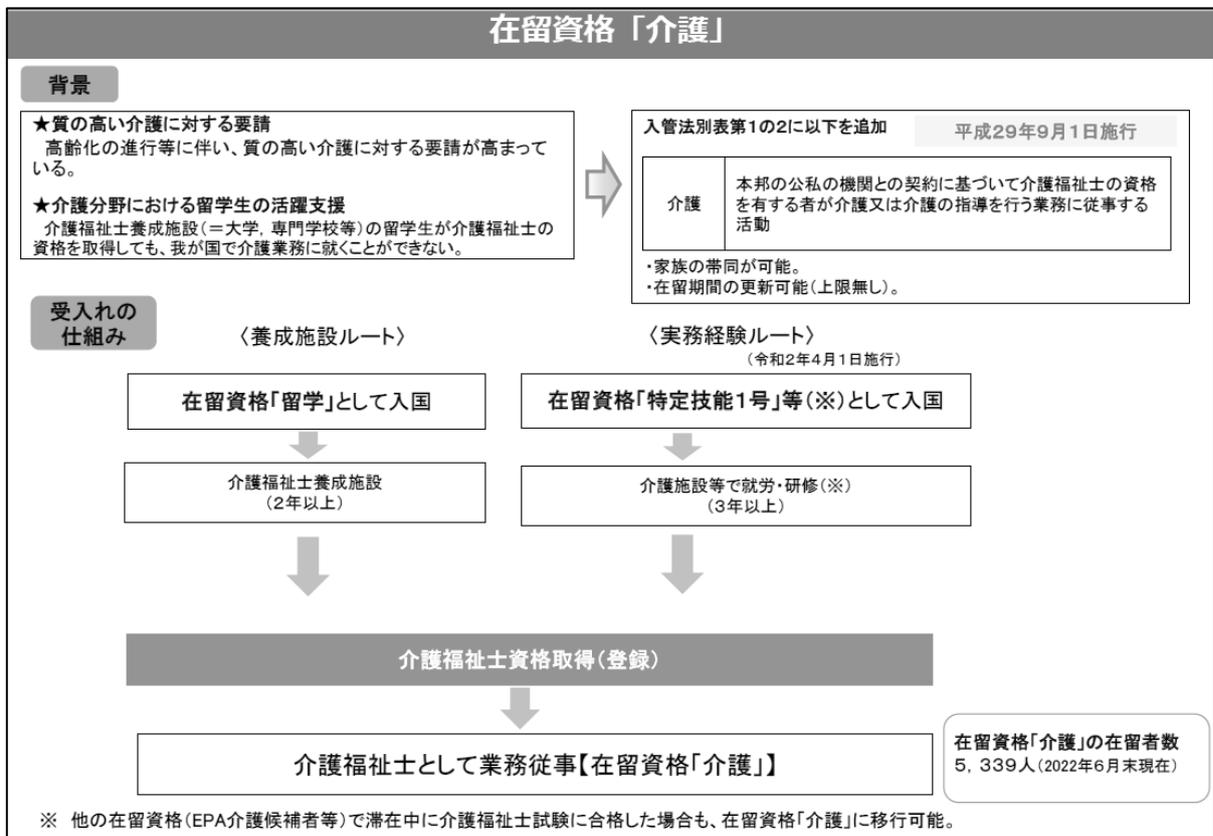
II. 在留資格「介護」とは

1. 在留資格「介護」の概要

平成 28 年（2016 年）11 月 28 日に「出入国管理及び難民認定法の一部を改正する法律」（平成 28 年法律第 88 号）が公布され、我が国の養成施設を卒業して介護福祉士国家資格を取得した留学生に対して、国内で介護福祉士として介護又は介護の指導を行う業務に従事することを可能とする在留資格「介護」が新たに創設され、平成 29 年（2017 年）9 月 1 日から施行された。

令和 2 年（2020 年）4 月 1 日からは、実務経験を経て介護福祉士国家資格を取得した方も、在留資格「介護」への移行対象となった。

在留資格「介護」の概要



出典：厚生労働省 HP 介護福祉士資格を取得した外国人の方に対する在留資格「介護」の付与について

なお、社会福祉士及び介護福祉士法等の一部を改正する法律（平成 19 年法律第 125 号）（以下「新法」という。）の施行により、平成 29 年 4 月 1 日から養成施設卒業者が介護福祉士となる（介護福祉士登録を受ける）には介護福祉士試験に合格しなければならない（新法第 39 条）が、新法の施行（平成 29 年 4 月 1 日）から令和 9 年 3 月 31 日までに養成施設を卒業した者については、介護福祉士試験に合格しなくても（不合格又は受験しなかった者）、卒業年度の翌年度から 5 年間は介護福祉士となる資格を有する者とする経過措置が設けられている。

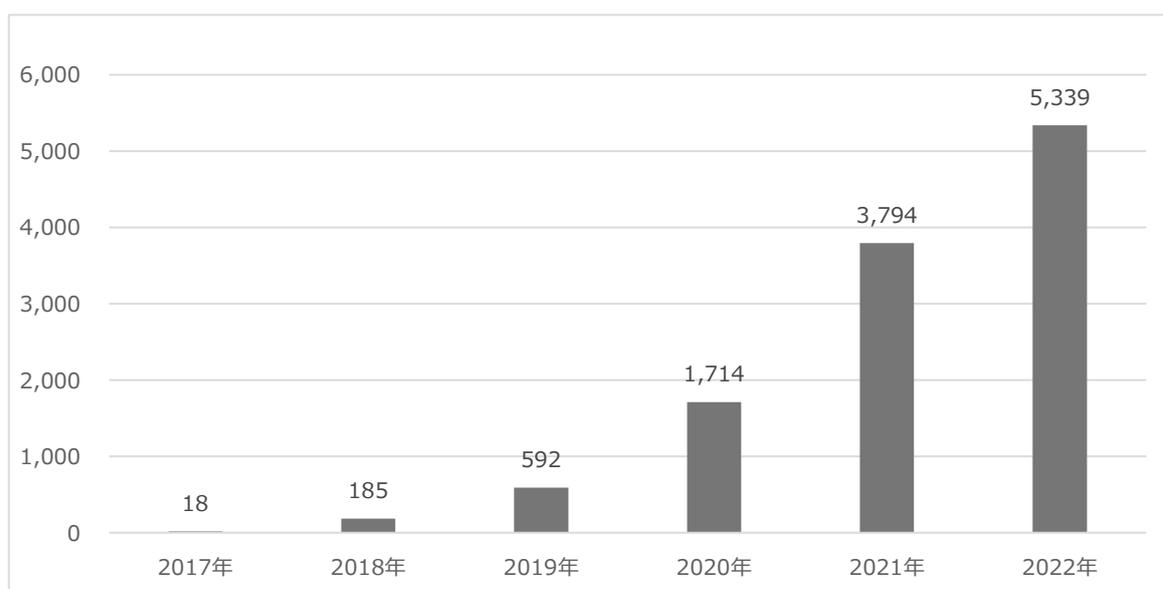
2. 在留資格「介護」の在留者数

制度創設後、在留資格「介護」の人数は右肩上がりであり、2022年6月末時点で5,339名が全国で就労している。国籍別で見ると、ベトナムが2,527名と全体の約半数を占めており、アジア圏内出身者が多い。

また、都道府県別では、大阪府にもっとも多く在留している。在留資格「介護」は養成施設ルートが主となることから、都道府県内の養成施設数の影響を受けると考えられる。特に、大阪府では公益社団法人大阪介護老人保健施設協会が、全国に先駆け、「大阪介護留学支援プログラム」を立ちあげ、留学生の受入れを行ってきたことも影響している可能性がある。

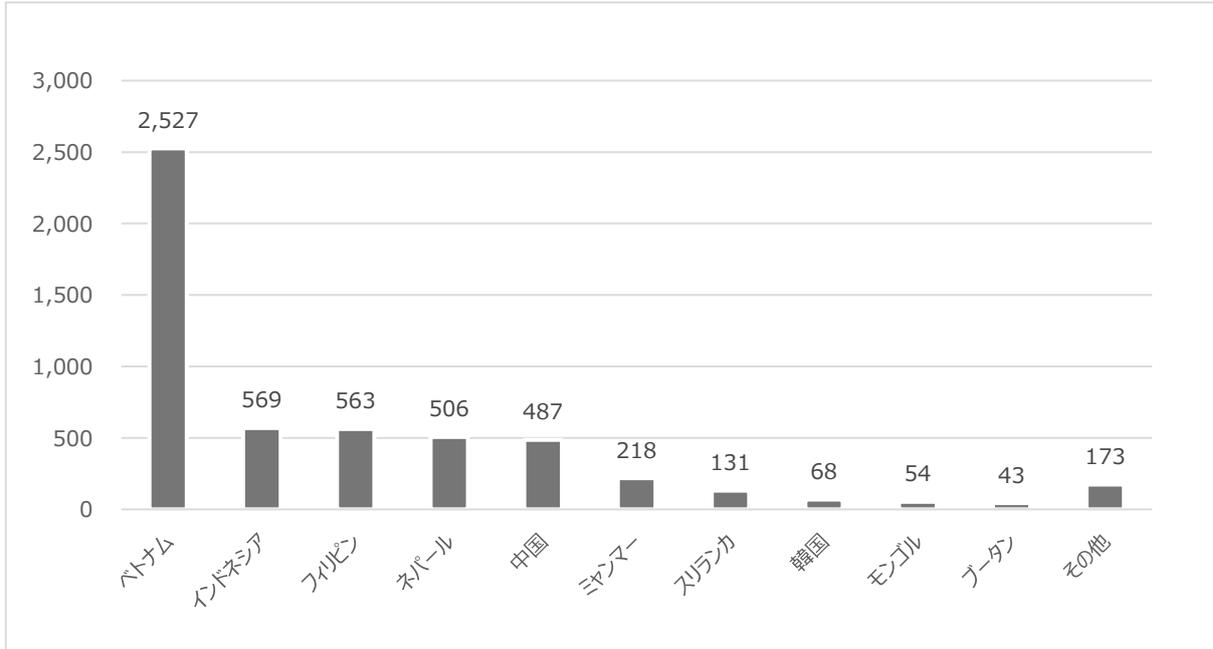
なお、多くの留学生は、「介護福祉士就学資金等貸付制度」を利用しており、養成施設に在学する期間に貸付を受け、卒業後に介護福祉士として、介護の業務に5年間勤務することで返済が全額免除される。各都道府県が貸付を行うことから、卒業後、同一都道府県内にて勤務することが条件となっている場合が多い。このため、養成施設がある所在地に在留資格「介護」の在留者数が多い傾向となる。

在留資格「介護」の在留者数



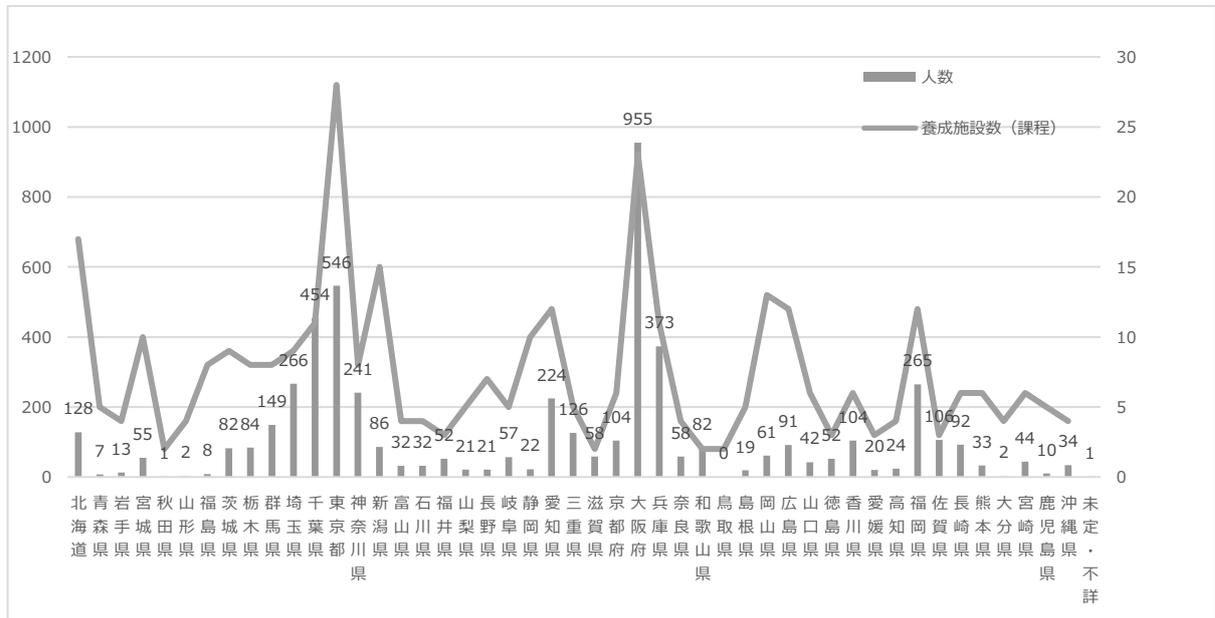
出典：在留外国人統計「国籍・地域別 在留資格別 在留外国人」2022年6月末時点

在留資格「介護」の国籍別人数（2022年6月末時点）



出典：在留外国人統計「国籍・地域別 在留資格別 在留外国人」2022年6月末時点

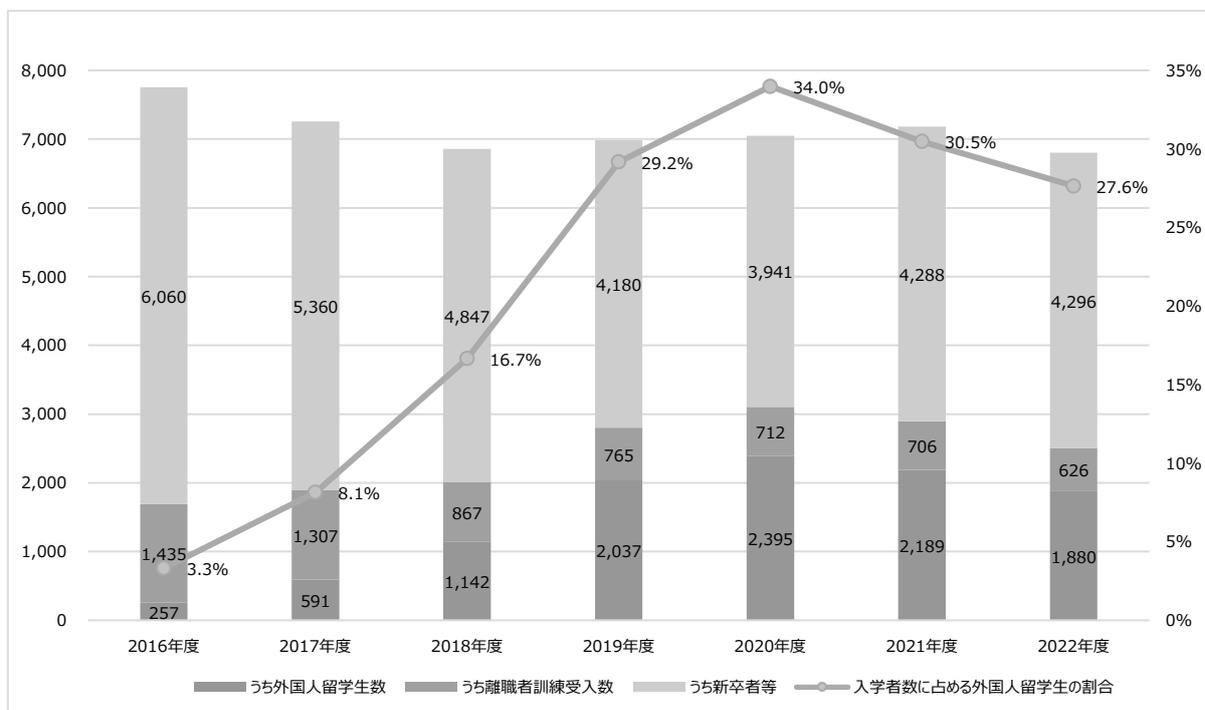
都道府県別の在留資格「介護」の人数と養成施設の課程数



出典：在留外国人統計「市区町村別 在留資格別 在留外国人」2022年6月末時点
厚生労働省 介護福祉士養成施設数（2022年4月1日現在）

また、養成施設の入学者に対する外国人留学生の割合は、2020年度まで増加の傾向にあった。2021年度、2022年度は新型コロナウイルス感染症による入国制限の影響で減少したと考えられるが、入国規制が緩和された2023年度以降は外国人留学生の割合が増加すると想定される。

養成施設の入学者と外国人留学生の推移



出典：日本介護福祉士養成施設協会調査より

3. 養成施設ルート（留学生）の介護福祉士国家試験合格率

現在、在留資格「介護」で在留する者の多くが、養成施設ルートであるが、留学生の介護福祉士国家試験の合格率は3割程度である。令和9年3月31日までに養成施設を卒業した者については、介護福祉士試験に合格しなくても（不合格又は受験しなかった者）、卒業年度の翌年度から5年間は介護福祉士となる資格を有する者とする経過措置が設けられている。現在在留する「介護」の養成施設ルートには、合格者に加え、不合格者や未受験者も含まれていることとなる。厚生労働省の「学校種別 令和3年度介護福祉士国家試験受験率及び合格率」によると、令和3年度に養成施設を卒業した留学生2,265名のうち、2,046名が受験しており、受験率は90.3%であった。

なお、外国人介護人材の合格率でいうと、経済連携協定（EPA）に基づく外国人介護福祉士候補者の合格率は約5割である。養成施設は経過措置後に向けて、合格者を増やす方策を検討する必要がある。

養成施設ルート受験者数・合格者数・合格率

養成施設ルート（留学生受験者）

		総数			新卒			既卒			学校数
		受験者数	合格者数	合格率	受験者数	合格者数	合格率	受験者数	合格者数	合格率	
第34回	R4	2,615	657	25.1	2,053	616	30.0	562	41	7.3	186校
第33回	R3	1,895	646	34.1	1,652	606	36.7	243	40	16.5	167校

養成施設ルート（全体）

		総数			新卒			既卒			学校数
		受験者数	合格者数	合格率	受験者数	合格者数	合格率	受験者数	合格者数	合格率	
第34回	R4	7,144	4,667	65.3	6,226	4,501	72.3	918	166	18.1	359校
第33回	R3	6,452	4,766	72.9	5,907	4,595	77.8	635	171	26.9	359校

出典：第33・34回介護福祉士国家試験養成施設等別合格率（厚生労働省）

（参考）EPA介護福祉士候補者の合格者数・合格率

		全体			初受験者			再受験者		
		受験者数*	合格者数	合格率	受験者数*	合格者数	合格率	受験者数*	合格者数	合格率
第34回	R4	1,014	374	36.9	656	314	47.9	358	60	16.8
第33回	R3	953	440	46.2	661	350	53.0	292	90	30.8

*受験者数は、以下の公開情報（合格者数、合格率）をもとに算出している。

出典：第34回介護福祉士国家試験におけるEPA介護福祉士候補者の試験結果（厚生労働省）

III. ヒアリング調査

1. 調査の目的

在留資格「介護」で就労する外国人介護職員の実態を把握するため、外国人介護職員及び施設・事業所の担当者（主に外国人介護職員の育成に関与している者）にヒアリングを実施した。特に、外国人介護職員が活躍するために施設・事業所が行っているサポートや本人のモチベーション、今後の目標、活躍に必要な環境や支援等を確認する。

2. 調査概要

① 調査対象

検討委員会の有識者や業界団体の紹介を受け、以下の施設の外国人介護職員及び施設の担当者（主に外国人介護職員の育成に関与している者）にヒアリングを実施した。なお、医療法人敬英会は外国人介護職員2名に対して、ヒアリングを実施した。

在留資格「介護」に至るまでの経緯は様々であることから、できる限り、在留資格の変移が異なる者を対象とした。

	ヒアリング対象	地域	外国人介護職員 国籍／来日年／在留資格の変移
1	社会福祉法人宮城福祉会 特別養護老人ホーム松陽苑	宮城県	インドネシア・2010年 EPA介護福祉士候補者→帰国→ 在留資格「介護」（試験合格）
2	社会福祉法人松栄会 特別養護老人ホームひまわりの丘	千葉県	ベトナム・2013年 留学→在留資格「介護」（試験合格）
3	社会福祉法人奉優会 港区立特別養護老人ホーム白金の森	東京都	インドネシア・2014年 EPA介護福祉士候補者→在留資格 「介護」（試験合格）
4	特定医療法人財団五省会 介護老人保健施設みどり苑	富山県	モンゴル・2020年 留学→在留資格「介護」（経過措置）
5	医療法人敬英会 介護老人保健施設さくらがわ	大阪府	ベトナム・2016年 留学→在留資格「介護」（経過措置）
6	医療法人敬英会 介護老人保健施設さくらがわ	大阪府	ベトナム・2016年 留学→在留資格「介護」（経過措置）
7	社会福祉法人正仁会 特別養護老人ホームなごみの郷	広島県	インドネシア・2019年（2回目） EPA介護福祉士候補者→帰国→技能 実習（介護）第2号→在留資格「介 護」（試験合格）
8	社会福祉法人厚仁会 特別養護老人ホーム 珠光園	香川県	フィリピン・2019年（2回目） 技能実習→帰国→留学→在留資格 「介護」（試験合格）
9	社会福祉法人リデルライトホーム 地域密着型ユニット型介護老人福祉施設 ノットホーム	熊本県	ベトナム・2015年 留学→在留資格「介護」（試験合格）
10	社会福祉法人立志福祉会 特別養護老人ホーム輝祥苑	熊本県	ネパール・2017年 留学→在留資格「介護」（試験合格）

② 調査方法

訪問またはWEBでヒアリングを実施

③ 調査項目

主な調査項目は、以下の通りである。

大項目	外国人介護職員向け	施設・事業所向け
基本情報	<ul style="list-style-type: none">・ 国籍・ 現在の在留資格・ 現在の日本語能力・ これまでの経緯・ 生活の状況	<ul style="list-style-type: none">・ 外国人介護職員の就労状況・ 法人の方針
活躍の実際 (特徴)	<ul style="list-style-type: none">・ 現在の立場・ 業務内容・ 日本人職員との業務や処遇の違い・ モチベーション	<ul style="list-style-type: none">・ 「介護」の方の施設内における立場・ 「介護」の方の業務内容・ 日本人職員との業務や処遇の違い・ キャリアパス・ 活躍の状況・ 期待すること
支援内容 (工夫)	<ul style="list-style-type: none">・ 介護福祉士に合格するまでの勉強方法・ 欲しかった支援	<ul style="list-style-type: none">・ 業務面での支援・ 日本語学習面での支援・ 生活面での支援・ 本人のモチベーション維持
受入れによる変化	<ul style="list-style-type: none">・ 介護福祉士合格(取得)前後の変化	<ul style="list-style-type: none">・ 受入れによる施設の変化・ 職員の変化・ 「介護」の方の本人の変化
課題	<ul style="list-style-type: none">・ 現在仕事で困っていること・ 現在生活で困っていること・ 相談先	<ul style="list-style-type: none">・ 雇用する際の課題・ 働きはじめてからの課題
その他	<ul style="list-style-type: none">・ 現在の目標・ 今後の意向・ 他の在留資格の方との関係性・ これから「介護」を目指す方に伝えたいこと	<ul style="list-style-type: none">・ 外国人介護職員全般に期待すること・ 「介護」を増やすための方策・ 今後、「介護」の方が活躍するために必要なこと

3. ヒアリングのまとめ

(1) 外国人介護職員

【活躍の実際】

① 介護職を選んだ理由

今回ヒアリングした外国人介護職員の多くは、母国にて看護系大学等を卒業しており、看護師を目指していた者や、看護に関心があった者が多かった。そのため、当初の希望は看護分野での就労であったが、介護のほうが就職しやすいといった理由から介護職を選んでいる者が複数いた。また、日本に来日してから、日本語学校の先生等から介護の仕事を紹介された者もあり、介護職を選んだ理由は様々である。母国にいる時点で介護について理解していた者は1名のみであり、ほとんどが日本に来てから介護を学んでいた。

外国人介護職員が介護職を選んだ理由は様々であるが、全員が介護に関わるうちに興味・関心を持っており、現在は前向きな気持ちで介護に向き合っていることがわかった。

- ◇ 最初は、ベトナムと日本の介護の違いはわからなかった。病院で働き、看護師と同じような仕事かと思っていた。せっかく介護を勉強したから、資格をとって頑張ってみようと思った。(リデルライトホーム・I)
- ◇ 看護師になりたかったが、フィリピンに帰国した際に、介護の仕事を紹介された。看護よりも日本の介護の方が就職しやすく、家族の経済状況を考えると介護が良いと思った。介護の仕事はゼロからのスタートであったため難しかったが、今はだいぶ慣れた。(厚仁会・H)
- ◇ ベトナムにいた当時は介護について知らなかった。日本に来てから、友達や日本語学校の先生に教えてもらい介護の仕事を知った。日本で働き続けたいし、おじいちゃん、おばあちゃんも好きなので、介護の仕事を選んだ。介護の仕事は大変だと先生から言われたけれど、介護に限らずどの仕事も大変だから、そこは気にならなかった。(松栄会・B)
- ◇ 大学卒業後、仕事を探していた際に、EPA 看護・介護の仕事をたまたま見つけ、申込みを行った。大学時代は看護の勉強をしており、インドネシアの看護師資格を持っている。そのため、看護の仕事に興味があった。EPA 看護師は2年の実務経験が必要であったため応募ができなかったが、介護は未経験でも応募ができた。インドネシアに介護施設が無かったため、応募した時は介護がなにかは分からなかった。(奉優会・C)

② 就労先を選んだ理由

今回ヒアリングした外国人介護職員は、「留学→在留資格「介護」」のルートの者が多く、留学生のころからアルバイトとして同一の就労先で働いていたケースが多かった。また、自治体と法人から奨学金の貸付を受けている者や、母国にいる時点で就労先が決まっていた者も多かった。母国での就労先の決め手は、面接や施設・事業所のホームページから、人間関係がよさそう、施設・事業所の雰囲気よさそうと感じたという意見があった。母国で就労先が決まっていなかった者は、実習を通して職場の雰囲気がよいと感じた、と回答していた。

EPA 介護福祉士候補者として来日したが、介護福祉士国家試験に不合格だったため一度帰国した者は、再来日の際には「介護福祉士国家試験に絶対に合格したいため、そのサポートがある施設を選んだ」と回答しており、施設・事業所でのサポート体制も就労先を選ぶ理由となっていることがわかった。

- ◇ 給料よりも人間関係が良いところを選んだほうが良いと聞いて、リデルライトホームは人間関係が良さそうで長く働けると思った。(リデルライトホーム・I)
- ◇ モンゴルにいるときにオンラインでみどり苑と面接をしたが、当時は施設のことはよくわからず、インターネットで探して、いいところなのかなと思い選んだ。実際、本当にいいところだった。(五省会・D)
- ◇ 専門学校の実習で、施設の雰囲気がよく就労したいと思った。(松栄会・B)
- ◇ 日本で介護福祉士に絶対に合格したいと思っていた。なごみの郷は合格を応援、サポートしてくれるから選んだ。(正仁会・G)

③ 現在の立場・働き方

ヒアリングをした外国人介護職員は、役職にはついていない者が多かったが、ユニットリーダーや主任として活躍しているケースもあった。リーダー（各階に1-2名、事業所全体で7名）を任されている外国人介護職員は、最初にリーダーになることを伝えられた際、同施設で初めての外国人のリーダーだったため、自分には無理だと思ったという。しかし、上司や周りの職員から応援の言葉をもらい、支えてもらったから頑張れたと語っていた。現在は、同じ国籍の外国人介護職員の指導や相談対応、通訳、日本人職員への指導を行うなど活躍しており、初めは自信がない場合でも、周囲の職員の理解やサポートを得ながらリーダーとして活躍できることがわかった。

また、主任（職員22名の指導を担当）として働いている外国人介護職員は、主任になってから1年半程度の産休・育休を取得し、現在は時短勤務で働いている。育児と介護の仕事との両立をしながら働く様子は、他の外国人介護職員にとって、今後結婚、妊娠、出産といったライフステージが変化する中でも、日本で働き続けるうえでのロールモデルになっている可能性がある。

- ◇ 4月からリーダーをしている。リーダーになってほしいと言われたときは、他に外国人でリーダーしている人がいなかったため「無理だ」と思った。今は、なんとなくできているが、周りの人にも支えてもらっている。リーダーは責任を持っているから、色々考えなければいけないし、しっかりしないといけない。（敬英会・E）
- ◇ リーダーになることを言われた時は日本人のほうが良いと思ったが、主任から「職員にベトナム人が増えているので、大丈夫。応援する。」と言われた。今は同じベトナムの後輩たちの通訳もしている。（敬英会・F）
- ◇ ユニットリーダーと、海外人材の担当をしている。外国人介護職員で初めてのリーダーだった。リーダーになったときはキャリアの面でも嬉しかった。周りの人から大丈夫だよと励ましてもらった。（宮城福社会・A）

④ 仕事のやりがい

利用者との関わりや、利用者からの感謝の言葉がやりがいとなっているという意見が多くの外国人介護職員から聞かれた。また、介護の技術を高めることや介護職が専門職であることが、やりがいにつながっているという意見もあった。

外国人介護職員の後輩たちを介護職員としてフォローできることがやりがいになっているという意見も複数聞かれた。施設・事業所内で初めて外国人介護職員の役職者となり、主任として活躍している外国人介護職員は、記録チェックやケースチェックといった主任ならではの業務や、職員22名の指導、技能実習生への指導も行っていた。彼女はフロアで一番長く勤務する職員で頼られる存在となっており、日本人職員が心配になるほど、ほかの外国人介護職員をサポート、ケアしているという。彼女は、自分自身が外国人介護職員の先輩からあまりサポートを受けられなかったり、自分から他の職員に質問をしにくかったりした経験から、現在自分が受けたかったサポートを外国人介護職員に提供できることがやりがいになっていると語っていた。外国人介護職員が職場で感じた必要なケアやサポートを後輩の外国人介護職員に提供できることが、本人のやりがいや達成感につながっていることがわかった。

- ◇ 利用者に毎日会えて、レクリエーションで笑顔になってくれると嬉しい。自分がその笑顔を作るのに関わることができるのが嬉しい。(松栄会・B)
- ◇ 利用者が日本語や日本について教えてくれたりしている。(五省会・D)
- ◇ 主任になって、外国人介護職員の指導ができるのはよかったと思っている。外国人介護職員から相談しやすいという言葉ももらっている。先輩の外国人介護職員はあまりサポートしてくれなかったし、自分もあまり聞けなかった経験がある。インドネシア人のみならずベトナム人からも、Cさんがいるから安心と言われる。外国人介護職員のお母さんのような存在になっている。サポートをしすぎていて、日本人職員から心配されるくらいである。(奉優会・C)
- ◇ 介護は技術も必要で、専門職であることにやりがいを感じている。人間関係や色々な日本人の生活、利用者の生活や文化、制度なども勉強になる。介護職員として後輩たちのフォローができることもやりがいになっている。(宮城福祉会・A)

⑤ 介護福祉士取得後の変化

介護福祉士取得の前後で特に変化や違いを感じないという意見が多い傾向にあったが、介護福祉士の資格を持っていると手当が上がるといった待遇に関する変化や、根拠を理解できたことで、自信をもって指導できるようになったと語った外国人介護職員もいた。また、業務の理解が進んだだけでなく、合格後には会議やユニットの委員会などの記録も任されるようになったため、記録面での日本語能力の向上を感じたという意見もあった。介護福祉士国家試験合格のために勉強することや試験合格後の業務の変化によって、外国人介護職員の業務への理解の深まりや自信につながっていることがわかった。

また、資格を取得したことで「介護過程」への理解が深まり、「介護過程」を通して利用者のニーズに対応することができるようになったという、介護福祉士取得による介護の専門性向上に関する意見も聞かれた。在留資格「介護」の外国人介護職員が有する介護に対する専門性の高さがうかがえたといえる。

- ◇ 他の職員を指導する際に、以前は根拠がわからなかったが、勉強して知識が増えたので、理由がわかるようになった。介護福祉士合格後には、自信をもって「これは実は駄目よ」と理由と合わせて指導できるようになった。(正仁会・G)
- ◇ 資格を持っていると、「介護過程」を考えて支援することができる。利用者のニーズに対して「介護過程」を展開するためには、勉強をして介護福祉士をとってからでないと難しいと思う。(立志福祉会・J)
- ◇ 合格前から、通常の記録業務や利用者の担当をしていたが、合格後は介護の記録、会議やユニット委員会の記録を担当している。合格したことで業務の理解が深まっただけでなく、日本語能力が上がったと思う。(宮城福祉会・A)

【支援内容】

① 介護福祉士国家試験に関する支援

介護福祉士国家試験のための支援は施設・事業所で特段用意されていなかったため、自分で試験対策をしたという意見が複数あったが、施設・事業所から支援があったケースでは、多様な支援の内容が語られ、施設・事業所ごとに特色ある支援が行われていることが明らかとなった。具体的には、先輩職員との一対一での勉強会の実施、模擬試験の実施、講師の来訪による勉強会の提供、翻訳付きの本やテキストの配布、介護福祉士国家試験の受験費用負担、受験申し込み等の手続きなどがあった。また、留学生の頃に同一の施設・事業所でアルバイトをしていた際、国家試験の前には休みを増やしてもらったという意見もあった。留学生の時から施設・事業所でアルバイトをしている場合は、試験前はアルバイトと試験勉強の両立が難しかったためアルバイトの調整があればよかったという意見や、試験のため勤務時間内に勉強の時間が欲しかったという意見もあり、勉強時間の確保は外国人介護職員にとって魅力の高い支援であるといえる。

- ◇ 生活相談員と一緒に勉強をした。1回1時間くらいで大体週に1回ほど。模擬試験（法人が開催）もあり、ありがたかった。（正仁会・G）
- ◇ アルバイト時代は、試験前に休みを増やしてもらった。（立志福祉会・J）

② 介護福祉士国家試験以外の支援

介護福祉士国家試験対策以外の学習に関する支援では、日本語や介護技術についての学習支援の提供や、勤務中に勉強時間を確保する取り組みがあるという回答があった。また、母国に一時帰国する際の休暇を取りやすくするといった配慮があり、モチベーションにもつながっているという意見もあった。外国人介護職員がイスラム教を信仰している場合は、ラマダン中のシフトの考慮や、ラマダン中は入浴介助を免除するといった業務面での配慮も行われていた。

EPA 介護福祉士候補者として別施設で働いていたことがある外国人介護職員は、当時の就労施設では、4年間ジルバブをかぶって通勤し、施設ではジルバブを脱いで働いており、お祈りの時間も作ってもらえなかったと語っていた。今回のヒアリングでは聞かれなかったが、施設・事業所が外国人介護職員の文化・宗教上の状況や対応を理解していないケースもあると思われるため、施設・事業所側の理解を高めていくことが、今後の課題であるといえるだろう。

- ◇ 日本語と介護技術の学習支援が行われている。（奉優会・C）
- ◇ 帰国がしやすいように調整してくれる。（宮城福祉会・A）
- ◇ まだ母国には帰っていないが、帰る時は1か月程度の休暇を取っても良いと言われている。（立志福祉会・J）

③ 欲しかった支援・今後あるとよい支援

介護福祉士国家試験に関して欲しかった支援としては、国家試験のための勉強会の実施、講師による勉強会の実施、母国語での翻訳教材の提供、国家試験受験料の費用負担、勤務時間内

の勉強、勉強時間確保のためのアルバイトの調整などがあつた。受験料の費用負担については、試験を毎年受けたいものの金銭的負担が大きいため数年に1度の受験に留まっており、可能であれば毎年受験したいという意見もあつた。勤務時間内での勉強については、上限時間を設けて実施している法人もあるため、外国人介護職員にとっても魅力が高く、今後広まりが期待される支援であるといえる。

介護福祉士国家試験対策以外では、Youtube やアプリでの自力での日本語学習には限界があるため、1、2時間でも対面での授業があると良いという意見や、日常会話以外の文法など日本語能力試験に特化した試験対策としての日本語を学びたいという意見など、日本語の勉強についての要望も複数あつた。業務を遂行できる日本語能力がある場合でも、日本語の勉強についての支援は需要があることがわかつた。

介護に関する学習面では、感染症対策、認知症ケア、薬などの専門知識、介護の専門用語を学びたいという意見もあり、在留資格「介護」の職員の有する介護の業務能力向上への意欲の高さがうかがえた。

業務面では、来日当初は日本語能力がそこまで高くないため、マニュアルや資料も母国語で用意されていると良かったという意見や、日本語の記録は難しく介護記録に時間がかかつた、事故報告書の記載が難しいという意見も多くあつた。母国語での業務マニュアルの提供や、日本語での記録についての学習機会の提供や支援は需要があるといえるだろう。

- ◇ 介護福祉士国家試験のため、介護保険制度や介護技術などの先生がいると良かった。(奉優会・C)
- ◇ 介護福祉士受験費用を支援してくれると嬉しい。受験料が高い。支援があつたら毎年受験したいと思う。本当は先生から直接教えてもらいたいが、難しければベトナム語の翻訳があると良い。勤務時間に勉強できたら嬉しい。(敬英会・F)
- ◇ 介護の言葉の学習支援が整備されていればよいと思う。介護記録を学びたい。(厚仁会・G)
- ◇ 介護記録や事故が起きたときの記録の勉強があるとよい。看護学校を卒業している外国人介護職員が多いため、介護の仕事自体は把握しているが、記録は難しい。書き言葉と話し言葉は全く違う。また、来日時は日本語のレベルも今ほど高くないので、マニュアルや資料が母国語でもあつたと良かった。(宮城福祉会・A)

④ 相談先

外国人介護職員が困つたことがあるときは、同国出身の先輩職員にいつも相談しているという意見や、日本人職員含め職場のリーダーや主任、事務職員など、同じ職場の職員に相談しているという意見が多かつた。外国人支援センター、サポートセンター等の外部の相談先については、利用したことがない、そもそも存在を知らなかつたという意見も多かつた。今回のヒアリングでは、施設・事業所での人間関係が良好で同じ職場の職員に相談できる環境にある外国人介護職員が多かつたが、必ずしも相談できる人が周りにいるわけではない場合もあると思われるため、外国人支援センター、サポートセンター等の外部の相談先についての周知が必要であるといえる。

施設・事業所以外の相談先については、養成施設の先生や友人に相談すると語つた者も複数

いた。養成施設で試験合格のため一緒に勉強した友人とのつながりが今でもあるという意見もあり、養成施設からの関係性が卒業後も外国人介護職員の支えになっていることがわかった。

また、外国人介護職員が先輩の外国人介護職員に安心感をもらったように、自分自身も同じ施設・事業所の後輩の相談相手になり安心してほしいという意見や、現在、すでに後輩の外国人介護職員たちの面倒を見たり相談に乗っているという回答もあった。外国人介護職員が他の外国人介護職員のサポートを希望し、相談相手となっているケースがあることも分かった。

- ◇ 今、困っていることはない。この施設は何でも教えてくれている。(敬英会・E,F)
- ◇ 学校の先生や周りに相談できる人がいる。(松栄会・B)
- ◇ 学生の際は学校の先生に相談していた。現在は相談先が決まっていないが、学生の頃から主任と良い人間関係ができているため、主任が一番相談しやすい。(厚仁会・H)
- ◇ 職場に同国出身の先輩職員がいて安心したように、自分もこれから日本に来る後輩たちを支えたいと思う。(立志福祉会・J)

【将来】

① ロールモデルの存在

モンゴル出身の外国人介護職員は、職場にいる同じモンゴル人の先輩にわからない言葉や業務について質問しており、先輩の仕事の様子を見たり聞いたりする中で、自分自身の仕事上の目標を決めていると語っていた。また、1学年上で同じ養成施設出身の外国人介護職員の先輩がいる者は、先輩の利用者との接し方、働き方や言葉遣いが丁寧であるため、自身の目標にしているという。同年代の日本人職員が、仕事のスピード、ケアが上手であるため、業務を行う上でのモデルになっていると話した者もいた。外国人介護職員が、職場にいる同国の先輩職員や日本人の同年代の職員から刺激を受けたり、仕事を行う上での目標にしてモチベーションを得たりするなどして、自身の業務遂行や成長に役立てていることが分かった。

- ◇ モンゴル人の先輩にいろいろなわからない言葉や仕事について聞いているため、それを聞いたうえで、自分の目標を決めている。がんばってこれをしよう、など。(五省会・D)
- ◇ 自分と同じ年の日本人職員で、魅力があり、仕事も早く、ケアも上手なモデルとなる職員がいる。生活面でも仕事面でも相談できる人である。(松栄会・B)

② リーダー

現時点ではリーダーになりたいとは思えない、まだリーダーになることに不安という意見が多かった。理由としては、リーダーになると日本人職員にも指導しなければいけないことや、リーダーの業務は利用者や職員、職場全体のことを考えなければならず広範な視野が必要な業務をすること、現職場で外国人介護職員のリーダーがいないことなどが語られた。しかし、将来自分と同じ国籍の外国人介護職員が増えた場合は、外国人介護職員たちのリーダーや担当をしてみたいという意見や、まだ施設で外国人のリーダーはいないが、自分がなれるかもしれないと思っている、という意見も聞かれた。リーダーに求められる資質や業務に対して、現時点

では務まるか自信を持っていないものの、外国人介護職員のまとめ役など自身の経験や強みが活かされる状況では必ずしも後ろ向きではないことがわかった。

- ◇ リーダーになることを想像してみたけど、まだ難しいと思う。リーダーはこの施設では結構偉い人。「この利用者は、いつもこの時間に寝るのに違う時間に寝るにはなぜか」と考えたり、この職員が元気ないというのを気にしたり、今日はこのユニットは人が少ないからどうすれば良いかをすぐに考えたりしないといけない。リーダーの仕事は見ていて理解できるが、自分は外国人ということもあり、まだ言葉に誤解が生じてしまうのではないかと思う。(リデルライトホーム・I)
- ◇ インドネシア人が増えた場合、インドネシア人のリーダーや担当はやってみたいと思うが、日本人の指導は自信がない。(正仁会・G)

③ 将来のキャリア

将来の展望は、通訳、ケアマネジャー、看護の資格取得など、人によってさまざまである。介護の仕事が合っていると思うため介護の仕事を続けたいという意見や、職場との関係が良い、生活が安定している、日本人と変わらない給与を得られる等の理由で、当面は今の職場で働き続けたいという意見も多かった。将来は母国に帰国することを検討している者も複数いたが、母国で介護の専門性を生かせる仕事をするのを希望しているため、今は日本で働き、いろいろな経験をしたという回答であった。

母国で看護の資格を有している外国人介護職員は、介護施設で利用者とコミュニケーションをとって支援ができることにやりがいを感じているため、将来は日本でも看護の資格を取得し、介護施設で看護の資格も生かした仕事をするのを希望していた。看護と介護の両方の知識や経験を有した、高度な専門人材として活躍を希望しているケースがあることが分かった。

- ◇ まだベトナムには介護がない。ほとんど看護。そのため、母国の専門学校等で介護を教えたい。高齢者も増えてきている。(敬英会・E,F)
- ◇ 最終的には、日本に来る実習生等のために通訳になりたい。介護を学ぶ人たちの通訳をしたいが、介護以外でも良いと思っている。(立志福祉会・J)
- ◇ 同じ施設で介護職を続けたいと思っている。正職員として働けるこの仕事の方がよい。日本の子育ての制度等が整っていることや、正職員として働けば、日本人と変わらない給与を得られるため、将来も日本での生活を続けていきたいと思う。(厚仁会・H)
- ◇ 日本で働きたい人に日本語を教えたり、介護の知識や技術を教える学校をインドネシアでつくりたい。(宮城福祉会・A)

【課題】

現時点で困っていることはないという意見が多い傾向があるが、生活の場面では困らないものの、介護の現場で専門用語などの日本語がわからないことや、方言に戸惑うことがあるという意見もあった。

在留資格の制度面では、在留資格「介護」で複数年就労していてもビザの更新頻度が1年ご

とになっており、在留資格「介護」に切り替えるメリットがなくなりつつあるという意見もあった。在留期間が1年の場合、クレジットカードの手続きや銀行のアプリの利用制限などがあることに加え、更新のたびに運転免許証・マイナンバーカードの更新も必要であり、外国人介護職員にとって負担になっていることがわかった。在留資格の切り替えに要する負担が他の在留資格と変わらない場合、在留資格「介護」の外国人介護職員として日本で働き続けるモチベーションが低下する要因となってしまう可能性があることがうかがえた。

また、家族帯同が大きなモチベーションとなっている外国人介護職員の場合、在留資格「介護」で家族帯同が可能なことに魅力を感じているものの、来日している、もしくは来日予定の配偶者の今後の日本での仕事や生活に対して不安を感じていた。家族帯同の場合、配偶者や子どもなど、家族に対するサポートが今後必要になってくるといえるだろう。

- ◇ アパートなどを施設が援助してくれるため、生活が楽なのは実習生だと感じる。実習生のマイナスな点は家族と住めないこと。今一番重視したいことは、家族と住めること。（正仁会・G）
- ◇ 「介護」に変えたら、更新期限は長くなると思っていたのに、自分は毎年更新している。熊本の「介護」の人はみんな同じだと思う。在留資格「介護」の魅力がなくなってきている。周りの友人ともそういう話をしている。申請書類は全て自分で手続きしている。入管に紙をとりに行き、会社を書いてもらうものは会社に渡す。なかなかやり直さなく一度で終わることはない。手続きは、自分は会社にしてほしくない。何かあったときに自分で責任を持ちたい。手続きは、本当は外国人1人でもできるはずなのに、1人では通らない。でも、弁護士等にお問い合わせするとお金もかかる。（リデルライトホーム・I）

（2）施設・事業所

【支援内容】

今回ヒアリングした外国人介護職員の多くは、養成施設ルートで在留資格「介護」として働いており、学校等での体系的な学びの経験があることに加え、国家資格保有者でもあることから、施設・事業所としては、介護福祉士として入職した後は基本的には日本人職員と同等と考えられている場合が多かった。

しかしながら、外国人介護職員に対するサポートが全くないというわけではなく、ヒアリングで施設・事業所側から聞かれた支援は、以下にまとめられる。

① 学習面の支援

日々の業務の中でのサポートとは別に、介護福祉士国家試験合格のための支援や日本語教育の支援など、学習面での支援をしているケースが複数あった。例えば、テキストの提供、個別の勉強会実施、模擬試験の提供、就労時間内に勉強時間を設ける、仕事の合間に勉強できるよう研修室を設置する、日本語勉強会の開催、担当職員をつけて一対一で終業後に学習支援をして、フォローが必要な場合は個別に対応する、国家試験受験料の補助などである。こうした支援は、介護福祉士国家試験に不合格になってしまった者や日本語能力試験N1合格や点数アップを目指す外国人介護職員にとっては有難いサポートであり、施設・事業所の特色となってい

るといえる。

- ◇ 日本語学習面での支援・介護福祉士取得のための支援は、法人全体で N2,N3 対策を実施している。また、勤務時間内の勉強時間は 1 ヶ月 24 時間と法人内で統一されているが、時間の割り振りは施設ごとに違う。施設に来てもらっている先生は、日本語の勉強を含め試験対策の先生が多い。また、施設内に研修室を設けている。外国人介護職員はどの在留資格でも使うことができる。(奉優会・M)
- ◇ 外国人介護職員のみに行う支援としては、サンライズ・ネットワークスの留学生プログラムの中に、国試対策の費用も法人負担というルールがあり、そのルールの中で支援をしている。模擬や受験費用、学費は法人が負担をする。(五省会・N)
- ◇ 木曜日は、地元の大学生が日本語を教えるボランティアをしている。ボランティアのおかげで、外国人介護職員の日本語の助詞の使い方等が上手になり、会話が聞き取りやすくなったと感じる。(宮城福祉会・K)

② 業務面の支援

施設・事業所側が外国人介護職員の状況に応じて、業務面で配慮している話が聞かれた。例えば、業務の内容等については基本的には日本人職員と同等であるが、最初から完全に同じにするのではなく、まずは通常の日本人職員が担当する数より少ない人数を担当してもらう、委員会は種類によっては外国人介護職員が理解を深めた後に入れるようにするなど、徐々に業務量や担当の数を増やしていくような配慮である。その他にも、施設では礼拝のための金曜休暇、ラマダン中のシフトの調整、入浴介助免除など、宗教的な事柄に対する配慮もされていることがわかった。

また、わかりやすい日本語を使う、日本人職員が外国人介護職員に対して問いかけ方や聞き方を工夫して疑問が残らないようにする、ケアカンファレンスの議事録や利用者の家族へのお便りの日本語をチェックするなど、日々の仕事の中でのサポートに関する実践も多くあった。翻訳機を使って会話する、記録のタブレットやソフトの使用など、積極的に ICT を活用している施設・事業所も多く、記録の ICT 機器活用では作業効率が上がるだけでなく、漢字の変換等外国人介護職員にとっても負担の軽減につながっていることがわかった。

- ◇ ラマダンの時は危険を伴うことから、入力介助は免除している。(正仁会・Q)
- ◇ 日本人と同じ質の記録が取れないと外国人介護職員が夜勤に入ることができず、日本で生活するだけの給料が入らない。そのため、外国人介護職員も夜勤ができるような体制を取れるように、医療介護関係の機器のメーカーと一緒に Care workers という記録ソフトを開発した。日本人職員も含め同じソフトを使い、同じ質の記録が取れるようにして、無駄が無くなり業務省力化(記録時間の短縮)が進むことを目的としている。「かんたん入力」と「14ヶ国語対応」という点を最重要視した。(厚仁会・R)
- ◇ 現在、記録は手書きからタブレットに変更しており、問題ない。もともとは、作業効率をあげるための導入であったが、外国人介護職員も効果的であると感じる。(敬英会・O)
- ◇ 記録の場面では、定型文になりがちである。それも大事だが、その日の利用者の状態の変化を次のスタッフにしっかり伝えなければならぬため、思っていることをどのように書くかは一緒に考えることもある。「考えて

いるのに書いていない」と思ったときには、どういう風にしたのか、どう考えたのかを確認している。客観的に見てわからないといけなため、意味を尋ねることもある。(立志福祉会・V)

③ 生活面の支援

外国人介護職員にとって、金銭的に大きな負担となりうる住居については、寮を提供している施設・事業所が多かった。日本人職員にも期限付きで寮を提供しているが、外国人介護職員の場合は支給適用範囲の特例という形で提供期間を長くするという措置をとっている施設・事業所もあった。一方、技能実習生は制度上住宅支援など生活のフォローがあるが、在留資格「介護」の場合にはその支援がないという施設もあり、技能実習生の時より在留資格「介護」の方が、金銭的に余裕がなくなるケースがあることがわかった。当施設では外国人介護職員が家族帯同を予定しているため、家賃のフォローがなくなるものの不動産を探すことや、外国人介護職員の子どもの学校などについても可能な範囲で施設としてサポートする予定であるといい、住居を含めた生活の支援は家族帯同する外国人介護職員にとって特に大きなサポートであるといえる。

また、一時帰国が外国人介護職員にとってモチベーションにつながっているという意見もあり、複数の施設・事業所で外国人介護職員が帰国のための長期休暇をとりやすいように配慮していた。そのような施設・事業所では、日本人職員側も外国人介護職員の帰国のための長期休暇に理解を示しているという話も聞かれた。

在留資格「介護」の場合、外国人介護職員を養成施設の頃からアルバイトとして受け入れているケースが多いが、正式な職員として入職する前のアルバイト時代に手厚い支援を提供している施設・事業所もあった。例えば、食事や、通勤のための自転車を提供するなどである。アルバイトは、留学生にとって学費や生活費等の収入を得る場になると同時に、施設・事業所から支援を受けながら、職場の雰囲気を知り、介護の仕事を早く経験できる重要な機会となっているといえる。

- ◇ 介護福祉士として入職した後は、基本的には日本人と同様の福利厚生制度だが、住居に関しては日本人よりは手厚くサポートをしている。住宅手当の適用範囲が日本人は期間が限定されているが、外国人の場合は期間限定になっていない(支給適用範囲の特例)。(五省会・N)
- ◇ 年休を使つての帰国になるが、家族と会ってリフレッシュすることが必要であると考え、1カ月程度の一時帰国ができるように制度化している。(宮城福祉会・K)
- ◇ 外国人介護職員は長期で帰国することもあるが、日本人職員から不満が出たことはない。むしろ、よく来てくれたね、という気持ちの方が大きい。(正仁会・Q)
- ◇ 香川県は公共交通機関が不便のため、主な移動手段は自転車となる。留学生のときのみ電動自転車を学校から貸し出している。また、留学生が勉強とアルバイトを両立できるように、身体を休める日として金曜日の授業を休みにして、土日はしっかりアルバイト(同法人内の施設)をできるようにしている。そして、しっかりと介護の勉強を継続し、在留資格介護を取得して就労し続けることができるようにしている。(厚仁会・R)

④ 相談しやすい環境づくり

施設・事業所では、外国人介護職員専属の相談職員の配置や、職員全体で日々の声掛けを積極的に行う、外国人介護職員から気軽に相談してもらえように対面だけでなく、LINEなどのオンラインのツールも用いる、などの取り組みを通して、相談しやすい環境づくりを目指していた。現場から遠い立場の人の方が話しやすいのではという配慮から、守秘義務を持った事務職員が相談の対応をするという取り組みや、それまでは人事部のみが対応していた内容を現場の管理職員にも適宜共有して相談の連携を強化するなどの実践もあった。施設・事業所が、外国人介護職員が悩みを抱えまないように、相談しやすい雰囲気や、相談・サポート体制を作ろうとしていることがわかった。

- ◇ 基本的には、各フロアのリーダーが話を聞いている。わずかな時間でも、「最近どう？」と話を聞く場は、必ず持とうという取り組みをしている。基本的には、各フロアのリーダーが話を聞いている。LINEの方が言いやすかったりもするようなので、個人的なLINEで繋がっている。（正仁会・Q）
- ◇ 法人ではモバイルメッセージアプリケーションを活用し、受入れ施設間や法人本部とタイムリーに情報共有し外国人介護職員の悩みには、公私を問わずレスポンスを早くしている。また、施設では、事務課に外国人介護職員専属の担当者を配置し、公私を問わず対応している。外国人介護職員が安心して話ができるよう、守秘義務も徹底している（奉優会・M）

⑤ 他法人との連携

外国人介護職員の受け入れについて、法人間や法人内の他の施設・事業所で情報や資源を共有しながらサポートしていることがわかった。また、現時点では実現していないものの、一法人でできることには限界があるため、複数法人で外国人介護職員に対する支援を行うことを希望する声もあった。

特定医療法人財団五省会では、サンライズ・ネットワークスという別の法人が留学生の受け入れのプログラムを行っており、学校・五省会・サンライズ・ネットワークスの三者が情報共有を行うなど連携をしていた。外国人介護職員が「大阪介護留学支援プログラム」で入職している施設では、大阪介護老人保健施設協会が作成したベトナム語の契約書が活用されており、外国人介護職員にとっても自身の契約を母国語で理解できるだけでなく、契約時の施設・事業所側の負担軽減につながっているといえる。

社会福祉法人奉優会では、法人全体で日本語能力試験N2、N3対策や国家試験対策をしたり、施設で発生した課題を蓄積、ノウハウとして規定やマニュアルを整え、それらを他施設へ水平展開する取り組みをしている。一方、法人内で複数の施設・事業所とネットワークを有するからこそ、法人内の外国人介護職員同士の間には差がでて不平不満が生じないように、待遇や、休暇、研修体制などのルールを統一するようになっているという話もあり、つながりがあるからこそその配慮も必要であることが分かった。

- ◇ サンライズ・ネットワークス、学校とも連携し学習面でのサポートをしている。サンライズ・ネットワークス・学校・法人が常に情報共有をしている。（五省会・N）

- ◇ 留学生時代は学校があるため、休みの希望があれば調整は行う。学校も試行錯誤で入学の受入れをしていたので、最初の頃は文化の違い等あるときはこういう対応をしたほうがよい等、情報交換をしていた。
(立志福祉会・U)
- ◇ 待遇について、他の施設と違うという意見が挙がることもある。法人内の外国人介護職員同士で繋がりがあるので、差がでて不平不満を生まないよう、法人間でルールを統一している。法人内で良い事例・悪い事例を問わずノウハウを共有している。(奉優会・M)
- ◇ 一法人ではできることも限界があるので、複数法人で何かできたら良いかもしれないと思っている。コロナ禍で研修等は、他の法人と合同研修も行うようになったので、外国人介護職員への支援に対してもあっても良いと思う。(リデルライトホーム・T)
- ◇ 「大阪介護留学支援プログラム」で入職しているため、大阪介護老人保健施設協会にて契約書はベトナム語で用意されている。その他の言語の学生には先輩による通訳や英語で説明を行っている。(敬英会・O)

【活躍の実際】

① 日本人職員との業務や処遇の違い

日本人職員と外国人介護職員で、業務内容や処遇に違いはないという回答が多かった。違いがあるという場合も、外国人介護職員の負担を最初は調整するという意図で、はじめは担当の人数を少ない人数からにする、記録業務には文章作成やパソコンの業務に慣れてもらったうえで入ってもらい、委員会に参加する時期を遅らせるなどである。こうした業務面での配慮は、外国人介護職員の業務の理解や習熟の状況に応じて徐々に日本人職員と同様とするため、当初違いがあっても、施設・事業所側は外国人介護職員に日本人職員と同様に活躍する職員と認識しているといえる。

- ◇ 日本語面から、最初は記録、申し送り等のリーダー業務はお願いしていなかったが、4年目くらい（ここ1年）から記録業務（日常のケース記録）、リーダー業務を任せている。リーダー業務の前には、PC業務や日本語を覚えられるという点から、まずはケアカンファレンスの議事録作成を通して、文章に慣れてもらった。そこから記録業務に入ってもらった。(松栄会・L)

② 活躍の状況（具体的な事例）

多くの外国人介護職員が、利用者の担当を持つ、利用者家族との情報交換や夜勤も行うなど、業務面でも日本人職員と区別をせず働き、ユニットリーダーや主任から信頼されて活躍していた。

活躍の具体的な事例としては、外国人介護職員が入居者に少し微熱があったことを他の職員よりも先に顔色だけで気付いたというエピソードや、認知症の利用者に対する介護の場合、声かけが減る人もいるが、しっかり声かけを行えているなど、外国人介護職員の利用者に対する見守りやケアに感心したというエピソードが多かった。こうしたエピソードで語られるスキルは、外国人介護職員特有のものではないものの、外国人介護職員が他の職員の期待値を超えて、高い水準で業務を行っていることを表しているといえるだろう。

また、ベトナム人の外国人介護職員が、日本語が伝わらないベトナム人の技能実習生に対し日本人職員の代わりに注意しなければならない点等を通訳した、技能実習生のサポートに入ったというケースもあり、常勤の介護職員として日本人職員と同等の業務を行うだけでなく、外国人スタッフの先輩として外国人介護職員ならではの立場からも活躍していることがわかった。

- ◇ 常勤の介護職員として、日本人スタッフと同等の業務をおこなっており、近年増えてきた外国籍スタッフの先輩として、育成や相談の面で活躍してくれている。Bさんには、最初からベトナム人の技能実習生の指導に入ってもらった。技能実習生は全然日本語が伝わらなかったで、注意しなければならない点等を通訳してもらい、伝えてもらった。技能実習生の指導には適任だった。(松栄会・L)
- ◇ 入居者に少し微熱があった際、触ればわかるが、Iさんは顔色だけで気づいた。他の職員よりも真っ先に気付いた。また、認知症の方に対する介助の場合でも、Iさんは声掛けをしっかりとる。接し方についてあえて教えたわけではないけど、そういうことがしっかりできる。ユニットリーダーからの信頼は厚い。一度指示したら任せられる。細かいことを言わなくても伝わる。(リデルライトホーム・T)

③ 在留資格「介護」のキャリアパス

すべての施設・事業所において、外国人介護職員も日本人職員と同様、本人の希望や能力に応じて国籍等の区別なく役職に就けるようになっていた。一方、日本人職員と同一の昇進テストは難易度が高いため、外国人介護職員専用のキャリアパスがあってもよいのではないかという意見もあった。

また、施設・事業所では外国人介護職員に対し、将来は技能実習生など他の外国人介護職員の指導をしてくれる立場になってくれたら嬉しい、といった期待が多く寄せられていることが分かった。

子育てをしながら働いている外国人介護職員に対しては、外国人介護職員のひとつのモデルケースになっていることへの期待が語られた。今後、外国人介護職員が日本で長くキャリアを積んでいく中で、外国人介護職員ならではのキャリアパスやリーダー業務、リーダー像が描き出される可能性があるといえるだろう。

- ◇ Gさんが介護福祉士を取ったことがとても良い刺激になっている。結婚や子育てをしながらでも働けるというひとつのモデルケースになっていることが、一番大きいと感じる。(正仁会・Q)
- ◇ キャリアを積んでもらって、今後外国人を受け入れていくときにリーダーになってほしいという思いはある。(五省会・N)
- ◇ キャリアパスについては、適材適所で考えており、外国人と日本人で違いはない。本人のキャリアを考えて、法人内の異動等も有り得る。外国人介護職員もゆくゆくはリーダーになってほしい。今は、外国人介護職員が少ないが、今後、外国人介護職員のとりまとめも行ってほしい。(リデルライトホーム・T)

【外国人介護職員受け入れ後の変化】

① 日本人職員の変化

外国人介護職員受け入れ後の日本人職員の変化では、ポジティブな意見が多く聞かれた。例えば、外国人介護職員の明るい性格で職員の連帯感が高まった、フレンドリーで話しやすく、職場の雰囲気良くなった、などである。外国人介護職員の明るく前向きな性格や介護の仕事に対する真摯な姿勢により、施設・事業所に良い影響がもたらされている。

性格面以外でも、在留資格「介護」は、介護に対する意欲が高く、外国人介護職員の勤勉さや優秀さに日本人職員側が良いプレッシャーや刺激を受けているという意見も多く聞かれた。日本人職員が外国人介護職員の姿勢（細やか、気がつく、配慮ができる、人の心を読めている）を見習うべきであるという意見や、外国人介護職員が疑問に思ったことを日本人職員に聞くことで日本人職員の業務への理解が深まる機会があるなどの意見もあり、外国人介護職員がいることで、業務の面でも日本人職員に良い刺激や成長の機会があるといえる。

また、外国人介護職員と働くことで、異なる文化・国籍の人を受け入れるハードルが低くなる、多様性を当たり前なものとして考えられるようになる、日本人職員が相手の母国語に関心を持ち勉強を始める、国というよりも人としての違いを感じるようになるなどの意見もあった。日本人職員が外国人介護職員との接触や交流を通して、外国人介護職員や異文化に対して理解を深めていることがわかった。

- ◇ 礼拝のための金曜休暇、ラマダン中のシフトの調整（入浴介助をやらない等）、勤務時間中の勉強、帰国のための長期休暇など、当初は日本人の不平等感もあったが、今はなくなった。日本人の働き方も柔軟さを持つなど、考え方にも影響を与えた。結果として、風土も変わったように思う。現場も助け合いを行うようになった。外国人介護職員を受け入れたことで、職員の多様性を受け入れることが当たり前になった。（奉優会・M）
- ◇ 最初はネガティブな反応もあったが、全体的に理解を示す職員の割合が増えるにつれ、自然と反発意見は少なくなっていた。直接説明するより、雰囲気による効果の方が大きかったと思う。外国人介護職員も、職場で受け入れられるよう自分なりに努力をして、自国の文化や食の話題をきっかけに会話やコミュニケーションが活発になっていった。（厚仁会・S）
- ◇ 外国人介護職員が優秀で、日本人職員が負けなようにと奮起している。日本人職員が、外国人介護職員の勤勉さや優秀さに良いプレッシャーを感じている状態である。（立志福祉会・V）

② 利用者の変化

特に変化はないという意見や、利用者は介護職員が外国人かどうかあまり気にしていないように感じる、リアクションが特に変わっていないなど、利用者の変化は顕著にみられるわけではないという意見が多かった。はじめは言葉の問題もあり、利用者によっては日本人職員に対応を依頼する方もいたものの、外国人介護職員の日本語能力の向上や生活の理解が進むなかで改善されていったことなど、利用者と外国人介護職員が良い関係を築いている話も多く聞かれた。

利用者の中にはまれに外国人介護職員を好まない人がいるという場合も、日本人職員の場合と同様で、外国人だからというよりは相性の問題と感じるという意見であった。また、地域と外国人介護職員が関わる接点をもっと作ることで、安心して利用者を預けられるということ

伝えたいという希望も聞かれた。外国人介護職員の活躍を地域など施設・事業所の外に周知し、交流の場を作ることも今後重要な取り組みであるといえるだろう。

- ◇ 利用者は、日本人職員、外国人介護職員というところについてはあまり気にしていないように感じる。外国人介護職員は笑顔で丁寧に話を聞いてくれるので、利用者から喜ばれている。(立志福祉会・V)
- ◇ 外国人介護職員もケースを担当するので利用者家族に関わる機会が多い。「頑張っているね」と好意的な家族もいるが、外国人に偏見を持つ家族もいるので、もっと地域に接点を作りたい。施設で外国人介護職員が働いていると地域にアピールして、安心して預けることができるというのが伝わると良いと思う。交流の機会をもっと作りたい。(松栄会・L)
- ◇ 利用者に聞くと、外国人だからという特段の違いはないように感じている。最初は外国人介護職員に利用者がどのような感想を持つか不安があったが、全く不要だった。(宮城福祉会・K)

【課題】

外国人介護職員の受け入れの状況や経験、法人の規模、施設・事業所の所在地域などによって、施設・事業所が直面する課題は異なっているが、ヒアリングから聞かれた課題は、大きく「外国人介護職員に魅力のある施設・事業所」、「家族帯同のサポート」、「試験合格のサポート」、「地域特性へのサポート」の4つにまとめられる。

「外国人介護職員に選ばれる施設・事業所」については、複数の施設・事業所から、これから一層外国人介護職員に選ばれる魅力のある施設・事業所にしなければならないという意見が聞かれた。介護の仕事や施設・事業所の魅力を高めることに加え、日本で就労を希望する外国人にその魅力や情報が届くよう、発信していくことが必要であるといえるだろう。

「家族帯同のためのサポート」については、在留資格「介護」の職員にとって、家族帯同がモチベーションになっているケースが多いが、家族に対するサポートにどこまで施設・事業所が関わることができるか、ライフステージの変化に対してどういった配慮ができるのかといった回答があった。外国人介護職員を多く受け入れている法人では、外国人介護職員がすでに結婚や出産のライフステージになっているため、早くから外国人介護職員を受け入れている施設・事業所の支援の取り組みや体制等から可能な範囲で横展開をすることも重要であるといえる。一方、施設・事業所だけで対応できることには限界があるため、家族帯同のケースに必要な支援体制については、今後さらなる議論が必要であるといえるだろう。

「国家試験合格のサポート」については、介護福祉士国家試験の合格率が低い養成施設では、今後経過措置がなくなった場合に、学習をどう支援し合格率を上げていくかが喫緊の課題となっていることがうかがえた。介護福祉士国家試験合格のための支援は施設・事業所だけに任せるのも難しいと思われるため、養成施設の役割の重要性や期待が高まるほか、養成施設や施設・事業所以外からの支援の検討も必要となっていくといえるだろう。

「地域特性へのサポート」については、東北地方の施設・事業所のヒアリングから、寒い地域のため外国人介護職員の定着が難しく、過疎地域の施設・事業所で働く外国人介護職員に対する買い物への支援などが必要という意見があった。移動手段の確保等、外国人介護職員が働きやすい環境づくりを施設・事業所と一緒に取り組む仕組みが必要であるといえるだろう。

- ◇ 外国人介護職員にも選ばれる施設にしていきたい。施設の魅力をもっと高めていく必要があると思う。
(松栄会・L)
- ◇ 施設で発生した課題を蓄積し、ノウハウとして共有することで、規定やマニュアルを整えていった。施設が増える度に整えた規定やマニュアルを水平展開していった。マニュアルや規程等が整備されるのには、3年くらいかかった。一通り入職から在留資格変更までを経験するのに数年必要なため。今は、結婚や出産のステージにある職員もいるため、変化にあわせた仕組みが必要。(奉優会・M)
- ◇ 日本で働くことのモチベーションの維持をどう形成していくか。各自いろいろな思いで働いているが、それをうまくどうサポートしていけるか。特に家族が一番のモチベーションになっている場合、どうサポートできるか。
(五省会・N)
- ◇ 現在、介護福祉士国家試験の合格率が低いので、今後特例措置がなくなることを見据えて、サポート体制の見直しも必要と考えている。例えば、勤務時間中に勉強できるようにする、学校での補講時間分の不足のアルバイト代を支援する、受入れ時の日本語能力要件を高くすること等が考えられる。(敬英会・O)
- ◇ 過疎地域は、買い物に行くことがとても不便で外国人介護職員の定着が難しい。交通の環境整備、タクシー券等の支援が必要だと思う。事業者だけでそこまでの支援は金銭的な面からも厳しい。在留資格「介護」の場合は家族帯同ができるという制度になっているが、家族帯同をする場合、子どもを育てる環境や保育園、配偶者も日本語を話せるわけではないので環境整備が必要だと思う。(宮城福祉会・K)

IV. アンケート調査

1. 調査の目的

在留資格「介護」で就労する外国人介護職員の実態を把握するため、在留資格を得るまでの経緯及び現在の状況、必要な支援等について、アンケート調査を行った。

また、施設・事業所に対しては、外国人介護職員の受入れ状況及び活躍状況を確認し、これまで実際に行ってきた支援等、今後の課題や展開について確認した。

2. 調査概要

① 調査対象

【外国人介護職員票】

アンケートに回答した施設・事業所に所属する在留資格「介護」の外国人介護職員

【施設・事業所票】

アンケートに回答した施設・事業所

※本調査の主な回答先は、アンケートに回答した施設・事業所のうち、在留資格「介護」の外国人介護職員が就労している 43 件

② 調査方法

WEB アンケート

※以下の団体に協力を依頼し、施設・事業所に周知いただいた。

(全国老人保健施設協会、全国老人福祉施設協議会、日本介護福祉士養成施設協会、全国介護付きホーム協会、日本認知症グループホーム協会、全国有料老人ホーム協会 都道府県介護福祉士会)

③ 回収結果

【外国人介護職員票】 136 件

【施設・事業所票】 179 件 (内、在留資格「介護」が就労している施設・事業所は 43 件)

④ 調査時期

2022 年 11 月 1 日～2022 年 11 月 30 日

⑤ 調査項目

主な調査項目は以下の通り。

【外国人介護職員票】

- ・ 本人の基本情報 (国籍、年齢、介護福祉士国家試験の受験状況、合否、在留資格の変遷、日本語能力、家族の帯同状況、奨学金等の利用等)

- ・ 施設での活躍状況（役割、業務内容、待遇、働く上でのモチベーション等）
- ・ 必要なサポート（働く上で必要な支援、実際に受けた支援、欲しかった支援、現在の課題等）
- ・ 今後の意向

【施設・事業所票】

- ・ 施設・事業所の基本情報（法人格、サービス種別、職員数等）
- ・ 外国人介護職員の状況（外国人介護職員の在留資格別人数、在留資格「介護」の受入れ有無・人数、受入れ経緯等）
- ・ 在留資格「介護」の活躍状況（業務内容、待遇、キャリアパス、期待すること、活躍状況等）
- ・ 支援内容（外国人介護職員にしている支援、在留資格「介護」にしている支援等）
- ・ 在留資格「介護」の受入れによる変化
- ・ 課題

※各設問の選択肢の%の値は、少数第二位を四捨五入した値を表示しています。

そのため、単一回答の設問において、すべての選択肢の値を合算した場合、100%ちょうどにならない場合がございます。

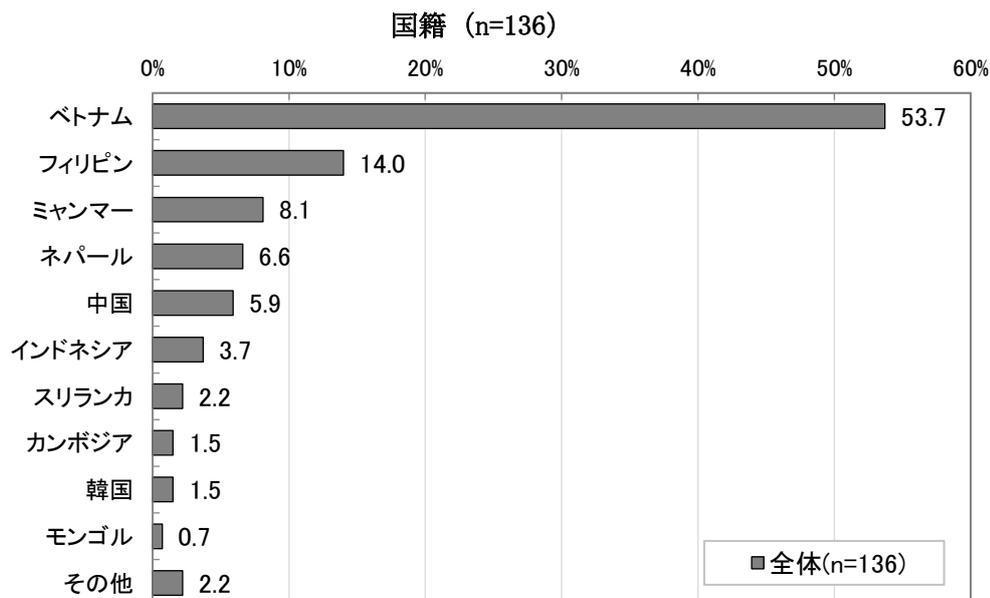
3. 調査結果

(1) 外国人介護職員票

アンケートに協 136 件のアンケート結果について、主要な結果のみを下記に掲載する。その他の回答結果や詳細については、参考資料として掲載している。

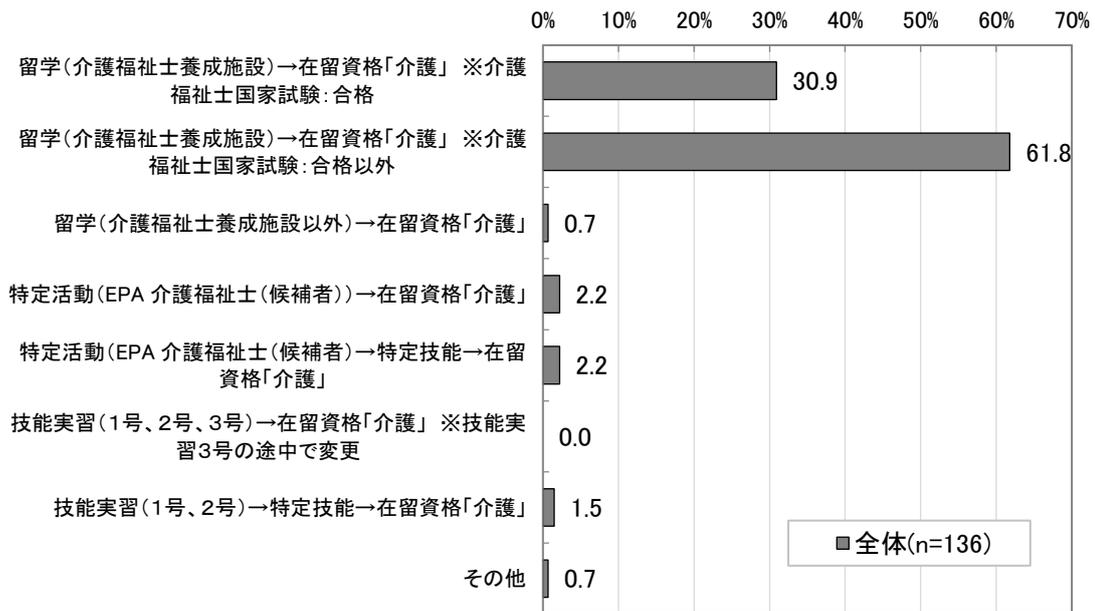
① 回答者の基本情報

- 国籍別では、下記の通り。



- 年齢別では、20～30 歳が 72.1% (98 件) を占めている。
- 介護福祉士国家試験の受験有無は、「ある」が 91.2% (124 件)、「ない」が 8.8% (12 件) となっている。また、受験した者のうち、「合格した」が 40.3% (50 件)、「不合格だった」が 59.7% (74 件) となっている。
- 来日から現在までの在留資格は、「留学 (養成施設) → 在留資格「介護」 ※介護福祉士国家試験：合格以外」が 61.8% (84 件) と最も高い。

来日から現在までの在留資格 (n=136)



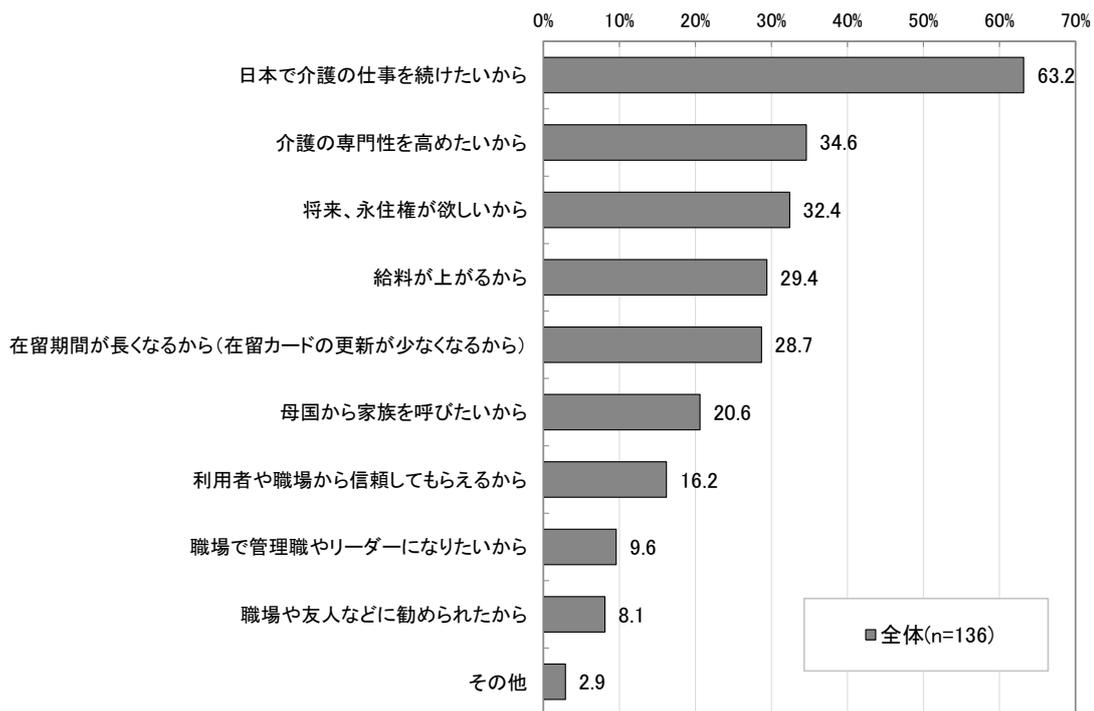
② 職場での役割・業務内容

- 職場内での立場については、「現場の介護職員」の回答が 80.1% (109 件) と最も高かった。
- 同じ役職の日本人職員との業務内容(施設内の委員会活動は除く)の違いについては、「同じ」の回答が 79.4% (108 件) と最も高い。また、同じ役職の日本人職員との待遇(給与、福利厚生、勤務時間など)についても、「日本人職員と同じだと思う」が 68.4% (93 件) と最も高く、在留資格「介護」と日本人職員に大きな差はないと考えられる。

③ 介護福祉士取得後の変化・取得の理由

- 介護福祉士になる前後での待遇(給与、福利厚生、勤務時間など)の変化については、「変わった」が 45.6% (62 件)、「変わらない」が 22.1% (30 件)、「わからない」が 32.4% (44 件) となっており、待遇に変化があったという回答が多かった。
- 介護福祉士を取得したい理由については、「日本で介護の仕事が続けたいから」が 63.2% (86 件) と最も高く、「介護の専門性を高めたいから」が 34.6% (47 件)、「将来、永住権が欲しいから」が 32.4% (44 件)、「給料が上がるから」が 29.4% (40 件) と続いている。
- 「その他」の回答には、「国に介護の学校がなかったため、これから介護資格が必要になると思っています」、「日本が好きだから」等の回答があった。

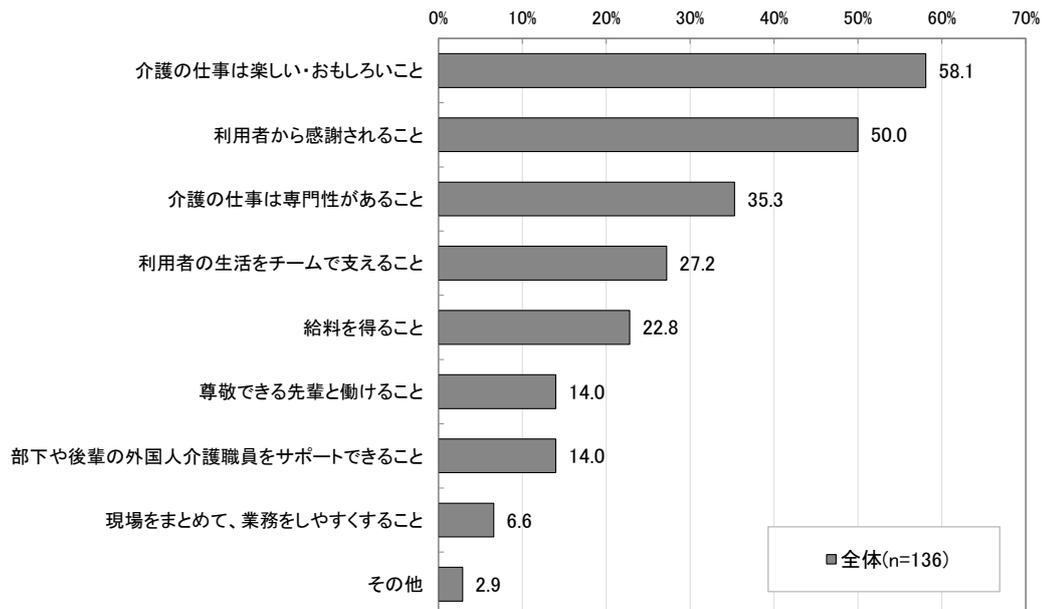
介護福祉士を取りたいと思った理由（複数選択）（n=136）



④ 介護福祉士として働くときの「やりがい」

- 「介護の仕事は楽しい・おもしろいこと」が 58.1% (79 件) と最も高く、「利用者から感謝されること」が 50.0% (68 件)、「介護の仕事は専門性があること」が 35.3% (48 件)、「利用者の生活をチームで支えること」が 27.2% (37 件) と続いている。

あなたが介護福祉士として働くときの「やりがい」（3つまで選択）（n=136）



⑤ 介護福祉士を受験するまでに「受けた支援」と「ほしかった支援」

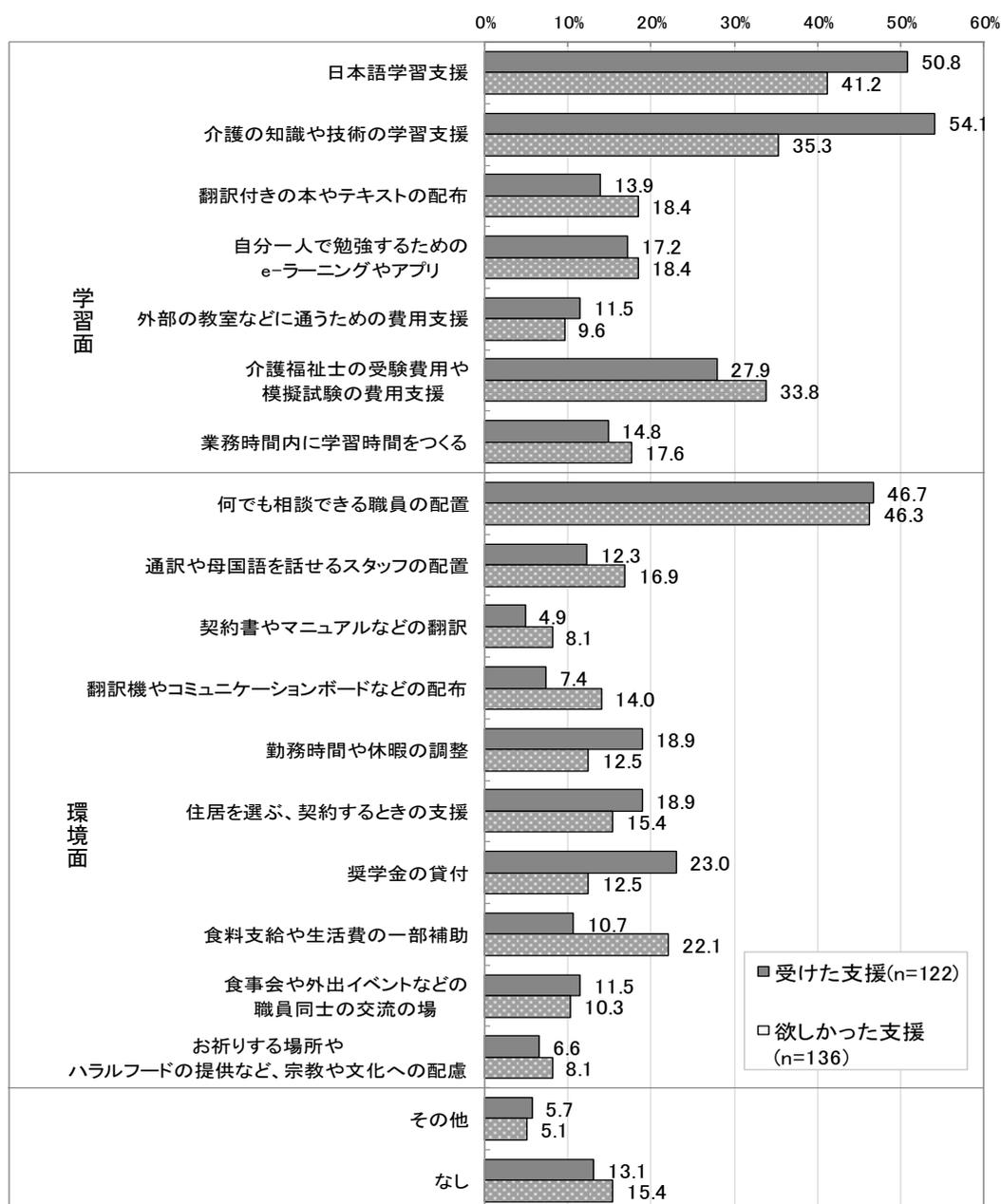
【学習面】

- 受けた支援では、「介護の知識や技術の学習支援」が 54.1% (66 件) と最も高く、次いで「日本語学習支援」50.8% (62 件) となっており、学習支援に関する回答が多かった。欲しかった支援では、「日本語学習支援」41.2% (56 件)、「介護の知識や技術の学習支援」35.3% (48 件) に次いで、「介護福祉士の受験費用や模擬試験の費用支援」が 33.8% (46 件) となった。

【環境面】

- 受けた支援では、「何でも相談できる職員の配置」が 46.7% (57 件) と最も高く、次いで「奨学金の貸付」が 23.0% (28 件) となっている。欲しかった支援では、「何でも相談できる職員の配置」が 46.3% (63 件) と最も高く、次いで「食料支給や生活費の一部補助」が 22.1% (30 件) となった。
- 「受けた支援」よりも「欲しかった支援」が上回っている項目は、「学習面」については、介護福祉士国家試験に不合格または未受験の者が多いこともあり、「介護福祉士の受験費用や模擬試験の費用支援」「翻訳付きの本やテキストの配布」「自分一人で勉強するための e-ラーニングやアプリ」等、試験に関係する項目が「欲しかった支援」としてあがってきていると考えられる。
- 「環境面」では、「通訳や母国語を話せるスタッフの配置」等の言語に関する支援に加え、「食料支給や生活費の一部補助」が「欲しかった支援」として多くあがっており、介護福祉士国家試験受験前は、費用的な困難を抱えている者が多いと考えられる。

介護福祉士を受験するまでに、「受けた支援」と「ほしかった支援」（複数選択）



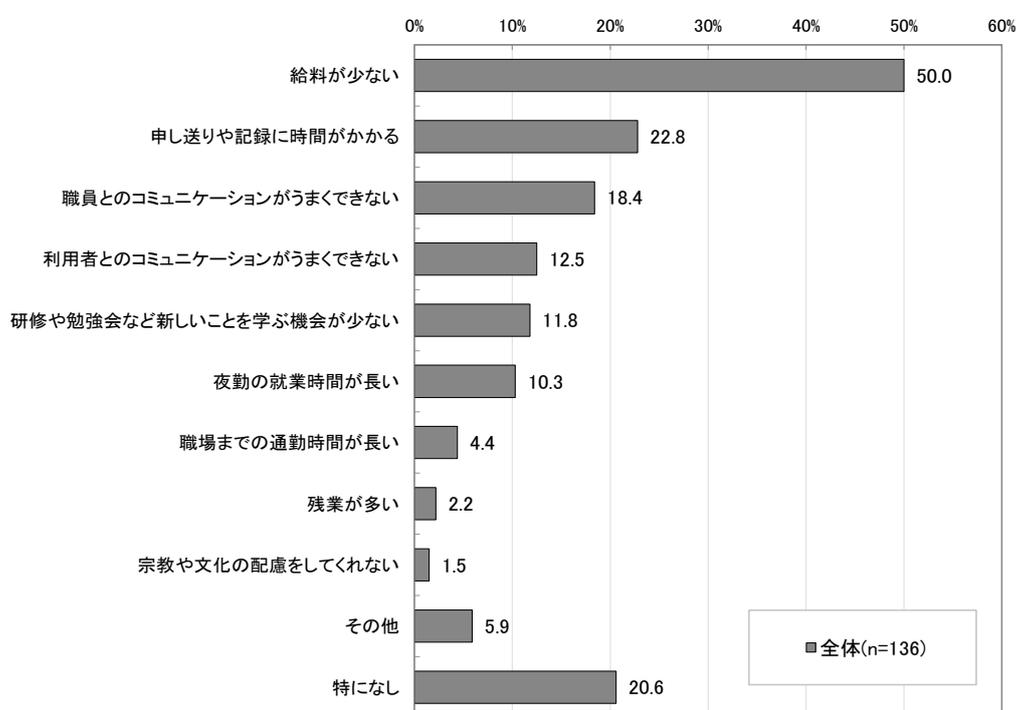
⑥ 今後も介護福祉士として働くために、必要な支援（自由記述）

- 必要な支援については、利用者や家族にもっと適切な支援を届けるために日本語が上手になりたいといった「言語面の支援」や、「国家試験受験のための支援」、介護の「技術・知識面の支援」が欲しいという意見が多かった。
- また、給料や休みの取りやすさなどの「待遇面の支援」や、生活で困った際に支援が欲しい、食費のサポートが欲しいといった「生活面の支援」、「在留資格に関する支援」についても回答があった。

⑦ 現在、生活や仕事で困っていること

- ▶ 生活で困っていることについては、「貯金ができない」が51.5% (70件)と最も高く、「特になし」が25.7% (35件)、「病院などで病気の症状をうまく伝えられない」が10.3% (14件)と続いている。
- ▶ 仕事で困っていることは、「給料が少ない」が50.0% (68件)と最も高く、「申し送りや記録に時間がかかる」が22.8% (31件)、「職員とのコミュニケーションがうまくできない」が18.4% (25件)、「利用者とのコミュニケーションがうまくできない」が12.5% (17件)と続き、コミュニケーションに関して困難を抱えている者が多いと言える。また、「特になし」は20.6% (28件)となっている。

現在、あなたが仕事で困っていること（複数選択）（n=136）



⑧ 仕事をしたい場所

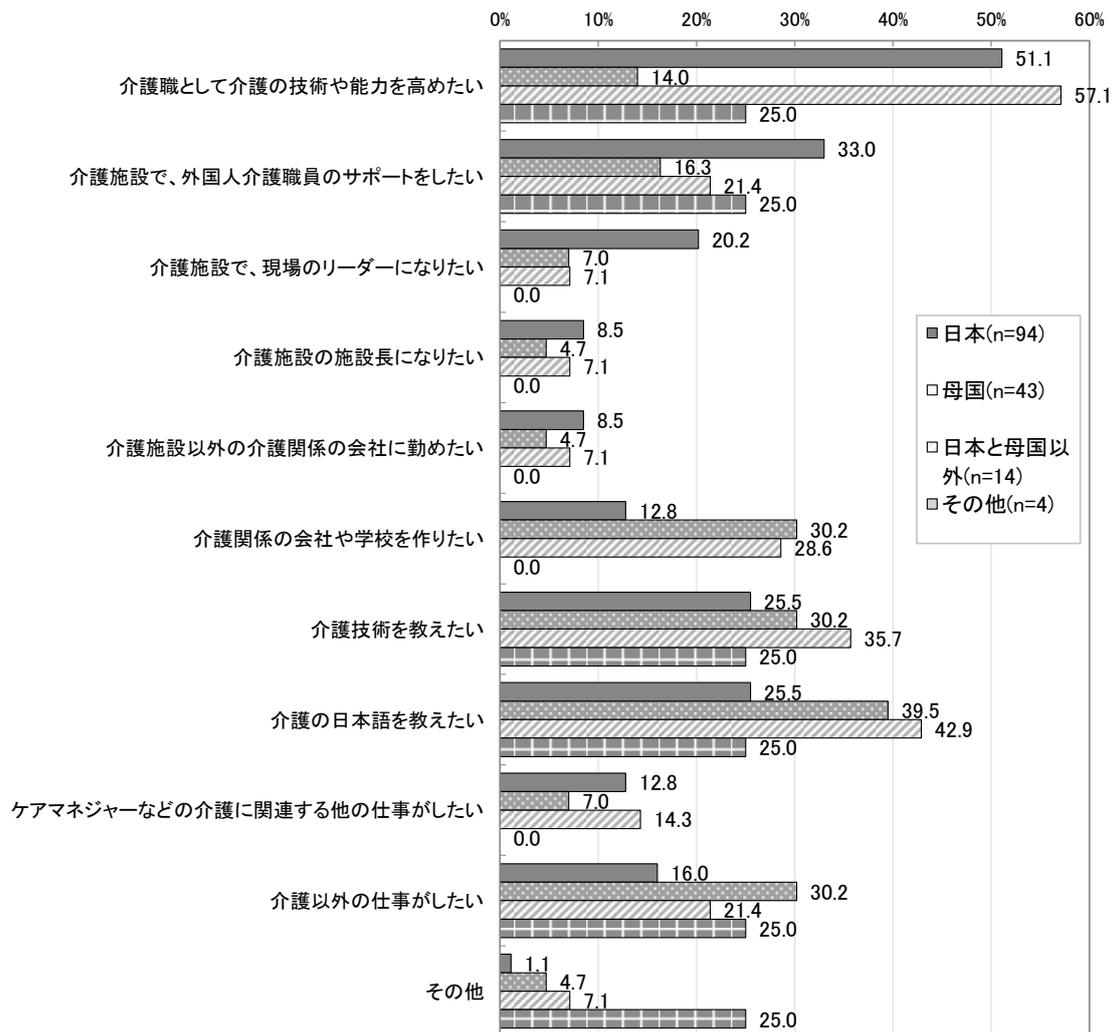
- ▶ 現在、仕事をしたい場所は、「日本」が97.1% (132件)と、ほとんどの方が日本での就労を希望していた。
- ▶ 一方、将来仕事をしたい場所は、「日本」が69.1% (94件)に下がり、「母国」や「日本と母国以外」を希望する方が増加した。

⑨ 今後の意向

- ▶ 現在の職場での今後の就労意向については、「現在の職場で働きたい」が58.3% (77件)、「わからない」が24.2% (32件)、「他の職場で働きたい」が17.4% (23件)となっている。

- ▶ 将来、日本に在留したいと回答した方の中では、「介護職として介護の技術や能力を高めたい」51.1% (48件)、「介護施設で、外国人介護職員のサポートをしたい」33.0% (31件)等、介護の技術を学び外国人をサポートしたいという回答が多かった。
- ▶ 一方、母国を選択した方は、「介護の日本語を教えたい」が39.5% (17件)と最も高く、「介護関係の会社や学校を作りたい」、「介護技術を教えたい」、「介護以外の仕事をしたがしたい」がそれぞれ30.2% (13件)と続いており、介護や介護技術の伝承を希望する回答が多かった。

将来：したい仕事内容（複数選択）



(2) 施設・事業所票

アンケートに協力いただいた179件のうち、在留資格「介護」の外国人介護職員が就労している43施設・事業所のアンケート結果を主に掲載する。協力いただいた他の回答結果や詳細については参考資料として掲載している。

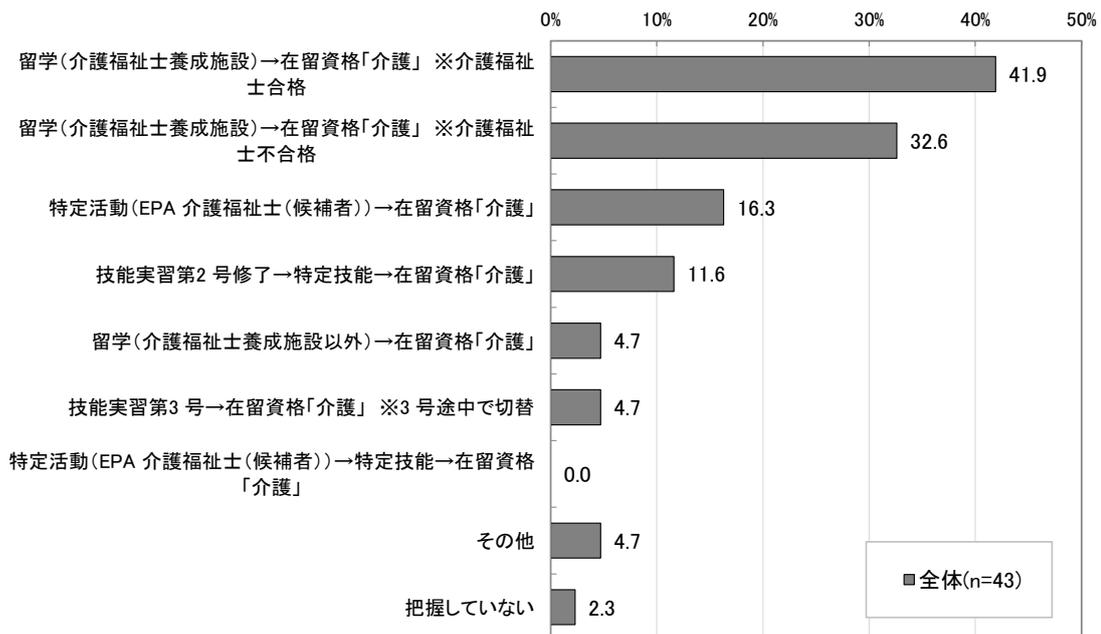
① 施設・事業所の基本情報（令和4年10月1日時点）

- ▶ アンケートに協力いただき回答のあった施設・事業所の職員数の「平均」は75.9人であった。そのうちの介護職員の「平均」は42.4人、介護福祉士の「平均」は27.0人であった。

② 在留資格「介護」に至るまでのルート別人数と経緯

- ▶ 「留学（養成施設）→在留資格「介護」 ※介護福祉士合格」が41.9%（18人）と最も高い。なお、「留学（養成施設）→在留資格「介護」 ※介護福祉士合格以外」には、不合格者と未受験者が含まれる。
- ▶ また、他の在留資格から在留資格「介護」に切り替えた経緯については、「外国人介護職員本人の意向」が92.9%（13件）と最も高かった。
- ▶ 「留学→在留資格「介護」と回答した者以外で、他の在留資格から在留資格「介護」に切り替えた理由は、「わからない」が50.0%（7件）、「永住権の取得要件になるため」が42.9%（6件）となっていた。外国人介護職員が転職した場合は、施設側は理由を把握していないことが多いと考えられる。

在留資格「介護」に至るまでのルート別人数（複数選択）（n=43）



③ 在留資格「介護」で就労する方と日本人職員の業務内容や処遇の違い

- ▶ 外国人介護職員票と同様、在留資格「介護」で就労する方と日本人職員の業務内容の違いは「ない」が90.7%、処遇の違いは「ない」が95.3%となっており、日本人職員と同様という回答が大半であった。
- ▶ 委員会活動については、在留資格「介護」で就労する方は「全員参加が必須」が79.1%と高く、委員会活動についても、日本人職員と差がない場合が多かった。

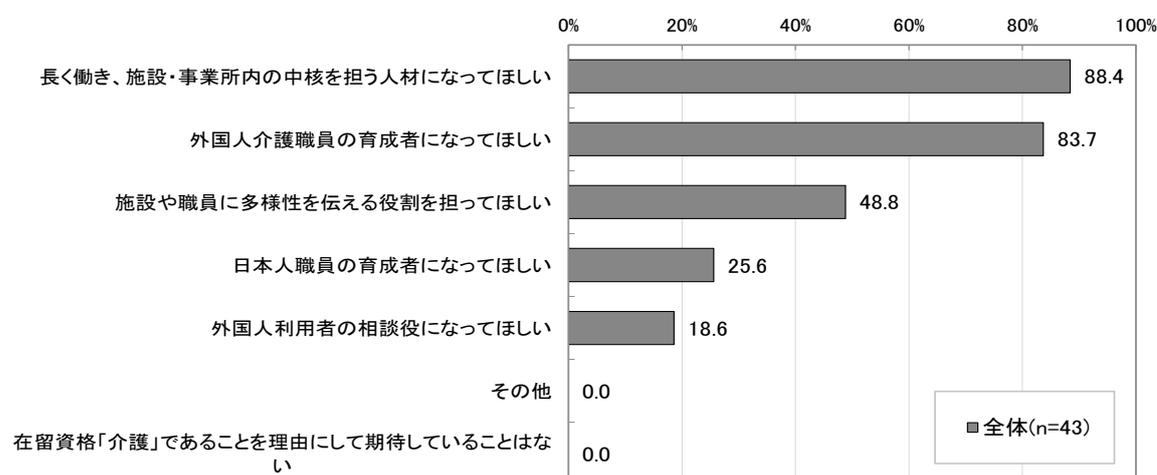
④ 在留資格「介護」で就労する方のキャリアパス

- ▶ 「日本人職員と同じキャリアパスを用いている」が81.4%（35件）と最も高く、「在留資格「介護」で就労する方向けのキャリアパスがある」はゼロであった。

⑤ 在留資格「介護」で就労する方について期待していること

- ▶ 「長く働き、施設・事業所内の中核を担う人材になってほしい」が88.4%（38件）と最も高く、「外国人介護職員の育成者になってほしい」が83.7%（36件）、「施設や職員に多様性を伝える役割を担ってほしい」が48.8%（21件）と続いている。在留資格「介護」の外国人介護職員に対して、指導者等を担ってほしいなど高い期待があるといえる。

在留資格「介護」で就労する方について期待していること（複数選択）（n=43）

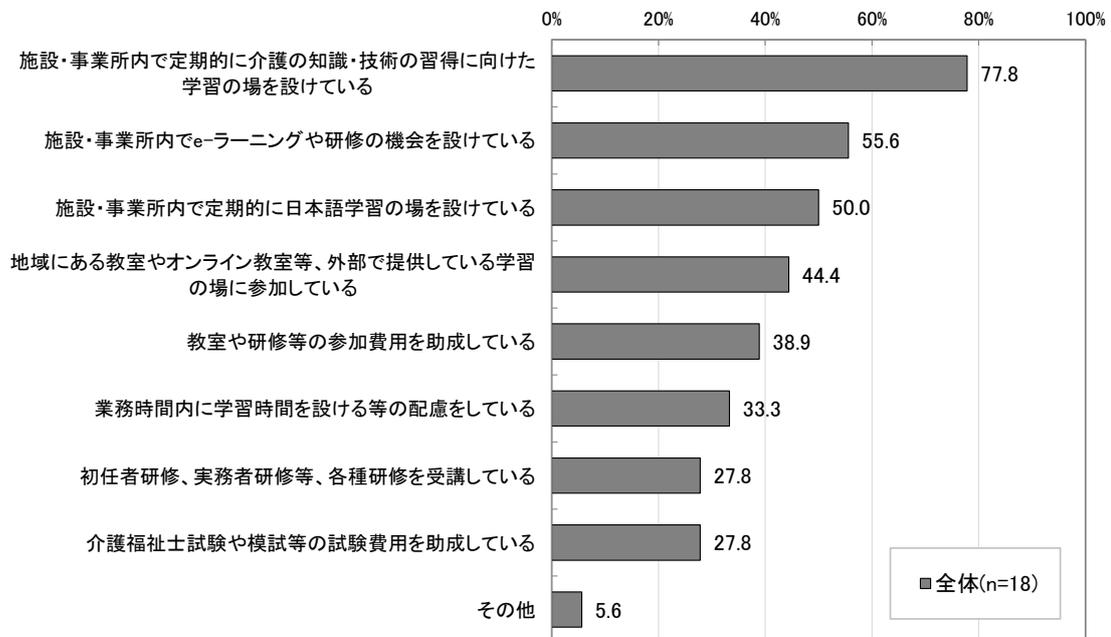


⑥ 外国人介護職員の介護福祉士取得に向けた支援

- ▶ 外国人介護職員の介護福祉士取得に向けた学習支援を行っている施設は41.9%（18件）であり、半分以上は特別な学習支援は実施していなかった。
- ▶ 「施設・事業所内（法人含む）で学習支援を行っている」場合の内容については、「施設・

事業所内で定期的に介護の知識・技術の習得に向けた学習の場を設けている」が 77.8% (14 件) と最も高く、「施設・事業所内で e-ラーニングや研修の機会を設けている」が 55.6% (10 件)、「施設・事業所内で定期的に日本語学習の場を設けている」が 50.0% (9 件) と続いている。

施設・事業所で行っている学習支援（複数選択）（n=18）



⑦ 特に力を入れた支援内容

在留資格「介護」に限らず、外国人介護職員全体に対してや留学生の頃から支援しているという意見が多かった。

- （主なご意見） ※文意を損なわない範囲で修正を加えている場合があります。
- ・ 細かい部分での介助方法などを極力平易な言葉に置き換えて、本人が理解できるよう努めた。
 - ・ 方言を標準語に直し、入居者の言葉が理解できるように努めた。
 - ・ 本人が不安にならないように、一定期間はほぼ毎日、反省会を行い、困ったことやわからなかったこと、介助についてなど幅広く話す場を設けた。
 - ・ 上司が、一人で現場を任せられると判断するまでは、本人にサポート役を付け、常に見守ることができる状態で介護現場には入ってもらった。
 - ・ 寮においては住みやすい環境づくり、アパート探しにおいても生活し易い部屋探しを心掛け、電化製品、食器等の生活必需品はすべてこちらで手配し、揃えてあげている。
 - ・ 最初引っ越してくる際の家探しや買い物等は特に気を遣った。
 - ・ 家族滞在を希望される方、出産・育児について、関係機関と調整を行った。
 - ・ 住宅に関しては外国人だけだと断られるケースもあったので、一緒に家探しをして

いる。その際の引越しも手伝っている。

- ・ 介護技術・コミュニケーション技術・書類の作成方法の指導。
- ・ 仕事内容だけでなく、私生活の事でも相談できるような協力体制を作った。
- ・ 徒歩通勤可能な社宅を購入し、市場家賃相場の半額以下で貸与している。
- ・ 介護福祉士国家試験前の合同学習への参加。(法人内にて集合し勉強を実施)
- ・ 日本語学校通学中、生活基盤が整うまでのサポートの実施、寮の完備している。
- ・ 宗教文化の配慮から食器・調理器具などは別々に購入して備品としている。また折りの時間は休憩時間を2回に分けている。

⑧ これから行いたい支援内容

これから行いたい支援については、日本語学習や介護福祉士取得のための学習に関する意見が多かった。

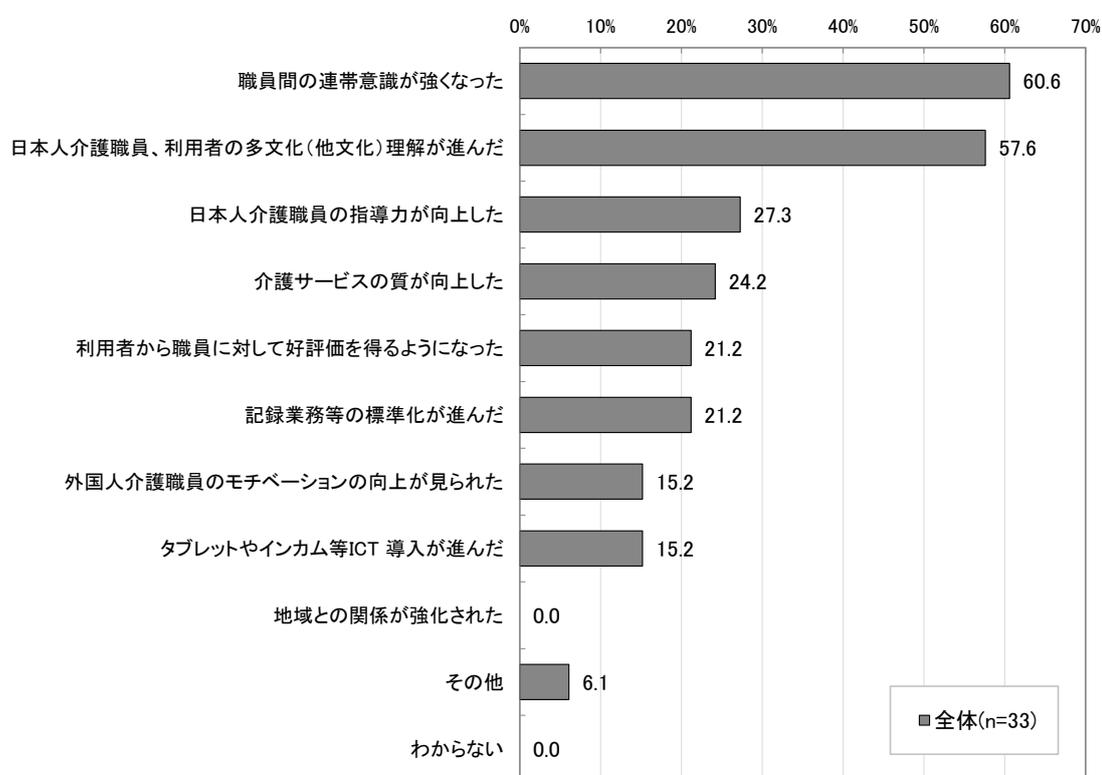
(主なご意見) ※文意を損なわない範囲で修正を加えている場合があります。

- ・ 介護福祉士の資格を取得したいと強い希望があるので、介護福祉士の資格取得に向けた、学習などの支援を行っていきたいと考えています。
- ・ 継続していききたいこととしては、公私ともに困っていることがあれば積極的に支援していく。
- ・ 言葉の壁は大きいことから、少しでも本人の能力が高められるようなアプローチができればと考える。
- ・ 介護技術向上のための勉強方法について、本人への情報提供を行っていきたい。
- ・ 受け入れ時に文化の違いで戸惑う機会があるので、お互いの交流会などを企画しある程度相互理解を培ってから業務指導などにつなげたい。
- ・ 外国人介護職員はお金を稼ぐということにシビアな面が否めないなので、書類関係のことは(年末調整や扶養控除等)確立しておきたい。在留資格「介護」の職員については、下手に日本人と差をつけることなく接していくようにしている。
- ・ 日本で、安心して長く生活ができるように、その都度、課題に対して一緒に取り組みたい。
- ・ 日本語の学習支援を考えている。

⑨ 在留資格「介護」の方が就労していることによる変化

- 「良い変化があった」が41.9% (18件) と最も高く、「どちらかというが良い変化があった」が37.2% (16件) となっており、良い変化があったという回答が多かった。
- 変化の内容については、「職員間の連帯意識が強くなった」が60.6% (20件) と最も高く、「日本人職員、利用者の多文化(他文化)理解が進んだ」が57.6% (19件)、「日本人職員の指導力が向上した」が27.3% (9件) と続いている。

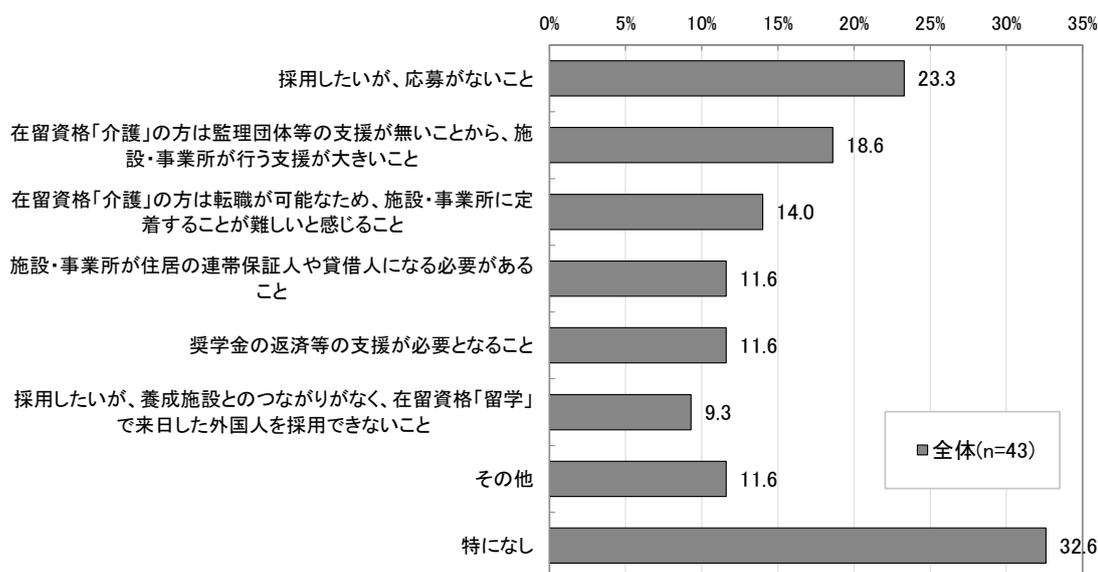
変化の内容（複数選択）（n=33）



⑩ 在留資格「介護」の方の雇用にあたっての課題

- 全体では、「採用したいが、応募がないこと」が 23.3%（10 件）と最も高く、「在留資格「介護」の方は監理団体等の支援が無いことから、施設・事業所が行う支援が大きいこと」が 18.6%（8 件）、「在留資格「介護」の方は転職が可能のため、施設・事業所に定着することが難しいと感じること」が 14.0%（6 件）と続いている。

在留資格「介護」の方の雇用にあたっての課題（複数選択）（n=43）



⑪ 在留資格「介護」の方が就労、また一緒に働くことについて感じていること

- 在留資格「介護」の外国人介護職員は、「国内の日本語学校及び養成施設を卒業しており、技能実習生や特定技能に比べて日本での生活及びコミュニケーションもほぼ問題無く即戦力になる」といった人材としての質の高さについての意見や、「在留資格「介護」の方は一生懸命に介護という仕事に対して向き合ってくれるため、指導を行うスタッフのモチベーションも上がり、職場全体が活性化され良い影響をもたらしてくれていると感じている。」といった「施設・事業所の雰囲気等の良さ」や「日本人職員に対する影響についての意見が多かった。

V. 事例集の作成

1. 作成の目的

本調査研究事業では、在留資格「介護」の実態把握と活躍支援を目的としていることから、ヒアリングやアンケートで得られた内容とともに『専門性を活かして在留資格「介護」で働く外国人介護職員活躍事例集』を作成した。すでに様々な調査研究事業において、在留資格別の特徴や受入れのスキームは示されていることから、本事例集では、ヒアリングした 10 名の外国人介護職員の活躍状況に着目した。異国の地で専門性を持って働く外国人介護職員の来日から現在までの経緯と活躍状況を伝えることで、改めて、介護福祉士の専門性や魅力も発信したいと考えている。

なお、本事例集は、施設・事業所向けに対して、在留資格「介護」がもたらす効果や活躍のために必要な支援について記載はしているが、外国人介護職員にも手に取ってもらい、自身のキャリアプランの参考にしてもらいたい。

2. 事例集の構成

- ・ 在留資格「介護」とは？
- ・ 在留資格「介護」がもたらす効果
- ・ 10名の在留資格「介護」の外国人介護職員の事例
※養成施設ルートと実務経験ルートで分類
- ・ 在留資格「介護」の方の課題
- ・ あると良いサポート（選ばれる施設になるために）
- ・ 在留資格「介護」の外国人介護職員にも活用してほしいサポート

3. 事例集

作成をした事例集は以下の通り。

専門性を活かして在留資格「介護」で働く

外国人介護職員 **活躍事例集**

全国で活躍する10名の介護福祉士を紹介します！



令和5年(2023年)3月

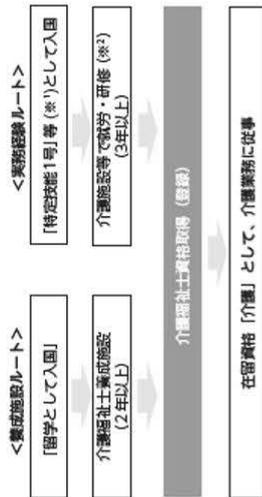
公益社団法人 日本介護福祉士会

在留資格「介護」とは？

現在、日本では、多くの外国人が介護現場で働いています。その中には、国家資格である「介護福祉士」資格を有している方がいます。彼らは、介護福祉士国家試験に合格している、または、専門学校などで介護を学んだ人たちです。

彼らの在留資格は主に「介護」ですが、在留資格「介護」は、専門的・技術的分野の外国人の受入れと留学生の活躍支援の観点から2017年9月に制定されました。出入国在留管理庁の在留外国人統計によると、2022年6月末時点で全国では5,339人の在留資格「介護」の方が働いています。

【在留資格「介護」の受入れの仕組み】



※1 他の在留資格（EPA介護福祉士等）で海外中に介護福祉士試験に合格した場合も在留資格「介護」に移行可能

※2 業務研修等の受講が必要

よくある質問

Q 他の外国人介護職員とは違うのですか？

現在、介護として就労が許可されている在留資格は4つあります。そのうち2つ（「介護」と「特定活動（EPA）」）は、介護福祉士として専門性を有する者です。
特に、在留資格「介護」は、業務だけでなく、学問としても体系的に介護を学んでいることから、専門性としての活躍が期待されています。

Q 国家試験に合格しないと、在留資格「介護」にはならないのですか？

2025年度までに介護福祉士養成施設を卒業する留学生は、国家試験に合格するか、卒業した年度の翌年度の4月1日から5年間の在留期間中に在留資格「介護」に切り替える必要があります。2027年度以降の留学生は、介護福祉士国家試験への受験及び合格が必要となります。

Q 在留資格「介護」の人はどうやって採用しますか？

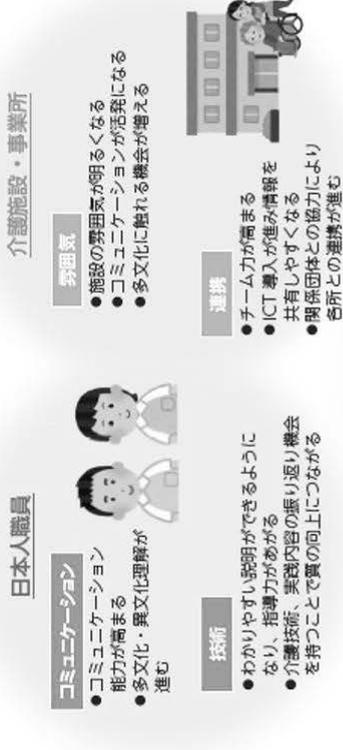
在留資格「介護」の多くは、介護福祉士養成施設の卒業生です。施設・事業所の近隣の介護福祉士養成施設と連携することが一般的です。また、技能実習や特定技能等をすでに受け入れている場合、介護業務等を3年以上就労して国家試験に合格すると、在留資格「介護」に切り替えることが可能です。

在留資格「介護」がもたらす効果

在留資格「介護」は介護の専門性が高いことから、施設・事業所では即戦力として、また、将来のリーダー候補として期待されています。業務内容や待遇も、日本人職員と変わらない場合が多いです。在留資格「介護」の方がいることで、施設や一層に働く職員には以下のような効果ももたらされることが期待できます。

また、外国人介護職員自身も、キャリアアップや介護の専門性を深めることができます。さらに、家族を呼び寄せることができる、在留資格の更新期限を延長できる等のメリットがあります。

【職員や施設・事業所にもたらす効果】



コミュニケーション

- コミュニケーション能力が高まる
- 多文化・異文化理解が進む



雰囲気

- 施設の雰囲気明るくなる
- コミュニケーションが活発になる
- 多文化に触れる機会が増える



技術

- わかりやすい説明ができるようになり、指導力があがる
- 介護技術、実践内容の振り返り機会を持つことで質の向上につながる

連携

- チーム力が高まる
- ICT導入が進み情報を共有しやすくなる
- 関係団体との協働により台所との連携が進む

外国人介護職員



● 在留資格「介護」の場合、在留期間は5年、3年、1年、3か月がある。

生活

- 家族帯同が可能
- 在留資格の更新期限が延長される*

技術

- 専門的技術・知識を深めることができる
- 業務の幅が広がる

キャリアアップ

- 施設・事業所内でキャリアアップできる
- 賞金や待遇面が向上
- 外国人介護職員のロールモデルになる

【外国人介護職員にとってのメリット】

次ページから、実際に在留資格「介護」として活躍している外国人介護職員を紹介しています！
P 3～ 養成施設ルート出身者
P 17～ 実務経験ルート出身者

グエン ティ クイさん (クイさん)



出身: ベトナム
日本語能力: N2
家族: 夫(家族帯同)
居住先: 千葉県

おじいちゃん、おばあちゃんが好きなので、介護の仕事を選びました。自分がその笑顔を利用者が笑顔になって、自分がその笑顔を作ることに関われることができて嬉しいです。



【働いた施設、事業所からの支度は?】

- ・ 来日した時はNSでしたが、日本語学校卒業時にN2に合格して、介護福祉士の勉強も始めていたので、特別なサポートがなくても大丈夫でした。
- ・ 同じ年齢の魅力的な日本人職員が施設にいるので、お手本になっています。仕事が早くて上手で、ケアマネジャーの資格取得を目指している熱意のある人です。生活面でも仕事面でも相談できて心強いです。

【あなたにとって介護福祉士とは?】

2017年に介護福祉士に合格しました。介護福祉士は、高齢者や障害者の日常生活をサポートすることが求められており、日常を生かせる喜びと感謝を見出すようにする仕事だと考えられています。私は、介護福祉士になったことで、介護技術がしっかりと実感できるようになったと感じています。これから在留資格「介護」を目指す人には、最初に通訳で日本語を勉強して、国家試験に合格してほしいです。そうすれば日本に長く滞在することもできます。



在留資格「介護」

将来

今の職場で働き続けて、様々な経験を積みたいと思っています。訪問ヘルパーや介護老人保健施設の仕事も関心があります。将来母国に帰った時、技能実習生など日本を自国の人たちに自分の経験を教えたいです。

現在

2017年4月
特別養護老人ホームのまわりの丘 入職
専門学校の実習の時に施設の雰囲気や設備が良く、就職したいと思いました。
最初は利用者さんとの担当から始めて、今は5名を担当しています。
今では業務の理解が深まり、新人のミスにも気づいてあげられるようになりました。

こうやって介護福祉士に合格しました!

学生の時は友人と暮らしていたため、学校に預かって16:30頃まで試験勉強してからアルバイトに行きました。22:00頃に帰宅して夕食を食べた後、翌日の授業の予習したり、わからない漢字を調べたりして1時間程度勉強しました。漢字、専門用語、日本の社会制度がよくわからず、学校の先生に教えてもらいました。合格後もうからない日本語は紙に書いて覚えていました。



【留学】

2015年4月
介護専門学校(養成施設) 入学

日本人と一緒に勉強をしたり、日本語を教えるでもらったりしました。生活に困った事があつた時はすぐ相談できました。専門学校に通って日本人の友達ができたことは、本当に良かったと思っています。



2013年4月 来日
日本語学校 入学
日本語を学ぶために来日しました。友達や日本語学校の先生から話を聞いて介護の仕事を知りました。
留学生の時は、通う介護施設でアルバイトしていました。

来日前
ベトナムでは日本と比べて介護施設が少なく、介護について知りませんでした。

社会福祉法人松栄会 特別養護老人ホームのまわりの丘

〒270-2218 千葉県松戸市五輪 5丁目1-9-8
<https://www.happy-sunflower.or.jp/>



サービス: 特別養護老人ホーム/ショートステイ
定員: 従来型50名、ユニット型40名、ほか
職員数: 190名 (内介護職員90名、内介護福祉士49名)
外国人介護職員: 17名
「介護」12名、留学(養成施設)4名、
技能実習5名、その他6名
「ベトナム」14名、「中国」12名、「フィリピン」1名



クイさんはキャリアパスにおける職位が中堅クラスであるため、リーダー業務を任せているほか、外国籍スタッフの育成や相談の面で活躍しています。ベトナム人技術実習生は、通訳も兼ねてクイさんが指導しており、満足だと感じています。

当施設では技能実習生を3年ほど前から受け入れており、前クラスが受入体制を整備しています。2020年からは、千葉県プログラムの留学生も受け入れています。キャリアパスには「専門職」1名、副主任、主任等の役職を目指すリーダー職1名あり、外国人、日本人を問わずどちらのルートも目指すことができます。



主任
榎木さん

エンバートル ナルマダブさん (ナルマダブさん)



出身: モンゴル
日本語能力: N2程度
家族: 夫・子ども1人(家族帯同)
居住先: 富山県



初めて富山県に来たときに大層が降ってびっくりしましたが、今は慣れました。富山はキレイです。夫・子どもも、富山県を好きになりました。これから富山で暮らしたいと思います。



「留学」

2020年 福祉短期大学 (養成施設) 入学

医学大学 卒業 (モンゴル)

2020年4月に入学しましたが、コロナのため半年間休校でできませんでした。週末はみどり寮でアルバイトをしており、見守りを中心とした業務を行っていました。



来日前

子どもの頃から日本に関心があり、中学生・高校生の時日本語の勉強をしていました。医学大学を卒業して医師の仕事をしていました。介護の仕事に興味がありました。モンゴルには介護の仕事がなかったため、日本で介護の仕事をしたたいと思つたようになります。

特定医療法人財団五省会 介護老人保健施設みどり苑

〒939-8252 富山県富山千秋が丘1-46-1
<https://www.sainourip.or.jp/~midori/>



サービス: 介護老人保健施設
定員: 入所: 100名、通所: 70名
職員数: 113名 (内介護職員 49名、内介護福祉士 44名)
外国人介護職員: 3名
「介護」12名、「留学」1名
「モンゴル」13名

【嬉しい! 施設・事業所からの支援は?】

- ・ 国家試験の勉強のための本は、みどり苑に買ってもらいました。
- ・ いろいろな支援がありがたかったが、みどり苑の職員の方からいろいろ何か必要なことはいいと聞いてくれました。仕事以外に家族や生活についても話を聞いてくれます。

【あなたにとって介護福祉士とは?】

介護の仕事では、利用者や自分の家族のように接すること、そして、コミュニケーションをたくさんとって、相手や向き合いの気持ちや気持ちを大切だと感じます。利用者のそれぞれに合った介護を提案すること、何か変わったことがないかを観察して、よく話を聞いて、何を求めているのかを考えなければいけないと思います。介護福祉士になる前は取守が多かったです。今は担当する利用者には責任を持って接しています。利用者の気持ちや理解できるように努めては、自分ももっと何かしてあげたいという気持ちも強くなってきました。



在習資格「介護」

現在

2022年4月 介護老人保健施設みどり苑 入職
就職後は、日本人職員と同じ業務内容です。先達の方が慣れ、教えてくれるので、思うことはあります。モンゴルの先輩も同じ法人や施設内にいるので、心強いです。

将来

介護の仕事を続けたいと思っています。まずは5年間、みどり苑で働くことを決めていますが、その先ももっと長く働きたいと思っています。今年度は、モンゴルの医学大学の修士課程に合格しました。医師の資格は5年更新なので、オンライン勉強を頑張りたいです。プライベートでは、子どもがいるので、ママ友でもできました。ママ友達とはハルマールをしています。

【富山県内で働く外国人介護職員向け とやま方言マニュアル】の作成に協力しました!

好きな富山の方言は「どのどな」(あがどう、すみませんの意味)と「どきどき」(新鮮な、いい感じの意味)です。利用者の方に富山弁を教えることもあります。施設では「とやま方言マニュアル」を使ったイベントを実施。この富山弁の意味は何でしょうか?とモンゴル人職員に聞けば、利用者がヒントを出して回答。最後にはそれぞれをモンゴル語で何なのか、モンゴル人職員に教えてもらいます!



作成: 富山県庁 厚生部厚生企画課地域共生課福祉係



今後、外国人介護職員の受け入れが増えることが予想される中で、将来、ハルマダブさんのような優秀な外国人介護職員がリーダーになって活躍してほしいことを期待しています。



外国人介護職員も日本人職員と同様の人事考課で、キャリアアップすることが可能です。留学生のときからアルバイトで受け入れていたため、学校とも連携し、学習面のサポートを行っています。就職してから、現場の職員と人事が連携し、福利厚生ながら、外国人介護職員のサポートをしています。また、外国人介護職員の場合は住宅手当の適用を期間限定にしているため、安心して長く働くことができます。

本報 吉田さんより

グエン ティ アインさん (アインさん)



出身:ベトナム
日本語能力:N2
家族:一人暮らし
居住国:大分県



アインさん

ハワさん

働いている頃は、朝やスーパーも出かけても使わずに、住みやすいと感じています。



同じ施設で働くハワさんの紹介は39ページです！

「留学」



医療法人新英会 介護老人保健施設さくらがわ
〒556-0022 大阪府大阪市東区細川4-10-13
<https://keieikai.com/institution/>



サービス:介護老人保健施設
定員:入所100名、通所30名
職員数:102名(内介護職員56名、内介護福祉士42名)
外国人介護職員:12名
「介護」10名、留学(養成施設)2名
「バトナム」11名、「ロシア」1名

【申し込んだ施設・事業所からの支援は?】

- ・「大阪介護福祉支援プログラム」で入職しています。契約書は、大阪介護老人保健施設協会でバトナム語翻訳したものが用意されています。
- ・相談しやすいのは主任や直接の上司です。おさんかみかいて話しやすいです。バトナム語がわかる人ははいませんが、職員が交えてくれています。

【あんなに頑張って介護福祉士とは?】

見よう見まねで介助することもできますが、介護についてしっかりと勉強をすることで、自身の負担軽減になる介助方法を身につけることができます。また、介護の勉強を通して、介護技術について理解を深められるだけでなく、利用者の状況によって判断することができるようになります。

介護福祉士は、資格の取得レベルが高いため、自分自身の職業スキルや価値を高めることができます。高年齢の方から学ぶこともたくさんあります。

在留資格「介護」



施設では、外国人でリーダーをしている人が5年、2人とも最初は「無理」と思ったのですが、主任から「職員にバトナム人が増えているので大丈夫。応援する。」と書かれてきました。後輩の指導で退職しています。(アインさん)

周りの人にも伝えてもらっています。リーダーは責任が重なり、いろいろ考えなければならず、しつかりるけれど思ってたよりも楽です。(アインさん)

アインさん、ハワさんがリーダーになったときは、周りはお祝いムードでした。2人とも明るい性格なので、日本人職員も喜んであげたという気持ちになっています。利用者にとりまわっている姿を見て、他の職員も原居暮らしをしています。



本館職員
竹本さん(ハ)

「留学」から正社員になる介護資格「介護」の職員は、アルバイトの時から関わることができ、日本語も上進しているため前向きに受け入れてもらっています。
外国人介護職員は、就職してからの方が利用者と関わる機会が増えて、楽しそうにしています。早く一人前になりたい。やる気が出るようになります。

現在、記録簿を書きかきプログラムに変更しています。もともと、作業効率を上げるために導入しましたが、外国人介護職員の記録業務に効果があると感じています。

グエン ティ ハウさん (ハウさん)



出身: ベトナム
日本語能力: N2
家族: 一人暮らし(1月に結婚)
居住地: 大阪府



働いている頃は、ちよとにきやがりますが、職場からも近くて便利なところが気に入っています。



「留学」

2016年7月 来日
医療短期大学 卒業 (ベトナム)
来日前 医療短期大学の先生が日本で看護師をすることがあり、話を聞いて、来日前は看護師になりたいと思いました。

2017年4月 入学
介護専門学校(養成施設)

専門学校では、先生も優しく、日本人の友人もできました。日本人の友人とは、一緒に勉強したい、授業以外でも遊んだりして入職しました。



ハウさん アインさん

医療法人新英会 介護老人保健施設さくらがわ
〒556-0022 大阪府大阪市海東区櫻川4-10-13
<https://reikeikai.com/institution/>



サービス: 介護老人保健施設
定員: 入所100名、通所30名
職員数: 102名 (内介護職員56名、内介護福祉士42名)
外国人介護職員: 12名
「介護」110名、留學 (養成施設) 2名
「ベトナム」111名、「ロシア」11名

【働いた施設・事業所からの支那は?】

- ・ 大阪府の奨学金制度
 - ・ 大阪介護留學支援プログラム
- 【在留資格「介護」を目指す人に伝えたいこと】
- ・ 介護の仕事は、大変なことはほとんどの仕事ではありません。勉強ができるいい環境です。

【あなたにとって介護福祉士とは?】

介護の仕事で大切なことは、介護の知識をしっかりと身につけておくこと、心を込めて介護をすることだと思います。

介護福祉士になった後は、もっと自信をもって仕事ができるようになりました。責任も大きくなるので、もっとちゃんと仕事をしたいというプレッシャーもありますが、経験が上がるなど待遇もよくなるので、仕事のやる気も大きくなりました。



在留資格「介護」

現在

2019年4月 介護老人保健施設さくらがわ

新英会の正社員になりました。就職してから今までは給食委員会に入っています。最初は日本語が通じなくて困ることがありましたが、何でも教えてもらえるので勉強していることはありません。

将来

介護の仕事は自分に合っていると感じており、他の仕事をしたいと思つたことはありません。

介護福祉士国家試験と日本語能力試験 N1 の合格を目指しています。

ケアマネジャーの資格も取りたいと思っています。経験を期に活躍するつもりですが、日本に滞在して何かの形で介護の仕事を経験していきたいと思っています。

職場で語学交流をしています!

介護専門学校の時にアルバイトしていた和歌山県の敬英会の施設で利用者がから和歌山弁を教わったのをきっかけに、最初は和歌山弁を使っています。職場にはベトナム語に興味を持って学び始めた日本人の同僚がいるので、ベトナム語を教えています。ベトナム語がきっかけとなって敬英会でアルバイトを始めた人もいて、語学の交流が広がると思います。



敬英会系のグループホームに、認知症でもと全英語をしない利用者が多いので、外国人介護職員が抱えるようになつてからその利用者は、「あんたか、日本語下手やな」と日本語や和歌山弁を教えるようになり、よく話すようになりました。

日本人職員も、外国人介護職員の偏見に対して説明することが根の深りにつながっており、教えることを通じて良い効果が表れていると感じます。

外国人介護職員は、1か月程度休暇を取り、帰国する方が多いです。全員が同じ時期に帰国してしまつて困りますが、アインさん、ハウさんが中心となって外国人介護職員同士で調整して、重ならないように休みを取つて付けています。



主任 西垣さん

アグマタ フランセス クレスタ ベルナルドさん (フランちゃん)



出身：フィリピン
日本語能力：N2
家族：夫(フィリピン在住)
居住地：香川県



公共交通機関は不便ですが、接客が少ない地域であり、穏やかに生活できています。職場で使う専門用語がわからない時や、方面に戸惑うことがあります。これからは頑張ります！



「留学」

2019年9月 再来日
介護専門学校(養成施設)入学

日本語能力試験N2を取得しており、日本で介護の仕事ができるため再来日しました。養成施設に通いながら、珠光園でアルバイトをしました。養成施設では介護の知識が深まりました。日本文化を体験でき、とてもいい思い出です。

帰国

帰国後1年半、日系企業で翻訳の仕事をしていました。

来日

2014年10月 山梨県の半農半工場で3年間働きました。このとき日本語能力試験N2に合格しました。



来日前
フィリピンの日本語学校に1年半通って日本語能力試験N4に合格しました。日本語能力を伸ばしたいと思い、日本に行くことを決めました。

社会福祉法人厚仁会 特別養護老人ホーム珠光園

〒763-0084 香川県丸亀市飯野町東2-25-7
<http://jukoen.jp/>



サービス：特別養護老人ホーム
定員：61名 (内介護職員37名、内介護福祉士25名)
総床数：58名
外国人介護職員：4名
【介護】13名、留学1名
【リハビリ】3名、【フィリピン】4名

【働きかた】施設・事業所からの支援は？

・ 留学生の時に、施設から日本語や介護に関する学習支援を受けていました。
・ 香川県の県庁を支援しています。安心して留学できる制度です。また、留学中は施設から生活支援費を受けました。

【あなたにとって介護福祉士とは？】

介護の仕事は利用者の状況を個別に把握する必要があるため、忍耐力、忍耐力、判断力と観察力が求められます。介護福祉士に求められるのは、利用者の身体的状況、精神状況を把握しながらサービスを提供し、普通に近い生活が送れるように環境を整える工夫をすることです。介護福祉士になる前は、自分の有効期間、資格手当の有無、業務内容に違いを感じました。試験前の1カ月はアルバイトもせず勉強して、1回目の試験で合格しました。



在習資格「介護」

将来

現在自己研鑽として現場で起る事故等の勉強をしています。
今後も珠光園で働き、日本でも活躍したいです。
正社員として日本人と変わらない給与で働くことができ、日本は子育て制度が整っているのが安心しています。
ケアマネジャーや他の職種は考えておらず、介護の仕事が続きたいと考えています。

現在

2021年4月 特別養護老人ホーム珠光園 入職
介護の仕事はゼロからのスタートのため、はじめは難しかったです。
介護の仕事はゼロからのスタートのため、はじめは難しかったです。
アルバイトから正社員になったのは、夜勤と利用者担当することで、ケアプランも考えます。
委員会活動にも参加しています。

2021年3月 介護福祉士 国家試験 合格

職員全員が同じ量の記録を取ることができ、記録ソフトを使っています。

記録ソフトのおかげで、記録作業が楽になっています。端末はiPadを使用しています。iPadを使って言語や漢字を調べたりもできて便利です。(ワンズさんより) 外国人介護職員が日本人と同じ量の記録が取れないと、夜勤に入ることができず、日本で生活するだけの給料が入らないという問題が起きています。そのため珠光園では、医療介護関係の機器メーカーと一緒に Care workers という記録ソフトを開発しました。

「かんたん入力」と「14ヶ国語対応」を標準装備しています。多くの施設にこのソフトの長を知り、ぜひ導入していただきたいと思っています。



フランちゃんは、留学生として来られた時からコミュニケーションが得意でした。専門学校卒業時には国家試験に一回で合格し、2年が経過します。仕事上では方言もマスターして、常に素敵な笑顔で利用者さんと関わっています。
今後とも長く活躍してもらえたらと思います。



施設長 藤井さん
副施設長 亀井さん

留学生が勉強とアルバイトを両立して介護福祉士資格を取得できるよう、金曜日の授業を休みにして、土日に厚仁会の施設でアルバイトできるようにしています。
日本人職員と外国人介護職員に業務や知識、キャリアパスの違いはありますが、日本でもいい思い出を作ろうと、介護は面白く感じています。

チャン ティ キム ヒエンさん (ヒエンさん)



出身: ベトナム
日本語能力: N2
家族: 一人暮らし
居住地: 熊本県



外国人と日本人が平等に一緒に働くことができる職場は多くないと感じていたため、待遇面でもやりがいを感じます。仕事に行くと利用者との交流を楽しみ、利用者らに合ったケアプランをもつと上手に作れるように努力しています。



「留学」

2015年3月 来日
日本語学校 入学

様々な国の友達ができ、これはうれしかったんです。皆と一緒にスポーツ大会に参加して、文化交流することも楽しめた。

2017年4月
介護専門学校(養成施設)
入学

クラスメイトとグループで勉強することもあり、今でも一緒に行事に行っている。特別養護老人ホーム 輝祥苑でアルバイトをしていたが、通5の近い介護ホームに移って週2回アルバイトをした。



来日前

社会福祉法人リデライトホーム
地域密着型ユニット型介護老人福祉施設 ノットホーム
〒860-0862 熊本県熊本市区黒瀬5丁目23-1
<http://riddleil-wright.com/office/#toc8>



サービス: 地域密着型介護老人福祉施設入所者生活介護
定員: ユニット型29名
職員数: 21名 (内介護福祉士9名)
外国人介護職員: 1名 (介護1、[ベトナム])

【申し込んだ施設・事業所からの支援は?】

- ・ 法人からの奨学金と熊本県社会福祉協議会の修学費付金があつた。
- ・ 熊本県社会福祉協議会の修学費付金は、5年間熊本県内の施設で働いた場合返還義務が無いのです。

【あなたにとって介護福祉士とは?】

介護福祉士に求められていることは、利用者の生活を尊重して、支援することだと思います。また、介護福祉士の専門性は、利用者の自立に向けた介護を支援すること、長期でその人らしく生活できるように考えています。介護の専門職として自分自身の行動に責任を持つべきだと感じています。



在留資格「介護」

将来

現在

2021年3月
介護福祉士
国家試験
合格

2021年4月
地域密着型ユニット型
介護老人福祉施設 ノットホーム 入職
リデライトホームは人間関係が良さそうで働きやすいと判断して入職を決めました。外国人は一人だけですが、前には不安はなかった。今、日本語を学ぶための気持が強く、介護の専門用語も覚えたいです。

介護資格がなかったら、通訳の勉強もしたいです。もう1回学校に行きたいし、通訳専門学校に通って学ぶのがいいかなと思います。日本語のほか、パソコンのスキルも身に付けたいです。やりたいことがたくさんあります。

在留資格の申請手続きは、自己責任で自分でやっています。

出入国在留管理庁に自分で申請書を取りに行き、会社が記入する書類は会社に作成を依頼します。やり直しが多く一度で手続が終わることはありませんが、何かあつたときに自分で責任を持つたいと思つて行動しています。在留資格は、更新するたびに運転免許やマイナンバーカードも更新しなければならず、負担が大変だと感じます。



認知症の人の介護では、介護職の会社は一般的に減りますが、ヒエンさんは声掛けをしっかりと行っています。一度指示をすれば任せられることが多く、ユニットリーダーからの信頼も厚く、やりがいもたくさんあります。

外国人介護職員の受け入れ業務が少ないため、入職前に個人の要望を聞いて対応しています。業務やキャリアパスは外国人と日本人の違いはなく、通訳通所を考えています。まだまだ手探りの状態で、一法人でできることには限界があるため、複数の法人で働きたいと考えています。



管理部長
米田さん

カルキ サダイさん (サダイさん)



出 身：ネパール
日本語能力：N2
家 族：一人暮らし
居住者：熊本県

コロナ禍が過ぎたら、レクリエーションを再開して利用者に来てもらいたいです。一緒に外出もしたいです。利用者から「今日も会えてよかった」と言われるだけでも嬉しいですね。



「留学」

2017年 来日
日本語学校 入学
日本語を聞いて頑張って勉強したことが、今では嬉しい思い出です。

来日前
留学したいという気持ちがあったが、家族から「留学するのなら日本が良い」と言われて日本に決めた。そのときは、介護という職業も知りませんでした。

2019年4月
介護専門学校(養成施設) 入学
日本語学校の先生に介護の学校に行くことを勧められました。最初はやっつけけるかな不安がなかったですが、先生やクラスメイトに助けってもらいながら一緒に卒業できたことがいい思い出です。専門学校の時にボランティアでアルバイトもしました。

社会福祉法人立杏福祉会 特別養護老人ホーム輝祥苑
〒860-0045 熊本県熊本市区西戸畑町23番35号
https://frcsi.or.jp/kishouen.html#kishouen_ty

サードス：特別養護老人ホーム
定 員：60名 (内介護職員36名、内介護福祉士27名)
職員数：45名
外国人介護職員：6名
「介護」3名、留学者3名
「ネパール」5名、「モンゴル」1名

【嬉しい施設・事業所からの笑顔は？】

- ・施設の奥字金
- ・アルバイトのときは、試験前に休みを確保してもらい、専門学校卒業後に介護福祉士国家試験に1回で合格しました。

【あなたにとって介護福祉士とは？】

介護の仕事は利用者の日常を支える仕事です。介護福祉士の資格を持っていると、「介護過程」を理解できるようになります。利用者の要望に対応するためには、発達現して介護福祉士に合格して、「介護過程」を理解してからでも遅いと思います。介護の仕事についてはきちんと勉強することが大切だと思います。



在留資格「介護」

● 過去 ● 現在 ● 将来

2021年3月
介護福祉士
国家試験
合格

2021年4月
特別養護老人ホーム輝祥苑 入職

2021年4月
特別養護老人ホーム輝祥苑 入職
輝祥苑は環境がよく、人間関係や利用者への接し方もよかったです。アルバイトからそのまま就職することを決めました。最初は先遣期について何でも聞くことができたので、困ったことはあってもすぐに2年目からは、記録を一人で書くようになることができました。

感染症対策、認知症ケア、薬学の専門知識を学びたいです。最終的には、日本に来る養護生のために通訳にやりたいです。介護を学ぶ養護生はもろもろ、介護を学ぶ人以外の力にもなりたと思います。

尊敬できる素晴らしい先輩がいます！
仕事は同じですが、同じ国籍の先輩がいます。先輩の先遣期が長い、気持ちを理解してもらって感謝しています。利用者との関係、仕事の仕事、言葉遣いが丁寧で、お手本になっています。同じ国籍の先輩がいて安心できたと同時に、これから日本に来る後輩たちを支えたいと思っています。



サダイさんは、「入居者に会うのが楽しみ」と言うように、彼女の笑顔が入居者の表情を明るくしているところが素晴らしいと感じています。ケアの提供に国籍は関係ないことを日々実感しています。

介護福祉士養成施設で学びながらアルバイトをして施設に入職した外国人介護職員は、業務の流儀は理解してあり、スムーズに業務に入ると感じています。日本語もN2～N1レベルで意思疎通に問題はありません。コミュニケーションがしっかりと取れること、利用者にもきちんと向き合っているリーダーになるための条件は、外国人介護職員は期待がもたれ、配慮もできるので、いずれはサードユーザーやコーディネーターの役割に就いて活躍してほしいと感じています。



施設長
今村さんゆり

デシ スバルカさん (バルカさん)



出身: インドネシア
日本語能力: N3
家族: 妻、子2名 (インドネシア在住)
居住地: 宮城県



介護福祉士となるためにたくさん勉強し、自信をのこす回りの経験を掛けました。宮城県の気候が合います。冬はインドネシア出身の友人と一緒に、スキーを楽しんでいます。



来日前
人の世話をすることに興味が
あり、看護学校に入学しまし
た。看護の勉強経験がなく
日本で看護職になれないため、
介護で働くことになりました。
介護のことは日本でも働くこと
を始めたときに知りました。

看護学校 卒業
(インドネシア)

2010年6月 来日



帰国
帰国中は家族と過ごしたり、
国家試験の勉強をしました。

「特定活動」
(EPA介護福祉士候補者)

2010年6月～2014年2月

EPAの時は、東京での研修や
施設研修もあつても楽しかつ
たです。勉強も頑張つて、友達
とも交流できました。
横浜で6か月研修を受けた後、
現在と同じ法人の介護老人
ホーム 松陽園で働きました。

【申し込んだ施設・事業所からの支援は?】

- ・ 介護福祉士に合格すると、受験費用は施設が負担してくれます。
- ・ 休みが取りやすく、一時帰国しやすいところに働きやすさを感じます。
- ・ ビデオの手続きを手伝ってくれました。
- ・ 住居の電気製品とWi-Fiは施設負担で、新築補助があります。



【おむたにどうして介護福祉士ですか?】
日本で働き続け、技術を学びたいこと、家族の生活を経済的な面から支えたいという理由で介護福祉士を目指しました。
合格後は、会社の配属等を担当するようになり、業務の理解だけでなく、日本語が上達しました。
介護は専門職であるということにやりがいを感じています。

在留資格「介護」

現在

2016年3月
介護福祉士国家試験 合格
国家試験を受けると同時に短期滞在で来日して受験し、合格することができました。

将来

2017年4月
特別養護老人ホーム松陽苑 入職
松陽苑に入職するため、再来日しました。現在は、海外人材の担当者としてインドネシアで開催する施設合同説明会や面接に同行することがあります。

キャリアパスで前進! リーダーになって頑張っています。

2022年2月に、周りの人の応援もあり、外国人介護職員として初めてリーダーになりました。施設のユニコーンリーダーと海外人材の担当をしており、後輩の外国人介護職員をまとめたり、生活支援をしています。

リーダーは業務も多く、利用者だけでなく職員のことを考えなければならぬので大変ですが、キャリアを積んでいけることを実感もしています。



社会福祉法人宮城福祉会 特別養護老人ホーム松陽苑

〒981-1231 宮城県名取市手倉田字八幡80番地の1
<https://www.miyafuku.jp/natori/general>



サービス: 特別養護老人ホーム、ショートステイ
定員: 入所95名、ショートステイ5名
職員数: 80名 (内介護職員44名、内介護福祉士28名)
外国人介護職員: 7名
介護11名、EPA介護福祉士候補者3名、
技能実習2名、その他1名
インドネシア16名、フィリピン1名



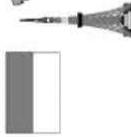
外国人介護職員は、常に笑顔で、優しい方が多いです。みんなさんにも優しくお話をし、利用者の方々ご家族からとても信頼されています。

不備日は地元の大学生が来預し、日本語を教えるボランティアをしています。ボランティアのお陰で、外国人介護職員の日本語の会話が上手になったと感じています。
また、企業日には、県の委託を受けている地元大学の大学が介護福祉士合格のための勉強会を開催しています。介護福祉士資格取得のための講師や大学の先生が教えてくれており、外国人介護職員も参加しています。



副施設長
伊藤さんより

ニ プトゥ スパデミさん (プトゥさん)



出身: インドネシア
日本語能力: N2
家族: 夫、子ども1人(家族仲間)
居住地: 神奈川県



外国人スタッフのお母さんのようになり、
なついで、相談しやすいと評判です。
カホーしすまで、日本人職員に心寄せられるこ
ともあります。
住まいの大家さん、保育園の先生、ママ友達
みんな親切に接してくれます。



「特定活動」 (EPA介護福祉士候補者)

2014年12月
特別養護老人ホーム白金の森
入職



2014年6月 来日
名古屋で6ヶ月研修を受けま
した。沢山の仲間と毎日生活
して、家族のような絆が出来た
と思います。帰国してしまいた
く、今でも連絡を取り合ってい
ます。日本語の勉強など、分か
らないことを一緒に考えること
ができたので安心でした。最終
日はみんなと贈り物の交換し
て戻りました。

来日前

大学卒業後、看護師として就労しました。
看護に興味がありました。未経験で応募できる
「EPA介護福祉士候補者」に応募しました。
その時は介護がどのようなかわかりませんでした。

社会福祉法人 奉徳会 港区立特別養護老人ホーム白金の森

〒108-0071 東京都港区白金台5-20-5
<https://www.foryou.or.jp/facility/shirokane/>



サービスマン: 特別養護老人ホーム/ショートステイ
定員: 特養90名、ショートステイ78名
職員数: 91名 (介護職員53名、介護福祉士19名)
外国人介護職員: 23名
「介護」16名、EPA介護福祉士候補者11名、
EPA看護師3名、技術要員2名、特定技術1名
「ヘルパム」7名、「インバネシア」116名

【働いた施設・事業所からの支那は?】

- ・ 日本型と介護技術の学習支援があります。
- ・ ラマダン中、狂気の夜明けの配慮があり、産前産後の復健支援もあつて働きやすいです。
- ・ 外国人スタッフがコロナウイルス感染症にかつて重症化にまつて重症化にまつた時は、施設職員が母国の会話をホテルまで聞かれています。

【あなたにとって介護福祉士とは?】

介護福祉士に合格してよかつたことは、自分がやっている仕事に自信を持つことが出来た
ことです。ご利用者の事を第一に考えて行動することが、介護福祉士に求められているこ
とだと感じます。
介護の専門性については、相談を持つて仕事をすることと考へています。
介護福祉士になつた後は、自信がついたので自分の能力を認めるようになつたり、介護
は楽しい仕事であることも伝えることができました。



在留資格「介護」

将来

現在
現在時短勤務で職員22名の指導をし
ています。
白金の森は自分の高橋も入れたいと思つ
たいから一歩ずつ進めたい、利用者のこと
を考へているところがあります。

2018年3月
介護福祉士国家試験
合格

在留資格「介護」は、勉強して国家資格を
取らないと取得できないためかいいと思
い、在留資格更新のタイミングで切り替え
た。2019年に主任になり、その後1年半程
履修科目を履修しました。

専門研究委員会に参加して勉強しています!

専門研究発表会では、先輩職員や上司のみならずにもたくさん学べることがあつたり、
日本語を上手に話せること、人間に接することができると勉強になりました。
一緒に発表する職員の人と仲良くなることもできて良かったです。



白金の森では、プトゥさんが外国人介護職員で初めての役員とつたり、記録
チェックやケースマネジメントなど、主任ならではの業務を任せています。



当施設では、事務課に外国人介護職員専属の職員を配置して、公私を問わず対応しています。
専属職員が、学習支援の授業を考へたシフトの調整もしています。
礼拝のための会堂を、ラマダン中のシフトの調整 (入浴介助の免除等)、勤務時間中の学習時
間確保など、長/短/休/休を考へることが出来る体制が保たれています。
外国人介護職員を受け入れたことで、日本人職員も多様性を認められることがあつたり、職員
間の連携が強くつなげてもらっています。



施設長
成田さんより

ジェニ アゲステイさん (ジェニさん)



出身: インドネシア
日本語能力: N3
家族: 夫、子ども 1人 (家族帯同予定)
居住先: 広島県



仕事のレクリエーションのからオケと、市内のショッピングモールを見て歩くのが楽しいです。
 平和記念公園も好きです。
 家族と一緒に住むことができると嬉しいです。



「技能実習」

2012年 来日 (インドネシア)
 2012年～2016年 特別養護老人ホームなごみの郷 (EPA介護福祉士候補者)

大学卒業後、すぐに来日して、香川県で介護の仕事でした。EPAで働いた法人にはインドネシア人が多く、困ったことがあたら先輩や友達になんでも相談できることが多い出です。
 香川県のうどんはほんとにも美味しくてびっくりしました！



社会福祉法人正仁会 特別養護老人ホームなごみの郷
 〒739-1732 広島市佐伯区常盤南阿196-1
<https://www.nagominosato.jp/>



カーブス：特別養護老人ホーム
 定 員：特養80名、ショートステイ20名
 職員数：54名 (内介護職員52名、内介護福祉士36名)
 外国人介護職員：5名
 「介護」11名、技能実習3名、留学1名
 「カンボジア」2名、「インドネシア」2名、「ベトナム」1名

【働いた施設・事業所からの交換は？】

- ・生活相談員の先輩職員が学習支援の担当になって、サポートしてくれました。
- ・介護福祉士国家試験のための模擬試験 (法人が開催)
- ・実務研修費用の施設負担 (技術実習生のとき)

【あなたにとって介護福祉士とは？】

介護は、起る前から寝るまでの日常生活のケア (起床後の着脱、洗浄洗顔、食事介助、排泄介助、入浴介助、医療介助) のほかに、利用者とのコミュニケーションを大事にする仕事です。
 介護福祉士の勉強をして、業務や作業の範囲が広がるようになり、自信を持って説明や指導ができるようになりました。



在留資格「介護」

現在

利用者1人を担当して、準備、ケア、家族への連絡をしています。記録はタブレットで全て自分でやっています。
 ゆっくりいいと書かれていたのがあったので、看護の資格を取った後も働いてほしいです。外国人の文化や習慣に理解があるので働きやすいです。

将来

日本語能力試験 N1 とケアマネジャーに挑戦したいです。
 大学で看護を学んできたので、看護の資格も取りたいです。施設では、利用者と一緒にコミュニケーションをとることができ、看護の資格を取った後も働いてほしいです。
 まだ日本人の指導に自信はあきませんが、インドネシア人の介護職員が増えたら、インドネシア人のリーダーや担当はやってみたいと思っています。

3回目介護福祉士に合格！ がんばった甲斐がありました！

1 回目は EPA の時に受験して、6 点足りず不合格のため、最初に合格したくてサポート体制が整っているところの場で働くことを決めました。2 回目は 1 点足りず、悔しい思いをしました。3 回目は不合格だった場合は補習すると書いてあったので、仕事が終わった後、Youtube で勉強して、過去問演習を解きました。1 週間に 1 回 1 時間くらい、生活相談員に勉強を見てもらいました。
 3度目の正真正で合格できて、とても嬉しいです！



ジェニさんの介護福祉士合格が、とても良い刺激になっています。
 今は、アセスメントをしながらカンファレンスにも参加して、多職種の中で意見を言っています。カンパニングをやる計画もしています。
 今後は外国人介護職員を指導する立場になってくれることを期待しています。



介護支援専門員 中村さん(右)

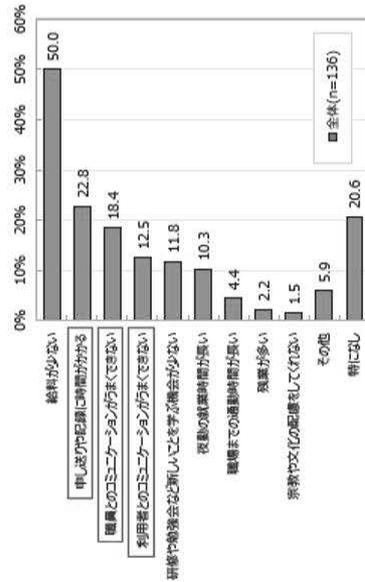
ラダク中心に入浴介助を免除するご配慮はしていますが、外国人介護職員は言葉の問題もあり言い出しづらいところもあるので、月 1 回の主催員向けの面談以外にも、最近の様子を聞く場を設けるようにしています。
 リーダーにぜひいい職員には、追加で研修をお願いします。

在留資格「介護」の方の課題

在留資格「介護」は、他の在留資格と異なり、日本に来日してすぐ取得できる在留資格ではないことから（介護福祉士養成施設の卒業や実務経験が必要）、[生活に馴染めない] [文化・宗教の違いに戸惑う] といった、外国人が来日初期に感じる不安や困りごとは少ない傾向にあります。言語についても、日本語能力試験で N2 以上に合格した者が多く、介護職種は他の業種に比べ業務面で職員や利用者、利用者家族とのコミュニケーションが必要不可欠なため、課題を抱えている方は少ない傾向にあります。

一方で、業務面での専門的なやりとり（申し送り、記録、利用者とのコミュニケーション等）については、不安や困りごとは抱えており、そのために更なる知識や技術の習得、日本語能力の向上を目指している方が多いです。

現在、在留資格「介護」の方が仕事で困っていること（複数選択）



また、今後「家族帯同」で田国から家族を呼びよせ、仕事と育児を両立する場面も増えてくることと考えられます。このため、新たなライフステージを迎える外国人介護職員は、これまでとは異なる課題を抱えることが想定されます。施設・事業所が道徳支援できることには限界もありますが、課題については理解しておく必要があります。

来日×年目で在留資格「介護」として職場で活躍。母国から夫を「家族帯同」で呼び寄せる。妊娠中、日本で出産予定。夫は週 28 時間以内でアルバイトをしている。

＜今後不安に感じること＞

- 夫の日本語の困難
- 産休、育児休暇中の生活や経済面の不安
- 子どもの保育費や学校等の準備

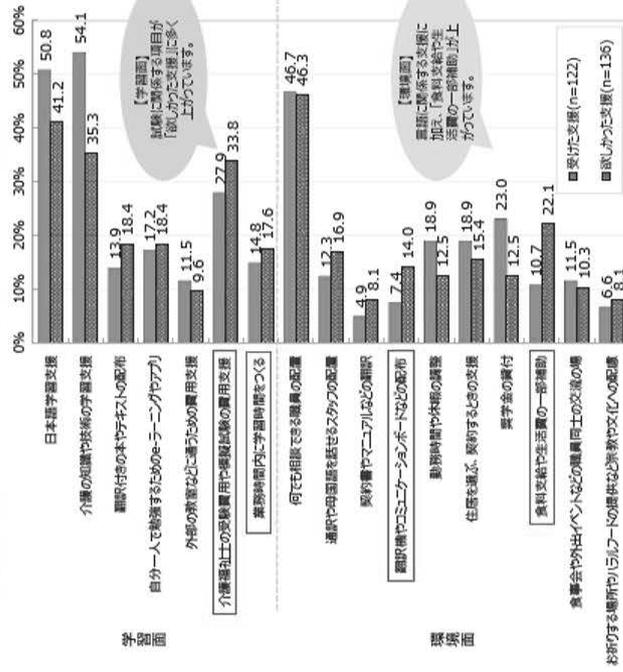
事例では、法人が一部サポートしている場面も見られました！

想定されるケース

あると良いサポート（選ばれる施設になるために）

アンケートやヒアリングから、在留資格「介護」の方が実際に「受けた支援」と「欲しかった支援」を紹介しています。是非参考にしてください。

介護福祉士を受験するまでに「受けた支援」と「欲しかった支援」（複数選択）



【在留資格「介護」の方が望んでいるサポート（ヒアリングより一例）】

＜学習に関する支援＞

- 試験前の勉強時間の確保
- 勉強会の開催
- 受験費用の補助
- 外部研修等の参加

＜生活に関する支援＞

- 委員の補助
- 携帯電話等生活インフラ整備のサポート
- 食費の支援

＜業務に関する支援＞

- 記録の内容に関する助言
- 利用者とのコミュニケーションをとるための方言の習得
- 外部研修等の参加

在留資格「介護」の外国人介護職員にも活用してほしいサポート

相談

介護福祉士を目指す留学生のための相談支援センター

(外国人留学生として介護福祉士養成施設を卒業した方も対象)

在留資格「介護」の方は、留学や技能実習等と異なり、一人前の介護職となることから、その分、他制度ではある外部の支援も少なくなります。生活のこと、お金のこと、勉強のことなど、様々な相談にも対応してくれる相談支援センターがありますので、困ったときは活用してください。

外国人留学生として介護福祉士養成施設を卒業した方も対象になります。

公益社団法人 日本介護福祉士養成施設協会 運営

H P : <https://www.kaigo-ryugaku-support.net/>

TEL : TEL.0120-07-8505(平日 10 ~ 13 時、14 ~ 18 時)

電話、メール、
LINE@、
Facebookでも
相談可能です！

介護知識・日本語・交流・相談

にほんごを^まなぼう 日本語、介護用語、試験対策に役立つWebサイト

在留資格「介護」の方へのアンケートやヒアリングから、多くの方から「日本語をもっと学びたい」「認知症や介護過程など介護の知識や技術をもっと身につけたい」という声が聞かれています。

公益社団法人日本介護福祉士会では、日本語や介護の専門用語を学びたい人のために、「にほんごをまなぼう」という Web サイトを開発運用しています。日本語能力の向上、介護現場で必要とされるスキルの習得に活用できます。各種試験対策や指導者向けコンテンツもありますので、外国人介護職員だけでなく、指導者の皆様も参考にしてください。

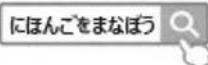
また、SNS による情報共有、ユーザー同士のコミュニケーション(つながり)の場を提供しています。

「にほんごをまなぼう」の特徴

無料	試験合格	自律学習	インセンティブ	日本の介護	+	コミュニティ
						
日本語学習、日本の介護に関心のある方であれば誰でも無料で利用が可能	日本語能力試験、特定技能評価試験等の実施を目指した学習を支援	自らが学習状況を管理できる自律学習支援システムを採用	単独的な学びの中にも楽しみを届ける機能を付加	日本の介護現場で必要とされる介護技能コンテンツを搭載		SNSによる情報発信、ユーザー相互の交流、情報共有の場を提供



<https://aft.kaigo-nihongo.jp/rpv/>



公益社団法人 日本介護福祉士会
国際介護人材支援チーム
intl-support@jaccw.or.jp

VI. 在留資格「介護」の更なる活躍のために

在留資格「介護」は、介護福祉士資格を有する者が介護又は介護の指導を行う業務に従事することのできる在留資格である。また、介護福祉士資格は、介護に係る一定の知識や技能を習得していることを証明する唯一の国家資格である。そのため、施設・事業所の運営にも関わる重要な資格であり、本調査研究事業のヒアリングやアンケートからも、在留資格「介護」がリーダーや、後に続く外国人介護職員の育成者として活躍している事例が多くみられた。

アンケート結果では「今後も積極的に雇用したい外国人介護職員」として在留資格「介護」がもっとも多く、介護福祉士としての専門性の高さから、即戦力になる介護人材として期待されていることがわかる。一方で、「雇用したい」と回答した施設・事業所で在留資格「介護」が就労している割合は半数程度である。就労先が感じる課題として、「採用したいが、応募がない」という回答も少なからずあった。本調査の回答者は、すでに外国人介護職員を受入れている施設・事業所であることをふまえると、実態としては、「採用したいが、応募がない」の割合がさらに高くなると推察される。これは、在留資格「介護」が、平成29年（2017年）9月の制度施行から、まだ5年程度しか経過していないことや、養成施設での一定の学習期間や実務経験を経て得る在留資格であることによるものと考えられる。また、在留資格「介護」は主に、養成施設卒業者であることから、養成施設が少ない都道府県では、在留資格「介護」の人数も少ない傾向にある。

令和2年（2020年）4月1日から、これまでの養成施設ルートに加え、実務経験ルートが認められ、実務経験を経て介護福祉士資格を取得した者も在留資格「介護」の対象となった。本調査研究でも、他の在留資格から実務経験を経て、介護福祉士国家試験に合格し、在留資格「介護」に切り替えた事例を紹介している。彼らは、日本の介護に関心を持ち、自身のキャリアアップを目指して、日本で介護職として就労することを選択した者であり、今後、このような者が増えることが期待される。

ヒアリングやアンケートでは、「現在、仕事や生活で困っていることはないか」との問いに対して、「困っていない」と回答した者が多くいた。これは、外国人介護職員が就労初期に感じる不安や困りごとを養成施設の在学中や他の在留資格での就労中に経験し、適応してきたものだと推察できる。

しかしながら、この在留資格は制度施行からの期間をふまえると、本調査研究では実態を十分に捉え切れていないことが想定される。例えば、養成施設の卒業者の多くが、就学資金貸付制度や所属する法人による奨学金制度を利用しており、一般的には卒業後5年間、同都道府県内や同一の施設・事業所で就労し続けるケースが多い。今後、転職等により生活や就労環境が変わることで、新たな課題が生まれる可能性もある。

加えて、在留資格「介護」の多くが養成施設卒業者であることから、比較的年齢が若い傾向にあるが、今後は在留資格「介護」の在留年数の伸延や、年代の幅が広がることにより、国内で家族を形成する者や、家族帯同者が増えることが見込まれる。ライフステージが変わっても働き続けることができる環境をいかに提供していくかは今後の課題といえる。

本調査研究事業では、現時点で把握できた実態を踏まえ、在留資格「介護」の更なる活躍のため、課題や必要となる支援について整理を行った。なお、課題や必要となる支援は、外国人介護

職員に特に配慮や支援が必要となる点として記載している。

1. ライフステージに応じた対応（施設・事業所）

家族帯同者に対するヒアリングでは、日本語がまったく話せない・聞き取ることができない状態で家族が来日している事例があった。その場合、外国人介護職員が家族の通訳として生活面を支える部分が大きくなる。さらに、在留資格「家族滞在」等では、就労できる時間に週 28 時間の制限がかかることから、外国人介護職員の経済面での負担も大きくなる。加えて、子どもを母国から呼び寄せた場合は、保育所選び、教育面での手続き等が必要となる。たとえ日本語能力に問題がないとしても、日本で家族のライフステージの変化を経験する外国人介護職員にとっては大きなハードルと考えられる。

ヒアリングでは、同じ施設・事業所の日本人職員が「学校の手続きをサポートする」「子ども服を譲る」等、外国人介護職員の生活を支えている話も聞かれた。また、子育てへの不安や家族の日本語能力等の問題から在留資格「介護」となっても家族帯同をしないという選択をしている者もいた。施設・事業所は、「在留資格「介護」で継続的に働き続けるためには、子育てしやすい環境の整備や母国に帰国する機会が必須であり、精神的健康やモチベーション維持のためにも長期休暇取得の配慮や費用補助など、自治体も含めたサポートが必要」という意見が聞かれた。長期休暇の取得や、休暇をとりやすい環境作りなども含め、ライフステージの変化に応じた環境の提供が必要と考えられる。

2. キャリアパスを設けることの重要性（施設・事業所）

ヒアリングでは、在留資格「介護」がユニットリーダー等として活躍している事例や、他の外国人介護職員のロールモデルとなっている事例があった。また、キャリアが浅くリーダー等の経験のない者からも、「いずれ将来、外国人介護職員たちのリーダーや担当をしてみたい」という意見が多く聞かれた。施設・事業所からは「資格取得後の処遇改善や、外国人介護職員にあわせたキャリアパスの仕組みについての検討が必要」という意見もあった。外国人介護職員であっても実力次第では役職につくことができるという道筋が、本人のモチベーションにより影響を与えていることがわかった。

アンケートからは、現在及び将来行ないたい仕事内容で「外国人介護職員のサポートをしたい」「現場のリーダーになりたい」「介護技術を教えたい」等、育成面に関心を持つ者が多いことがわかった。施設・事業所においてキャリアアップする際の基準を明確にしておくことは、外国人介護職員が目標達成に向けて、どのような知識・技術を培えばよいか考えるための指標となるといえる。

つまり、キャリアパスを設けることは、自己評価や自信を高め、スキルや経験を積み重ねることにつながると期待でき、国籍問わず介護職員のモチベーションや定着率の向上に資すると考えられる。

3. 不合格者・未受験者に対するフォロー（施設・事業所及び養成施設）

現在、介護福祉士には、介護福祉士国家試験の合格者、養成施設ルートの介護福祉士国家試験

の合格者、不合格者、未受験者の3つのパターンが存在する。第2章の養成施設ルート of 留学生の合格率やアンケート結果からは、合格者よりも不合格者及び未受験者のほうが多いことがわかる。

ヒアリングでは、模擬試験や国家試験の受験料補助、試験対策のための勉強会を開催している施設・事業所があり、外国人介護職員から歓迎されていた。また、不合格者の大半が再受験の意欲を持っており、現在の施設・事業所を選んだ理由としても「介護福祉士国家試験のための学習サポートがあるから」という回答が聞かれた。一方で不合格者からの「受験意欲はあっても勉強の時間が取れない」という回答も多く、不合格者や未受験者に対しては、特段のサポートを考える必要がある。

養成施設ルートの場合、留学生時代にも現在の就労先の施設・事業所でアルバイトをしており、そのまま就職する事例が多かった。介護現場でのアルバイト経験が専門的な知識・技術を習得する場となっていることから、この間の施設・事業所が果たす役割も大きい。ヒアリングでは、学習面のフォローに限らず、試験前の就業時間調整、食事代の補助(施設・事業所の食事提供等)、家賃補助等を行っていたところがあった。

精神面では、養成施設在学中に出会った仲間や教員との関係が、卒業後も精神的な支えになっているだけでなく、資格取得に対するモチベーションにもつながっていることがヒアリングの結果からも伺えた。つまり、卒業生同士の交流の場や教員等との関係性の継続が外国人介護職員にとって重要であることがわかる。

なお、介護福祉士の資格取得における経過措置の終了後は、在留資格「介護」になるために、介護福祉士国家試験合格が必須となることから、養成施設にはこれまで以上に、卒業時までの合格基準に到達できる学習指導が望まれる。

今後の課題としては、不合格者・未受験者に対する支援策は施設・事業所および養成施設のどちらか一方にゆだねるのではなく、合格に向けた学習環境づくりや卒業後の支援を協力して行う必要がある。

4. 日本介護福祉士会及び都道府県介護福祉士会が果たす役割(職能)

(1) 継続的な学習支援とキャリアアップ

日本介護福祉士会では、厚生労働省補助事業(介護の日本語学習支援等事業)により、外国人介護職員及び指導者等を対象とした国際介護人材支援WEBサイト「にほんごをまなぼう」を運用しており、日本の介護を学び、現場で働く外国人、そして日本の介護を伝える人のための総合プラットフォームとして、日本語学習、介護福祉士国家試験、介護の特定技能評価試験等の試験対策コンテンツを提供している。また、資格取得後も更なる日本語能力の向上、介護の専門的知識の習得を希望する外国人介護職員の学習ツールとして活用できる。こうした取組は将来的には、近年進められているICTの活用と外国人介護人材支援を融合することで、より効率的に成果を上げることが可能となると考えられる。

今後は、実務経験ルートも増えていくことが予測されることから、資格取得に向けたサポートだけでなく、介護福祉士として後進の指導・教育を担える外国人介護福祉士の育成も重要である。

介護福祉士資格取得を目指す外国人介護職員にとってロールモデルとなる在留資格「介護」の

存在は大きく、その指導者としての役割を果たすことも期待される。

(2) ネットワークを通じた環境づくり

介護福祉士会は、介護福祉士の有資格者による職能団体である。日本介護福祉士会と都道府県介護福祉士会は、介護福祉の普及啓発にかかる事業として、職能的研修のほか、各種の介護福祉に関連する企画・イベントを実施し、勤務先の施設・事業所以外の介護福祉士と、地域を超えた情報交換や交流できる機会を提供している。このような情報取得や人的ネットワークは、自己成長だけでなく、自身のキャリアプランを考えるきっかけとなり、モチベーションアップや介護人材の離職防止・定着促進につながっている。

今後も資格取得後のキャリア形成において将来を展望できる環境づくり等を進めることは重要であり、日本介護福祉士会および都道府県介護福祉士会のネットワークを通じて、外国人介護職員の介護現場における課題や、活躍し続けるための環境づくり等について、検討していく必要がある。

また上記(1)(2)を通じて、こうした職能団体による活動に対しては、必要に応じて、厚生労働省、都道府県等行政機関におけるバックアップも期待される。

最後に、本調査研究事業に協力いただいた外国人介護職員と施設・事業所には心より感謝申し上げます。

生産年齢人口の減少が本格化していく中、複合化・複雑化する利用者ニーズに応えるためには、質的・量的な介護人材の確保・定着が重要視されている。そこで多様な人材の参入が求められ、介護人材のキャリア・専門性に応じた機能分化や、その多様な人材により組織されたチームによるケアの実践が必要となる。そのなかで介護福祉士は、介護職チームのリーダーとして、チームをマネジメントする役割が期待されている。本調査研究事業の結果及び事例集が、外国人介護職員や施設・事業所に活用され、介護福祉士資格取得の促進や、在留資格「介護」の更なる活躍につながることを願っている。

なお、本調査研究事業アンケート及びヒアリングでは、「介護」という専門分野で活躍している在留資格「介護」の姿にふれることができたが、実態把握という点では一定の活躍状況の把握にとどまった。今後も在留資格「介護」の更なる活躍のために、介護業界全体で支援の在り方を検討し、ガイドライン等を示していくことが必要であると考えます。

VII. 参考資料

1. ヒアリング調査個票

(1) 社会福祉法人宮城福祉会 特別養護老人ホーム松陽苑（宮城県）

外国人介護職員（Aさん）

国籍 : インドネシア

在留資格 : EPA 介護福祉士候補者→帰国→EPA 介護福祉士→在留資格「介護」

※短期滞在で試験を受けて合格

1 基本情報

1.1 来日から現在までの状況

- ・ 2010年6月にEPAとして来日。横浜で半年研修を受け、12月から宮城県の同法人養護老人ホームで働いた。介護福祉士国家試験に不合格となったため一時帰国（1年半）し、2016年に試験を受けるために再来日、3回目の受験で合格した。介護技術を学びたい、インドネシアにいる家族の生活を経済的な面から支えるために日本で働き続けたいという気持ちで、介護福祉士をとった。
- ・ 日本語能力は来日時からN3程度。
- ・ 施設が借りたアパートで、現在1人暮らし。アパートには、他のインドネシア人も住んでいる。また、インドネシアに妻と子どもがいる。
- ・ 奨学金の受給はなし。

2 活躍の実際

2.1 介護職を選んだ理由

- ・ 人の世話をすることに興味があり、インドネシアの看護学校に入った。2年の就労経験がないと日本で看護師にはなれないので、日本で介護の仕事をすることにした。
- ・ 現在インドネシアには介護の施設はないが、将来介護施設ができる可能性もある。日本で介護の仕事をして経験を積み、インドネシアに施設ができたら仕事をする可能性もあるからいいと思った。

2.2 現在の就労先を選んだ理由

- ・ 人間関係がいい。
- ・ 休みを取りやすい環境で、帰国のための長期休暇も取ることができる。

2.3 現在の立場・働き方

- ・ ユニットリーダーと海外人材の担当をしている。
- ・ 2022年2月からリーダーになった。外国人の職員の中では初めてのリーダーだった。リーダーになるときはキャリアの面でも嬉しかった。リーダーになったときは、周りの人から大丈夫だよと言ってもらった。

2.4 業務内容

- ・ 現在は利用者3人を担当している。
- ・ リーダー業務では、利用者だけではなく職員のことにも考えないといけない。

- ・ 海外人材の担当としては、後輩の外国人介護職員をまとめる、体調が悪いときには病院に付き添うなど、生活支援もしている。
- ・ 委員会（身体拘束委員会）に参加している。

2.5 仕事のやりがい

- ・ 介護は技術も必要で、専門職であることにやりがいを感じている。人間関係や色々な日本人の生活、利用者の生活や文化、制度なども勉強になる。
- ・ 指導者として、後輩たちのフォローができることもやりがいになっている。
- ・ 利用者から感謝の気持ちを受けることが一番うれしい。

3 支援内容

3.1 法人・施設からの支援

- ・ 帰国がしやすいように調整をしてくれる。
- ・ アパートの電気製品とwifiは施設が提供してくれた。家賃も補助があり安い。
- ・ 一時帰国していたため、3回目の受験時の手続きは施設が行った。
- ・ 試験合格の場合は、試験費用を施設が負担してくれる。

3.2 欲しかった支援・今後あると良い支援

- ・ 来日時は日本語のレベルも今ほど高くないので、マニュアルや資料が母国語であると良かった。
- ・ 看護学校を卒業している外国人介護職員が多いため、介護の仕事自体は把握しているが、記録は難しい。介護記録や事故報告書などの記録の勉強があるとよいと思う。書き言葉と話し言葉は全く違う。

3.3 勉強方法

- ・ 一時帰国中も、使ったテキストをもう一回復習しながら、ひとりで勉強を続けた。

4 介護福祉士合格による変化

4.1 処遇・業務の変化

- ・ 収入はアップした。業務面では、いろいろな人の相談対応など、業務量が増えた。

4.2 合格前後で変化を感じたこと

- ・ 合格前から、通常の記録業務や利用者の担当をしていたが、合格後は介護の記録、会議や委員会の記録を担当するようになった。合格したことで業務の理解が深まっただけでなく、日本語能力が上がったと思う。

5 課題

5.1 現在仕事で困っていること

- ・ 自分のことではないが、特定技能や技能実習生は政府から勉強の機会を与えられているわけではないため、自分で学ぶしかない。在留資格によって勉強できる環境が異なっている。国家試験を目指す人たちのフォローをしたいと思っている。

5.2 かつて困っていたこと

- ・ 交流が難しいこと。日本に来たばかりの時は、寂しくて、コミュニティがないことが心配だった。

5.3 困ったときの相談相手

- ・ 施設や大使館に相談するが、相談に至ることはあまりない。

5.4 同国籍のコミュニティ

- ・ EPA の研修時代の友達が県内にいないため、頻繁な交流はないが年に1回は会う。
- ・ 宮城県の文化センターのモスク（お祈りの場所）でインドネシア出身の人たちと交流することもある。

6 その他

6.1 今後の意向

- ・ 今の施設で働き続けたい。また、医療的ケアも勉強したい。ユニットに医療的ケアが必要な利用者もいるので、看護の勉強の経験も生かして介護が出来たら利用者が助かると思う。
- ・ 日本語能力試験を受験したい。将来は日本で働きたい人に日本語を教えたり、介護の知識や技術を教える学校をインドネシアでつくりたい。

施設・事業所の職員

1 基本情報

1.1 外国人介護職員の就労状況

- ・ 施設の現在の在籍人数は、7名。
- ・ 在留資格別では、在留資格「介護」1名、EPA 介護福祉士候補者3名、技能実習生2名、日本人の配偶者等1名。
- ・ 国籍は、日本人の配偶者等の1名（フィリピン出身）以外全員インドネシア出身。
- ・ 日本語能力はN3、N2の方が多く業務遂行にほとんど問題ない。
- ・ これまで介護福祉士に合格した方は2名（1名はAさん、1名は退職し関東の施設で就労中）。
- ・ 法人が代表発起人となって、「東北のかいご協同組合」を発足しており、インドネシアから技能実習生を受け入れている。2022年末に特定技能の登録支援機関の認定も受けており、今後は特定技能のサポートも予定している。

1.2 受け入れのきっかけ

- ・ 10年くらい前から法人としてEPAを受け入れている。
- ・ インドネシアの技能実習生の送り出し機関に視察に行った際、現地の学校の素晴らしさを肌で感じた。また、当時希望する人数のEPAを集めることが難しかった状況もあり、技能実習生の受け入れに前向きになった。

1.3 法人の受け入れ方針

- ・ 外国人介護職員の受け入れや定着には、現地の送り出し機関との繋がりが重要である。

法人としてインドネシアの技能実習生の送り出し機関とネットワークがあるため、受け入れ国を拡大することよりもインドネシアの送り出し機関との結びつきを強くしていくことを考えている。

2 活躍の実際

2.1 日本人職員との業務や待遇の違い

- ・ 業務や処遇の違いはない。

2.2 キャリアパス

- ・ 資格、経験、キャリア、人物像など総合的に見て判断する。介護福祉士の有無は特に条件になっていない。
- ・ Aさんの存在（外国人介護職員からリーダーが誕生したこと）は、特定技能や技能実習生のモチベーションアップになると思う。将来の事業所のビジョンを考える際には、外国人介護職員のリーダーが不可欠だと思う。

2.3 活躍の状況

- ・ Aさんは前向きで包容力があり、人の意見をちゃんと聞く。真摯に相手に応える姿勢がある。
- ・ Aさんは利用者の家族から指名されるくらい家族への対応もしっかりしている。

3 支援内容

3.1 外国人介護職員全般に行っている支援

- ・ 木曜日は、地元大学の先生と学生がボランティアで日本語を教えている。法人が東北学院大学の先生と接点があり、ボランティアしたいという学生を紹介してもらった。学生の専攻は日本語教育、多文化共生、福祉などである。参加されている人数は6名ほど。
- ・ ボランティアのおかげで、外国人介護職員の日本語能力の助詞の使い方等が上手になり、会話が聞き取りやすくなっていると感じる。
- ・ 年休を使つての帰国になるが、家族と会ってリフレッシュすることが必要であると考え、1カ月程度の一時帰国ができるように制度化している。
- ・ LINEなどで相談の機会を持つようにしている。

3.2 介護福祉士取得のために行っている支援

- ・ EPAについては、日勤帯の1時間半くらいを自習時間としている。
- ・ 金曜日は県の委託を受けている地元の大学が、介護福祉士合格のための勉強会を開催している。講師は、大学が委託している介護福祉士取得のための講師や大学の先生が教えてくれる。

4 受け入れによる変化

4.1 日本人職員の变化

- ・ 積極的にコミュニケーションをとってくれるという印象がある。

4.2 利用者の変化

- ・ 利用者に聞くと、外国人だからという特段の違いはないように感じている。
- ・ 最初は外国人介護職員に利用者がどのような感想を持つか不安があったが、全く不要だった。

5 課題

5.1 外国人介護職員を雇用する際の課題

- ・ 過疎地域は、買い物に行くことがとても不便で、外国人介護職員の定着が難しい。交通の環境整備タクシー券等の支援が必要だと思う。事業者だけでそこまでの支援は金銭的な面からも厳しい。
- ・ これまで EPA を 18 人受け入れてきたが、2 人しか介護福祉士国家試験に合格していない。いろいろなサポートや関係機関が協力をして合格は難しいため、技能実習制度や特定技能の方が介護福祉士の試験に受かることは非常に難しいと感じる。介護福祉士合格のためのプロセスを本人や企業に任せるのではなく、プログラムの中に組み込んで、どの在留資格で来日したかに関わらず、長く日本にいて働きたい人をサポートする体制づくりが必要だと思う。

5.2 今後、在留資格「介護」の方が活躍するために必要なこと

- ・ 在留資格「介護」の場合は家族帯同ができるという制度になっているが、家族帯同をする場合、子どもを育てる環境や保育園、配偶者も日本語を話せるわけではないので環境整備が必要だと思う。
- ・ モチベーション維持のためにも定期的に帰国ができる環境は重要だが、費用がかかる。国や県、自治体として費用面などサポートしてほしい。企業では対応が難しいことへのサポートが必要だと思う。
- ・ 外国人介護職員の場合、家族のために働き、仕送りをして現地の家族を支えているというところは、日本人職員とは全く同じ状況ではないと思う。外国人介護職員をきちんと受け入れる体制を作る必要があると考えている。

(2) 社会福祉法人松栄会 特別養護老人ホームひまわりの丘 (千葉県)

外国人介護職員 (Bさん)

国籍 : ベトナム

在留資格 : 留学→在留資格「介護」

1 基本情報

1.1 来日から現在までの状況

- ・ 日本語を学ぶため、2013年4月に来日、2年間日本語学校で勉強をした。その後、介護の専門学校に入学(養成施設2年)。留学生の時は今とは違う介護施設でアルバイトをしていた。2017年に「ひまわりの丘」に就職した。
- ・ 日本語能力は、来日時N5、日本語学校卒業時にN2。その後は、仕事も忙しく受験していない。
- ・ 介護福祉士国家試験は、2017年に3回目の受験で合格。当時は学校で受験できる最後の年で不合格の後、2週間後に再受験できた。
※ 補足：日本介護福祉士養成施設協会が実施する卒業時共通試験のことと思われる。低得点者に対しては、補講、再試験等により対応していたため、再試験2回のことと思われる。
- ・ 介護福祉士を受験した理由は、在留資格「介護」であれば日本での在留が長くなることや、資格があると就職しやすいため。

1.2 生活の状況

- ・ 夫と同居。夫はエンジニアの資格をとるために専門学校に行き、現在車の部品を作っており、自分より長く日本に滞在している。
- ・ 千葉県社会福祉協議会から奨学金を受給した。

2 活躍の実際

2.1 介護職を選んだ理由

- ・ ベトナムにいた時は、介護について知らなかった。日本に来てから、友達や日本語学校の先生に教えてもらい介護の仕事を知った。日本で働き続けたいし、おじいちゃん、おばあちゃんも好きなので選んだ。介護の仕事は大変と先生から言われたが、介護に限らずどのような仕事も大変だから、そこは気にならなかった。

2.2 現在の就労先を選んだ理由

- ・ 専門学校の時の実習で、施設の雰囲気がよく就労したいと思った。

2.3 現在の立場・働き方

- ・ 役職はなし。現在は妊娠中のため指導はしていないが、以前は技能実習生3名の指導を担当していた。留学生を指導することもある。就職してから2年くらいたってから教える立場になった。

2.4 業務内容

- ・ 現在、5名の利用者を担当している（最初は2名くらいからスタート）。業務内容や研修は日本人と同様。
- ・ 今は妊娠中のため、業務は軽くしてもらっている。記録、食事介助、見守り中心
- ・ 基本的な業務内容は新人でも中堅職員でも変わらないけれど、新人の時よりも仕事の幅や理解が深まり、新人のミスにも気づいてあげられるようになった。

2.5 仕事のやりがい

- ・ 利用者に毎日会えて、レクリエーションで笑顔になってくれると嬉しい。自分がその笑顔を作るのに関わることができるのが嬉しい。
- ・ 以前は、食事介助する時に全部食べてもらうことを大事にしていたが、勉強をしてからは楽しくおいしく食べてもらえるように考えるようになった。

3 支援内容

3.1 法人・施設からの支援

- ・ 技能実習生には、技能実習評価試験前に対策講座のようなものがある。
- ・ 試験対策講座等への受講料補助がある。（Bさんは入職時に介護福祉士だったため、利用していない。）

3.2 欲しかった支援

- ・ 外国人には日本語について努力してほしい。支援としては、国家試験の資料がまとめであれば良いと思う。

3.3 勉強方法

- ・ 学生のときは、午後に授業がなくても学校に残って、勉強していた。友人と暮らしていたため、学校に13:00-16:30頃まで残り、そこからアルバイトに行った。22:00頃に帰宅し、夕食等を食べた後、23:00-24:00頃まで明日どのような勉強をするか整理した（漢字等わからないところを確認）。

4 課題

4.1 現在仕事や生活で困っていること

- ・ なし

4.2 困ったときの相談相手

- ・ 学校の先生や周りに相談できる人がいる。
- ・ 自分と同年の日本人職員で、魅力があり、仕事も早く、ケアも上手なモデルとなる職員がいる。生活面でも仕事面でも相談できる人である。

4.3 同国籍のコミュニティ等

- ・ コミュニティには参加していない

5 その他

5.1 今後の意向

- ・ 職場との関係が良いため、当面は今の職場で働きたい。訪問介護や介護老人保健施設で働いてみたいと思うこともある。

- ・ 今は日本で働き、夫と頑張りたいが、将来は母国に戻りたい。利用者の層が変わるので、将来母国に帰って教えるときのために、色々な経験をしたい。母国では、技能実習生等、日本を目指す人達に自分の経験を教えたい。

施設・事業所の職員

1 基本情報

1.1 外国人介護職員の就労状況

- ・ 現在の在籍人数は、17名（うち、特養14名、ショート3名）
- ・ 在留資格別では、在留資格「介護」2名、技能実習5名、留学（養成施設）4名、留学（養成施設以外）5名、配偶者1名。
- ・ 国籍は、ベトナム（14名）、中国（2名）、フィリピン（1名）。
- ・ 日本語能力は、N2程度（3名）、N3程度（9名）、N4程度（5名）。
- ・ 介護福祉士国家試験は、2名受験し、2名とも合格。

1.2 受け入れのきっかけ

- ・ 最初の受け入れは、2017年でBさんのみであった。
- ・ 技能実習生は2019年くらいから受け入れている。
- ・ 千葉県留学生受入プログラムから2020年留学生の受け入れを開始した。

1.3 法人の受け入れ方針

- ・ 受け入れ時には、法人から職員向けの説明会があった。

2 活躍の実際

2.1 在留資格「介護」の方の施設内における立場

- ・ 役職はない中堅職員。

2.2 日本人職員との業務や待遇の違い

- ・ 業務や処遇の違いはない。

2.3 キャリアパス

- ・ 外国人介護職員でも日本人と同じキャリアパス。キャリアパスには役職はつかない専門職ルートと主任等の役職を目指す「リーダー職」ルートがあり、本人が希望すれば外国人、日本人問わずどちらのルートも目指すことができる。「上位キャリア（＝中堅までは一本道で、その後ルートが2つに分かれた後の職位を指す）」は、本人の希望または上長の推薦が必要。1年に1回の評価・試験があり、Bさんも同様の試験を受けている。
- ・ 個人的には、2つのキャリアパスの他に、外国人用のキャリアパスがあっても良いのではないかと感じる。全く同じ試験というのは大変かと思う。

2.4 活躍の状況

- ・ Bさんは、常勤の介護職員として日本人スタッフと同等の業務をおこなっており、外国籍スタッフの先輩として育成や相談の面で活躍してくれている。日本語ができない技能実習生の指導に入ってもらい、注意しなければならない点等を通訳して伝えてもらった。

技能実習生の指導には適任で、養成校からの実習生（留学生）についても、ベトナム人の場合は指導をお願いしている。

- ・ 日本語面から、最初は記録、申し送り等のリーダー業務はお願いしていなかったが、4年目くらいから記録業務（日常のケース記録）、リーダー業務を任せている。
- ・ リーダー業務の前に、PC業務や日本語も覚えられるという点から、ケアカンファレンスの議事録作成を通して文章に慣れてもらい、記録業務に入ってもらった。

3 支援内容

3.1 外国人介護職員全般に行っている支援

- ・ 外国人だからと特別に何かサポートが必要だったというものはないが、日本語はわかりやすい言葉を使うようにした。今は、簡単な日本語の指導を不定期で行っている。「できた？」と聞いた時「まあ、できた」と回答があったときは、その「まあ」に何かあるのではないかと思い、一緒にやってみたりした。「大丈夫？」と聞くと「大丈夫」と答えがちなため、聞き方を工夫している。
- ・ 特別な支援はないが、ケアカンファレンスの議事録を通して赤ペンチェックをしていた。

3.2 在留資格「介護」の方に行っている支援

- ・ 特になし。帰国のための長期休暇も取りやすい環境にあるためモチベーションにつながっているのではないかと思う。

3.3 介護福祉士取得のために行っている支援

- ・ 以前は、日本語教室を開催していた（担当していた人が、事情がありできなくなってしまい現在は行っていない）。

4 在留資格「介護」受け入れによる変化

4.1 法人や施設での変化

- ・ 技能実習生の受け入れは、Bさん（ベトナム出身）がいて、ベトナムとのパイプがあったことが一番の理由となった。通訳や指導をBさんに任せられるという点で、検討する際に前向きな影響があった。

4.2 日本人職員の变化

- ・ 協力姿勢が強くなり多文化理解は進んだと思う。自分もベトナム語を少し勉強した。
- ・ 利用者対応については、外国人介護職員は日本語の面で、日本人とまではいかない場面がある。そのため、介護の質を落とさないためにも、外国人介護職員への指導は必要。日本人にとっても改めて勉強し直す必要がある。

4.3 利用者の变化

- ・ 初めは言葉が伝わらないため、利用者によっては日本人に対応をお願いする方もいたが、現在は外国人介護職員の日本語力の向上や生活の理解が進んだこともあり、日本人職員と同様に頼って良い関係を築けている。

5 課題

5.1 在留資格「介護」を雇用する際の課題

- ・ 特になし。日本人スタッフとほとんど変わらない。

5.2 今後、在留資格「介護」の方が活躍するために必要なこと

- ・ 外国人介護職員に好意的な家族もいるが、偏見を持つ家族もいるので、もっと地域に接点や交流の機会を作りたい。施設で外国人介護職員が働いていると地域にアピールして、安心して預けることができるというのが伝わると良いと思う。
- ・ 外国人介護職員にも選ばれる施設にしていきたい。施設の魅力をもっと高めていく必要があると思う。

(3) 社会福祉法人奉優会 港区立特別養護老人ホーム白金の森（東京都）

外国人介護職員（Cさん）

国籍 : インドネシア

在留資格 : EPA 介護福祉士候補者→在留資格「介護」

1 基本情報

1.1 来日から現在までの状況

- ・ 2014年6月にEPA7期生として来日、名古屋で6ヶ月勉強して就職した。
- ・ 在留資格「介護」は、勉強して国家資格を取らないと取得できないためカッコいいと思い、在留資格更新のタイミングで切り替えた。
- ・ 来日前に半年間、インドネシアで日本語を勉強した。来日時の日本語は片言であった。就職時はN5程度で2016年にN2を取得した。
- ・ 介護福祉士国家試験は、2018年に受験し、1回で合格した。

1.2 生活の状況

- ・ 2019年3月に家族帯同で夫を呼んだ。
- ・ インドネシア人の夫と娘と同居。娘は日本の保育園に通っている。

2 活躍の実際

2.1 介護職を選んだ理由

- ・ 大学卒業後に仕事を探していた際に、EPA 看護・介護の仕事を偶然見つけ申込んだ。大学時代は看護の勉強をしており、インドネシアの看護師資格を持っている。そのため、看護に興味はあったが、インドネシアに介護施設が無かったため、応募した時は介護が何かは分からなかった。
- ・ EPA 看護師は2年の経験が必要であったため応募ができなかったが、介護は未経験で応募ができた。

2.2 現在の就労先を選んだ理由

- ・ 仕事を探している中で偶然見つけた。

2.3 現在の立場・働き方

- ・ 2019年に主任になった。主任になってから1年半程度産休・育休を取得し、現在時短勤務中。フロア内で一番の古株である。
- ・ 法人内では外国人介護職員の役職者がいるが、白金の森では初めての外国人介護職員の役職者である。

2.4 業務内容

- ・ 職員22名の指導を行っており、記録チェックやケースチェック勤務表作成など、主任ならではの業務も行っている。
- ・ 技能実習生の指導では、介護技術や日本の文化等をゼロから伝えることが大変だと感じている。

2.5 仕事のやりがい

- ・ 利用者からの感謝の言葉を言われること。達成感がある。
- ・ 先輩の外国人はあまりサポートしてくれず、自分もあまり聞けなかった経験がある。主任になって、外国人の指導ができるのはよかったと思っている。外国人から相談しやすいという言葉ももらっている。
- ・ インドネシア人のみならず、ベトナム人からも C さんがいるから安心と言われており、外国人のお母さんのような存在になっている。外国人のサポートをしすぎていて、日本人職員から心配されるくらいである。

3 支援内容

3.1 法人・施設からの支援

- ・ 日本語と介護技術の学習支援が行われている。介護の専門の先生が、週 1 回 3 時間程教えに来る。(コロナ過では ZOOM にて対応中)
- ・ 1 ヶ月 24 時間シフト中に勉強時間が組み込まれている。仕事の合間に勉強できるよう、研修室も設けられている。
- ・ 外国人介護職員の相談窓口となる職員がいる。(管理部門で専従)
- ・ ラマダン中・妊娠中のシフトの考慮、産育休後の復職支援も行っている。
- ・ 法人内でも支援体制の違いはあるが、法人内の他の外国人介護職員と話していると、白金の森が一番支援は充実していると思う。

3.2 欲しかった支援

- ・ 介護福祉士国家試験のため、介護保険制度や介護技術など、介護領域以外の先生がいると良かった。

3.3 勉強方法

- ・ 介護福祉士国家試験のため、平日は 1 日 1 時間勉強、休みの日は半日勉強するようにしていた。

4 介護福祉士合格による変化

4.1 モチベーションの変化

- ・ インドネシアで看護師資格を取得していることもあり、日本でも看護師の資格を取得したいという思いを持っている。介護と看護両方の仕事をしていきたい。

5 課題

5.1 現在仕事や生活で困っていること

- ・ なし

5.2 困ったときの相談相手

- ・ 法人内専属の職員。

6 その他

6.1 今後の意向

- ・ 両親も入れたいと思うほど利用者のことを考えている施設のため、白金の森での仕事を続けたいと思っている。主任が一番利用者に近いので、仕事が楽しい。主任を続けていきたい。

施設・事業所の職員

1 基本情報

1.1 外国人介護職員の就労状況

- ・ 現在の在籍人数は、23名（法人全体では194名）
- ・ 在留資格別では、在留資格「介護」6名、EPA介護福祉士候補者11名、技能実習2名、特定技能1名、EPA看護師3名。
- ・ 国籍は、ベトナム7名、インドネシア16名。
- ・ 日本語能力は、N2が5名、N3が18名。
- ・ 介護福祉士国家試験は、3名受験して全員合格。

1.2 受け入れのきっかけ

- ・ 2013年にEPA3名を受け入れたことが始まり。法人ではじめての受け入れ施設であった。
- ・ 白金の森は看護師の24時間体制を整えており、受け入れるだけの体力もあることや、港区の多様性の方針もあり、理解も得られやすかったこと。また、新しいチャレンジをしやすい法人、施設の風土もあった。

1.3 法人の受け入れ方針

- ・ 働きたい方がいれば雇用している。働き方も柔軟に対応しており、その人のライフスタイルを重視している。
- ・ 技能実習生を雇用した経緯は、法人としての社会的使命が大きい。EPAを受け入れてきたことにより事業所にノウハウがある。あまり国籍は気にしていないが、コミュニティを作ってあげるようにしている。もし今後、新たな国籍の方を採用することがあれば、同じ国籍から複数名受け入れたい。

2 活躍の実際

2.1 在留資格「介護」の方の施設内における立場

- ・ 法人全体で10名役職についている。介護福祉士でなくても役職につくことは可能。

2.2 日本人職員との業務や待遇の違い

- ・ 業務や処遇の違いはない。

2.3 キャリアパス

- ・ 外国人介護職員でも日本人と同じキャリアパスである。
- ・ リーダーになる方は、日本語能力やモチベーションが高く、本人の目的意識やビジョンが明確でホスピタリティがあり、表情的にも豊かな方が多い。勉強熱心であり、努力を怠らない。国籍問わず誰とでも平等に接することができる。

2.4 活躍の状況

- ・ 事例研究発表会に参加している人が多い。物事を論理的に考え、PDCA サイクルを回して発表できる。Cさんも発表している。

2.5 期待すること

- ・ 長く働き、施設・事業所の中核を担う人材になってほしい。日本人職員の育成者になってほしい。施設や職員に多様性を伝える役割を担ってほしい。

3 支援内容

3.1 外国人介護職員全般に行っている支援

- ・ 法人ではモバイルメッセージングアプリケーションを活用し、受入れ施設間や法人本部とタイムリーに情報共有し外国人介護職員の悩みに、公私を問わずレスポンスを早くしている。また、施設では、事務課に外国人介護職員専属の担当者を配置し、公私を問わず対応している。外国人介護職員が安心して話しをできるよう、守秘義務も徹底している。
- ・ 専属の職員は、施設長・副施設長・介護課長と密に連携をとっており、学習支援の先生と現場のパイプ役を担い、授業の予定を考慮してシフトの調整も行っている。現在導入2年目である。
- ・ 日本語学習面での支援は、法人全体でN2,N3対策を実施している。
- ・ 法人内でも学習支援内容に差がある。通学方式を取っているところもあれば、先生が施設に来ているところもある。1ヶ月24時間という勤務時間内の勉強時間は法人内で統一されているが、時間の割り振りは施設ごとに違う。施設に来てもらっている先生は、日本語の勉強を含め、試験対策の先生が多い。また、施設内に研修室を設けており、どの在留資格でも使うことができる。
- ・ 待遇について、他の施設と違うという意見が挙がることもある。法人内の外国人介護職員同士で繋がりがあるので、差が不平不満を生まないよう、法人間でルールを統一するようにしている。

3.2 整えた体制や制度等

- ・ 施設で発生した課題を蓄積し、ノウハウとして共有することで、規定やマニュアルを整え、他施設に水平展開していった。マニュアルや規程等の整備に3年くらいかかった。
- ・ 今は、結婚や出産のステージにある職員もいるため、変化にあわせた仕組みが必要。
- ・ 外国人介護職員を受け入れ続けることにより、先輩から後輩へフォローアップできるようになった。
- ・ 日本人・外国人を問わず、未経験の職員でも歓迎する雰囲気を出し、職員間の繋がりを強くすることで、居心地の良い職場をつくり、このような環境が離職防止になると考えている。介護の経験がゼロベースであっても、キャリアアップを積める仕組みを整え、定着してもらえるように心がけている。

4 在留資格「介護」受け入れによる変化

4.1 法人や施設での変化

- ・ 職員間の連帯意識が強くなった。

4.2 日本人職員の変化

- ・ 礼拝のための金曜休暇、ラマダン中のシフトの調整（入浴介助をやらない等）、勤務時間中の勉強、帰国のための長期休暇など、当初は日本人の不平等感もあったが、今はなくなった。日本人の働き方も柔軟さを持つなど、考え方にも影響を与えた。結果として、風土が変わったように思う。
- ・ 外国人介護職員を受け入れたことで、職員の多様性を受け入れることが当たり前になった。

4.3 利用者の変化

- ・ リアクションは変わっていない気がする。丁寧に対応するので、利用者は受け入れやすいのではないかと思われる。家族も特に外国人であることを気にしていない様子。

5 課題

5.1 在留資格「介護」を雇用する際の課題

- ・ 金銭面での魅力がなくなっており、丁寧に受け入れをしないと選ばれなくなってくると思う。情報をとる力と情報を発信する力をつけていかなければならない。

(4) 特定医療法人財団五省会 介護老人保健施設みどり苑（富山県）

外国人介護職員（Dさん）

国籍 : モンゴル

在留資格 : 留学→在留資格「介護」

1 基本情報

1.1 来日から現在までの状況

- ・ モンゴルで医学大学を卒業した後、2020年4月に富山福祉短期大学に入学した。コロナのため入国できず、半年間は母国よりオンラインで授業を受け、2020年10月に来日した。
- ・ 留学生時代（2020年10月～）から、みどり苑でアルバイトをしており、短大卒業後の2022年4月に入職。

日本語能力は、来日時からN2程度であった。N1は未受験。

- ・ 介護福祉士国家試験は、2022年受験1回／不合格。

1.2 生活の状況

- ・ 2022年9月に夫と息子（小学校中学年）が来日し、現在は3人で住んでいる。
- ・ 富山県から奨学金を受給した。

2 活躍の実際

2.1 介護職を選んだ理由

- ・ モンゴルに介護の仕事はないが、興味がありやってみたいと思った。
- ・ また、子どものときから将来必ず日本に行く、家族と日本で住みたいという想いがあった。

2.2 現在の就労先を選んだ理由

- ・ モンゴルにいるときに先生が紹介してくれて、モンゴルからオンラインでみどり苑と面接をした。当時は施設のことはよくわからなかったが、インターネットで探していいところなのかなと思い選んだ。実際、本当にいいところだった。

2.3 業務内容

- ・ 全ての介助を行っており、夜勤もしている。委員会にはまだ参加していない。

2.4 仕事のやりがい

- ・ 利用者が日本語を教えてくれたり、日本について教えてくれたりしている。
- ・ 初めて利用者と話すときは心配していたが、1日終わったら嬉しい気持ちになった。介助したときの感謝の言葉は嬉しい。
- ・ モンゴル人の先輩にいろいろなわからない言葉や仕事を聞いているため、それを聞いたうえで、自分の目標を決めている。

3 支援内容

3.1 法人・施設からの支援

- ・ 勉強とお金、どちらのサポートもよかった。
- ・ 記録は文法が難しかったが、先輩の職員たちに聞いて、今は毎日書いている（記録はパソコン）。
- ・ 職場にいるモンゴル人の先輩から教科書をもらった。国家試験の本も、みどり苑の担当者から貰った。いろいろな支援があったし、何が必要か聞いてくれた。

3.2 欲しかった支援

- ・ 勉強するために試験前はアルバイトを調整したかった。

3.3 勉強方法

- ・ 留学生時代は、月曜日から金曜日まで勉強し、土日にアルバイトをしていた。

4 課題

4.1 現在仕事や生活で困っていること

- ・ なし

4.2 困ったときの相談相手

- ・ 職場に日本に来て5年のモンゴル人の先輩がおり、よい関係。同じ国の人がいることは心強く、年が同じなのもありとても仲が良い。
- ・ 仕事のことは先輩、主任やリーダーに相談している。他にも、本部人事担当者や施設長が色々と相談に乗ってくれる。仕事だけでなく、家族や生活についても、よく聞いてくれている。

4.3 同国籍のコミュニティ等

- ・ 富山県に住み介護現場で働いているモンゴル人も多く、その人たちからいろいろな経験を聞いている。何かあれば、すぐ連絡をとる。
- ・ 子どもが日本に来ているので、ママ友達もいる。子ども関係の付き合いも増えた。

5 その他

5.1 今後の意向

- ・ もっとがんばって介護の仕事が続けたいと思っている。
- ・ まだ自分の周りには外国人のリーダーがいないが、自分になるかもしれない。
- ・ モンゴルでは医学大学を卒業した。今年修士課程に合格したのでオンライン授業をがんばりたい。

5.2 介護の専門性について

- ・ 介護は人と関わることが大事。学校で2年間勉強をたくさんして、学校に通っていない人とは違うと思っている。

施設・事業所の職員

1 基本情報

1.1 外国人介護職員の就労状況

- ・ 現在の在籍人数は、4名（うち、介護3名、看護1名）
- ・ 在留資格・国籍別では、在留資格「介護」2名（留学→在留資格「介護」）／モンゴル出身、在留資格「医療」1名（留学→在留資格「医療」）／モンゴル出身、「留学」1名／モンゴル出身
- ・ 受け入れてきた外国人介護職員はN1、N2など高い日本語能力レベルの人が多く、最初からN3以上として受け入れているため、外国人介護職員の日本語力で困ったことはない。
- ・ 介護福祉士国家試験は、これまで2名の外国人介護職員が受験し、共に不合格。留学生と日本人分け隔てなく、落ちたらまた受けるように施設として伝えている。

1.2 受け入れのきっかけ

- ・ サンライズ・ネットワークスから留学生を受け入れる形で受け入れを開始した。
- ・ 2018年4月に初めて、留学生から介護福祉士をとった方を正式な職員として受け入れた（現在は退職）。在留資格「介護」は、現在留学生プログラムのみ受け入れている。

※補足：留学生プログラム「公益社団法人 サンライズ・ネットワークス」

外国人の留学生～特定技能、技能実習を受け入れるのにあたり、まずは留学生を受け入れようと、関連法人である「公益社団法人 サンライズ・ネットワークス」を立ち上げた。

サンライズ・ネットワークスは富山県内の3つの医療法人（紫蘭会、双星会、五省会）が母体となってできた団体で、留学生、監理団体、登録支援機関を担っている。

1.3 法人の受け入れ方針

- ・ 雇用したい在留資格に違いはない。関連法人と連携して受け入れていくつもりである。
- ・ 将来に投資するために土壌を作るという意図で、外国人介護職員に取り組んでいる。

2 活躍の実際

2.1 在留資格「介護」の方の施設内における立場

- ・ 日本人と外国人の違いはない。等級制度の人事制度であり、基本的には資格を持っている方がリーダーとなるが、基準表にならう。

2.2 日本人職員との業務や待遇の違い

- ・ 業務や処遇の違いはない。日本人も同等に外国人も等級が上がれば、役職がつく。
- ・ 人事制度は基準も賃金表も含めオープンにしている。

2.3 活躍の状況

- ・ 日本人職員と同じように働いている。
- ・ みどり苑でイベントをする際には、民族衣装を着たり、母国の料理を紹介したりと、利用者に喜んでもらっている。

2.4 期待すること

- ・ キャリアを積んでもらい、今後外国人を受け入れていくときにリーダーになってほしいという思いはある。

3 支援内容

3.1 外国人介護職員全般に行っている支援

- ・ 外国人だから特別に何かしているわけではない。
- ・ 日本語については、富山弁の講座を開いたり、方言のマニュアル（富山県庁の厚生部作成）を活用している。

3.2 在留資格「介護」の方に行っている支援

- ・ 留学生時代のアルバイトの受け入れ。
- ・ 介護福祉士として入職した後は、基本的には日本人と同様の福利厚生制度だが、住居に関しては日本人よりは手厚くサポートをしている。住宅手当の適用範囲が日本人は期間が限定されているが、外国人の場合は期間限定になっていない（支給適用範囲の特例）。

3.3 介護福祉士取得のために行っている支援

- ・ 富山県内の養成施設などで講師として行っている職員が現場に何人かおり、施設に勤務しているため、個別に教えてもらう。学習支援は特設設けてはおらず、個別対応になる。
- ・ 外国人介護職員のみに行う支援としては、サンライズ・ネットワークスの留学生プログラムの中に、国試対策の費用も法人負担というルールがあり、そのルールの中で支援をしている。模擬や受験費用、学費は法人が負担をする。
- ・ サンライズ・ネットワークス、学校、法人が常に情報共有をしている。

4 在留資格「介護」受け入れによる変化

4.1 法人や施設での変化

- ・ 整えた体制や制度については、課題が発生すれば、その都度変えていく。日本人と同じルールで息詰まるところは都度変えている。
- ・ 情報の共有はリアルタイムに LINE 等で共有している。人事もサポートをするが、現場では上席者が外国人介護職員の担当となり、サポートをする。こうした体制が徐々に慣れてきた。

4.2 日本人職員の変化

- ・ 日本人職員のハードルや抵抗感がなくなっている。外国人を入れていく土壌はできたと感じる。

5 課題

5.1 在留資格「介護」を雇用する際の課題

- ・ 現状の課題は特にない。

5.2 今後、在留資格「介護」の方が活躍するために必要なこと

- ・ 日本で働くことのモチベーションの維持をどう形成していくか。特に家族が一番のモチベーションになっている場合、どうサポートできるか。